

StandbyDisk Solo v2.1 日本語版

リファレンス マニュアル



StandbyDisk Solo 使用許諾契約書

本使用許諾契約書(以下「本契約書」といいます)は、ソフトウェア製品StandbyDisk Solo(以下「本ソフトウェア」といいます)に関してお客様(個人または法人のいずれであるかを問いません)と株式会社ネットジャパン(以下「ネットジャパン」といいます。)との間で締結される法的な契約書です。本ソフトウェアは、コンピュータソフトウェア、関連した媒体、および印刷物、オンラインマニュアルを含みます。本ソフトウェアをインストール、複製、ダウンロード、アクセス、または使用することによって、お客様は本契約書の条項に従う旨、同意したことになります。本契約書の条項に同意されない場合には、CDキャラメル包装を開封せず、パッケージを直ちに購入場所に返却してください。

本ソフトウェアは、著作権法および著作権に関する条約をはじめ、その他の無体財産権に関する法律ならびに条約によって保護されています。

1. ライセンスの許諾 本契約書はお客様に以下の権利を許諾します。

(1) お客様は本ソフトウェアを、購入ライセンス数、特定のコンピュータ上で使用することができます。購入ライセンス数は同梱のライセンス証書または登録用紙に印刷されています。

(2) バックアップ目的でのみ、本ソフトウェアのコピーを一部作成することができます。コピーには本ソフトウェアに含まれている全ての著作権表示を必ず含んでコピーしてください。

(3) 本契約書に特に規定されていない権利は全てネットジャパンおよび第三者が保有します。

2. その他の権利と制限

(1) 移管 お客様は、本ソフトウェアをお客様が所有する他のコンピュータに移管することができます。移管する際、移管前のコンピュータから本ソフトウェアを消去しなくてはなりません。

(2) 制限 お客様は、本ソフトウェアへの修正、追加、および本ソフトウェアをリバースエンジニアリング、逆コンパイル、または逆アセンブルしてはなりません。

(3) 体験版 お客様が入手された本ソフトウェアに、「体験版」または「NFR」と明記されている場合は、本契約書の他の規定に関わらず、お客様は、本ソフトウェアをデモンストレーション、テストまたは評価の目的で使用することができますが、それ以外の目的で使用することはできません。

(4) レンタルおよび再販 お客様は本ソフトウェアをレンタル、リース、貸与、再販、譲渡することはできません。

(5) 契約の解除 お客様が本契約書の条項および条件に違反した場合、ネットジャパンは本契約を解除することができます。そのような場合には、お客様は本ソフトウェアのコピーも含めてその構成部分を全て破棄しなくてはなりません。

3. 輸出規制

お客様は、本ソフトウェアを日本およびアメリカ合衆国の輸出規制の対象である国、個人あるいは法人に輸出または再輸出しないことに同意したものとします。

4. 限定的保証

(1) ネットジャパンは、本ソフトウェアが付属のマニュアルに従って実質的に動作しない場合または本ソフトウェアの媒体またはマニュアルに物理的な瑕疵がある場合に、お買い上げ後90日間に限り、ネットジャパンの判断に基づき、交換、修理、または代金返還のいずれかにより対応するものとします。

(2) 上記(1)の対応は、お客様が本ソフトウェアを購入したことを証する領収書とともに本ソフトウェアをネットジャパンに返却した場合にのみ提供されます。

(3) ネットジャパンは、本ソフトウェアに関して、明示、黙示を問わず、本契約書に規定されていない商品性および特定の目的に対する適合性を含むその他の保証を一切いたしません。

(4) ネットジャパンはいかなる場合も、本ソフトウェアの使用不能から生じる本契約書に規定されていないその他の損害(逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失またはその他の金銭的損害を含みますが、これらに限定されません)に関して、一切責任を負わないものとします。例え、ネットジャパンがそのような損害の可能性について知らされていた場合でも同様です。いかなる場合においても、本契約書に基づくネットジャパンの責任は、本ソフトウェアについてお客様が支払った金額を上限とします。

5. 準拠法

本契約書は、日本国法に準拠します。

本契約書に関して不明な点がありましたら、[ネットジャパン](#)に書面にてご連絡いただけますよう、お願いいたします。

本書に記載の内容は予告なしに変更される場合があります。

© Copyright 2003 StandbySoft LLC All rights reserved.

Microsoft, Windows, Windows 2000, Windows NT 及び Windows XP は、Microsoft Corporation の登録商標です。

StandbyDisk 2000-XP Pro, StandbyDisk NTSVR は株式会社ネットジャパンの商標です。

他の全ての製品名およびブランド名は各社の商標または登録商標です。

StandbySoft LLCの書面による許可がない限り、一部または全部を無断で転載、複写、複製することはできません。

目次:

| | | |
|------------|--------------------------------|-----------|
| 第1章 | はじめに | 8 |
| 第1節 | StandbyDisk Soloの概要..... | 8 |
| 第2節 | 想定される使用法..... | 9 |
| 1. | 通常の利用法..... | 9 |
| 2. | 上級者向けの利用法..... | 9 |
| 第2章 | システムの必要条件動作環境 | 10 |
| 第3章 | クイックスタート | 12 |
| 第1節 | インストール時の注意点..... | 12 |
| 第2節 | 初めて使用する際の注意点..... | 12 |
| 1. | ボリュームを更新する..... | 12 |
| 2. | 更新スケジュール..... | 12 |
| 3. | ファイル／フォルダの復旧..... | 13 |
| 4. | スタンバイエリアの確認..... | 13 |
| 5. | その他..... | 13 |
| 第4章 | インストール | 14 |
| 第1節 | インストールに必要な環境..... | 14 |
| 第2節 | インストール手順..... | 15 |
| 第5章 | 基本機能解説 | 16 |
| 第1節 | StandbyDisk Soloエクスプローラ..... | 16 |
| 第2節 | ボリュームの保護を有効にする..... | 18 |
| 第3節 | スタンバイエリア..... | 20 |
| 第4節 | スタンバイエリアをボリューム更新する..... | 20 |
| 第5節 | ファイル／フォルダをスタンバイエリアへ個別更新する..... | 22 |

| | | |
|------------|---------------------------------|-----------|
| 第6節 | 更新スケジュールを登録する | 22 |
| 第7節 | レスキュー起動 | 24 |
| 1. | レスキュー起動の準備 | 24 |
| 2. | レスキュー起動するには | 24 |
| 3. | [レスキュー設定]タブ | 25 |
| 4. | テストレスキュー起動 | 25 |
| 第8節 | スタンバイエリアからのファイル／フォルダの個別復旧 | 27 |
| 第9節 | ファイルを検索する | 28 |
| 第10節 | StandbyDisk Soloの各種設定 | 29 |
| 第11節 | データ障害を回避するには | 30 |
| 第12節 | 障害が発生した場合 | 31 |
| 第13節 | 保護の解除 | 32 |
| 第14節 | アップグレード及びアンインストール | 33 |
| 第6章 | インターフェイス解説 | 34 |
| 第1節 | StandbyDisk Soloエクスプローラ | 34 |
| 1. | 「StandbyDisk Soloの管理」画面 | 34 |
| 2. | 「StandbyDisk Soloで保護可能なボリューム」画面 | 36 |
| 3. | 「カレント／スタンバイ ファイル比較」画面 | 37 |
| 4. | 「プロパティ」機能 | 40 |
| 5. | 「スタンバイ状態によるフィルタ」機能 | 42 |
| 第2節 | StandbyDisk Soloタスクビューワ | 42 |
| 1. | タスクビューワ | 42 |
| 2. | メニューバー | 43 |
| 3. | タスクトレイアイコン | 44 |
| 第3節 | 「StandbyDisk Soloの設定」画面 | 45 |
| 1. | [管理]タブ | 45 |
| 2. | [スケジュール]タブ | 47 |
| 3. | [セット]タブ | 48 |
| 4. | [レスキュー設定]タブ | 49 |
| 5. | [イベントログ]タブ | 51 |
| 6. | [バージョン情報]タブ | 52 |
| 第4節 | スケジュールウィザード | 53 |
| 1. | 「スケジュールウィザードへようこそ」画面 | 53 |
| 2. | 「アドミニストレータ権限のあるアカウント情報を入力」画面 | 54 |

| | |
|----------------------------------|----|
| 3. 「スケジュールタスクで更新する項目の選択」画面 | 55 |
| 4. 「セットを指定/作成する」画面 | 56 |
| 5. 「更新する項目」画面 | 57 |
| 6. 「更新時間を選択してください」画面 | 58 |
| 7. 「タスク名」画面 | 59 |
| 8. 完了ページ | 60 |

| | |
|-----------------------------|----|
| 第5節 「パスワード管理」画面 | 62 |
|-----------------------------|----|

| | |
|----------------------------|----|
| 第6節 「検索エンジン」画面 | 63 |
|----------------------------|----|

| | |
|----------------------------|----|
| 第7節 各種メッセージ&警告 | 64 |
|----------------------------|----|

| | |
|---------------------------------|----|
| 1. 「警告: 空き領域不足」メッセージ | 64 |
| 2. 「保護の解除の確認」メッセージ | 65 |
| 3. 「キャンセル」の確認ダイアログ | 66 |
| 4. 「レスキュー起動のテストの警告」メッセージ | 66 |
| 5. 「ファイル・フォルダの復旧の確認」メッセージ | 67 |
| 6. 「ボリュームの保護の確認」メッセージ | 67 |
| 7. 「ボリューム更新を確認する」メッセージ | 68 |
| 8. 「レスキュー起動後の更新について」メッセージ | 69 |

| | |
|--------------------------|-----------|
| 第7章 上級者向け解説 | 70 |
|--------------------------|-----------|

| | |
|-------------------------------|----|
| 第1節 「レスキュー可」にならない | 70 |
|-------------------------------|----|

| | |
|------------------------------|----|
| 第2節 上級者向けレスキュー起動 | 70 |
|------------------------------|----|

| | |
|--|----|
| 1. Standby Disk Soloでレスキュー起動する方法 | 70 |
| 2. レスキュー起動と起動回数 | 71 |

| | |
|-----------------------|----|
| 第3節 起動の失敗 | 71 |
|-----------------------|----|

| | |
|--|----|
| 第4節 アドミニストレータ権限のないユーザーに関して | 72 |
|--|----|

| | |
|--------------------------|----|
| 1. 使用制限 | 72 |
| 2. インストールとアンインストール | 72 |
| 3. 更新スケジュールの登録: | 73 |

| | |
|-----------------------------------|----|
| 第5節 イベントログ/アプリケーションログ | 73 |
|-----------------------------------|----|

| | |
|--------------------------|----|
| 1. イベントログの参照方法 | 73 |
| 2. アプリケーションログの参照方法 | 73 |
| 3. 利用法 | 73 |

| | |
|---------------------------------|----|
| 第6節 レジストリとフォルダ設定の同期 | 74 |
|---------------------------------|----|

| | |
|--------------------------|----|
| 第7節 ブートマネージャ | 74 |
|--------------------------|----|

| | |
|---------------------------|----|
| 第8節 特殊なファイルの例 | 75 |
|---------------------------|----|

| | |
|-------------------------|----|
| 1. 更新されないファイルについて | 75 |
|-------------------------|----|

| | | |
|------|------------------------|----|
| 第9節 | 更新スケジュールにおける問題 | 76 |
| 第10節 | ディスクの空き容量に関して | 76 |
| 第11節 | ユーザーの簡易切り替え機能(FUS)との併用 | 79 |
| 第12節 | ユーザー単位のディスククォータ機能 | 79 |
| 第13節 | マウントされたボリュームの取り扱い | 79 |
| 第14節 | ドメイン型ネットワークにおけるトラストの破壊 | 80 |
| 付録1 | 用語の説明 | 81 |
| 付録2 | コマンドおよびパラメータ | 82 |
| 索引 | 85 | |

第1章 はじめに

第1節 StandbyDisk Soloの概要

StandbyDisk Soloは、データ障害回避&復旧ユーティリティです。

このユーティリティは、システムボリューム(通常ボリュームC:)と同一の内容を、スタンバイエリアと呼ばれる領域にコピーし、万一の事態に備えます。スタンバイエリアは、同じボリューム内のアクセス不可能な領域に作成され、システムボリューム上では通常は見えないようになっています。StandbyDisk Soloは、起動可能なシステムボリュームのみを保護することができます。したがって、このユーティリティを効果的に使用するために、重要なファイルはシステムボリューム上に置くことをお勧めします。

StandbyDisk Soloは、他のバックアップ、復元を行うユーティリティ製品と併せて使用することを考慮して設計されています。

別のメディアにバックアップを行うことは、一般的に非常に有効な手段です。StandbyDisk Solo導入後に、これまで定期的に行っていたバックアップ作業をやめてしまうのはお勧めできません。より信頼性の高い復旧環境を作り上げるには、StandbyDisk Soloの導入の他に、通常パソコンメーカーから提供されるシステムの復旧(リカバリ)ディスクと、最近まで使用していたシステムのバックアップイメージを保存しておくことを推奨します。

それでは、StandbyDisk Soloを導入する利点はどのようなところにあるのでしょうか？

StandbyDisk Soloを使用していれば、今後、システムに何らかの致命的な問題が起きた場合に、システムを再起動するのと同じ感覚で(そして、まさにそれと同じだけの時間で)、ほぼ問題なく復旧させることができます。たとえ問題が発生した事によって、最近作成したファイル、あるいは最近修正したファイルが失われてしまったかのように見えても、復旧できる可能性もまだ残されています。

さらに、緊急時用の起動システムとなるスタンバイエリアが正常に動作するのかどうかを事前に検証することも可能です。これによって、問題が発生したときにスタンバイされている内容で正常に起動できるかどうか、利用できるかどうかなどを心配する必要はなくなります。スタンバイエリアは、現在のシステムと共に、オペレーティングシステム(OS)によって絶えず監視検査され、発見された問題は随時修復されますので、復旧をより確実にします。

StandbyDisk Soloをお買い上げいただきましてありがとうございました。StandbyDisk Soloは、最小限のコストで、すばやくデータ障害からシステムを回復させます。これによりお客様は、安心してシステムをご利用できるようになるでしょう。

第2節 想定される使用法

StandbyDisk Soloは、初級者、および中・上級者の幅広いニーズに対応しています。

1. 通常の利用法

まず、システムボリュームの全内容をスタンバイエリアへ毎月定期的に更新するように設定します。それと同時に、マイドキュメントのような頻繁に使用するファイルやフォルダについては毎晩更新させる...といった設定を行います。このようにして常にスタンバイエリアを現在のボリュームに近い状態に保ち続けることで、もしもソフトウェアに問題が発生した場合やユーザーの誤操作によってシステムが再起動しなくなった場合に備えるのです。

万が一緊急事態が発生した際にはレスキュー起動メニューを表示させ、使用していたシステムボリュームの内容をこれまで定期的に更新してきたスタンバイエリアの内容と瞬時に切り替えることができます。システムは、スタンバイエリア内にこれまで保持されていた起動可能なシステムより起動します。

レスキュー起動後、現在動作しているシステムをスタンバイエリアへ更新するようにメッセージが表示されます。これにしたがって更新を完了させると、次に問題が生じた場合に対応することができます。

2. 上級者向けの利用法

レスキュー起動の後、システムは正常に動作しますが、この状態のファイル構成は最新ではありません。システムが正常に復帰したことで、ピンチは切り抜けましたが、できれば、先ほどまで作業していた内容を取り戻したい...。このようなときに、作業中の最新ファイルや、定期的なスケジュール更新のリストから漏れていたファイルなどを、個別に復旧させるというオプションがあります。

個別復旧を行うためには、カレントエリアとスタンバイエリア上にある同一ファイルの比較を行います。これにはStandbyDisk Soloエクスプローラの「カレント／スタンバイ ファイル比較」表示機能を有効活用します。

また、応用的な使い方として次のようなことも可能です。たとえば、OSの更新の際、あるいは新しいアプリケーションの追加や変更などの際に、事前に現在のきちんと動作するシステムをスタンバイエリアに更新しておきます。その上で、OSやアプリケーションなどを追加・変更し、動作を確認します。しばらく使用して、問題が無ければそのままの状態で使用を継続することができます。問題があれば、レスキュー起動をし、スタンバイエリアに保管されていた元の自分のシステム状態に戻せます。そのまま継続的に使用する場合には、緊急事態に備えて、StandbyDisk Soloのボリューム更新を手動で実行します。これにより、スタンバイエリア内にあった旧システムは破棄され、代わりに現在正常に動作している新しいシステムが新たにスタンバイエリアにコピーされます。

さらに、更新されたスタンバイエリアが本当に起動可能かどうかのチェックを行うことも可能です。「テストレスキュー起動」と呼ばれるこの機能を利用すれば、レスキュー起動が可能かどうか、すべてのユーザーファイルが利用可能かどうかを確認できます。StandbyDisk Soloの設定ダイアログにある[レスキュー設定]タブよりテストレスキュー起動を行うと、システムは直ぐにシャットダウンされ、テストレスキュー起動モードで立ち上がります。このときにレスキュー起動されたシステムの状態を確認することができます。確認後に、再び再起動するとテスト前のシステム状態に戻ります。

このように、StandbyDisk Soloの最もユニークな特徴は、通常利用されているファイルシステム上の隠れた場所にファイルをコピーし、別のファイルとして保存することです。この基本機能により、問題解決が高速に行われるのです。

第2章 システムの必要条件動作環境

StandbyDisk Soloは、Microsoft Windows 2000 Professional、Windows 2000 Server(注意)、もしくは Windows XP Professional、Windows XP Home Edition上で動作します。ハードウェアの仕様は、オペレーティングシステム(OS)の推奨するシステムに準拠します。

システムボリュームはNTFSまたはFAT32でフォーマットされ、アクティブパーティション(※通常システムが起動するボリュームはアクティブに設定されています。)に設定されている必要があります。保護するファイルは起動ボリューム(システムボリューム)の中になければなりません。StandbyDisk Soloをインストールする前に、システムボリュームに対して50%以上の空き容量を確保してください。

注意: Windows2000 Server でご使用の場合、以下のサポート制限があります。

- ドメインサーバ、アクティブディレクトリサーバでは使用することができません。
 - データベース、MRP などのデータをメモリ上に展開するアプリケーションをご使用の場合、最新のバックアップを取るためには差分バックアップ時にサービスを停止させるかアプリケーションを終了させる必要があります。
-
- 対応OS: Windows 2000 Professional、Windows 2000 Server (上記注意参照)、もしくは Windows XP Professional、Windows XP Home Edition
 - NTFSまたはFAT32でフォーマットされたボリュームに対応。
 - StandbyDisk Soloをインストールする前に、空き領域をボリューム全体の50%以上確保してください。ボリューム保護を解除した後でも、StandbyDisk Soloを使用する場合は、常に50%以上の空き領域が必要になります。
 - 起動可能なシステムボリューム(※)のみ保護することができます。
 - 現在のシステムボリュームがアクティブと表記されたパーティションから直接システムを起動させるタイプのブートマネージャーユーティリティのみに対応。他のタイプはサポートされません。アプリケーションによってロックされている圧縮ファイルは、スタンバイエリアへの更新及び復旧はできません。
 - システムボリューム上でのユーザー単位によるディスククォータ機能には対応していません。
 - ディスククォータをシステムボリューム上で利用している場合には、StandbyDisk Soloをインストールする前に必ずユーザーディスククォータをオフにしておく必要があります。ディスククォータが有効な場合にはStandbyDisk Soloの更新作業が正常に終了しません。StandbyDisk Soloはスタンバイエリア更新の際にユーザーのディスク使用量が2倍に増えるので、システムボリュームにユーザー単位のクォータが設定されていると、ユーザーのクォータを超えてしまった場合にファイルの書き込みができなくなり、更新作業は失敗してしまいます。なお、StandbyDisk Soloによって保護されていないボリュームに対してディスククォータを設定することは可能です。
 - Windows XPの新機能であるユーザーの簡易切り替え(FUS:Fast User Switching) が有効になっている場合には、他のユーザーの作業内容を確認の上で本製品を使用してください。
 - Windows XPの新機能である[システムの復元]で作成されたチェックポイントに戻す場合は、StandbyDisk Soloの[ボリューム更新]ボタンを使用して再度ボリューム更新を行います。
 - 本製品を使用するには、アドミニストレータ権限が必要になります。他のユーザーからは利用できません。ただし、緊急事態の復旧措置であるレスキュー起動に関しては、どのユーザーでも使用することができます(レスキュー可の場合のみ)。

- Windows 95/98/Me/NT, DOS, Linux, Mac OSなど、他のオペレーティングシステム(OS)には対応していません。
- StandbyDisk Soloはマウントされたファイルシステムに対応していません。StandbyDisk Soloの比較表示では、マウントポイントはフォルダとして扱われるため、更新・復旧可能なように見えますが、実際は他のボリューム上にあるため、保護することができません。本製品では、システムボリュームの内容だけを保護の対象としています。
- StandbyDisk Soloとディスクへの無制限なアクセス権が与えられているディスク管理ユーティリティを併用した場合、使用方法によってはStandbyDisk Soloの保護機能に障害が与えられる可能性があります。StandbyDisk Soloとこれらのディスク管理ユーティリティとの併用は、機能を十分に理解した上で行う以外は避けるようにしてください。
- ロキシオ社のGoBackとStandbyDisk Soloを併用することはできません。GoBackがインストールされているシステムをバックアップすることはできません。
- エー・アイ・ソフト社のDiskX Toolsを使用する場合は、StandbyDisk Soloのスタンバイエリア内のファイルを削除しないように十分注意します。DiskX Tools内の[インターネットモニター]でハードディスク内を監視中にStandbyDisk Soloのスタンバイエリアが更新されると、その更新されたファイルが[インターネットモニター]の削除ファイルリストに登録されてしまいます。これらのファイルを削除するとStandbyDisk Soloで正常なレスキュー起動ができなくなる場合があります。DiskX Toolsの[インターネットモニター]でハードディスク内を監視する場合は、その監視中にStandbyDisk Soloのボリューム更新またはスケジュール更新を行わないようにします。

※ Windowsのコンピュータの管理(コントロールパネルの管理ツール内)より、ディスク管理を選択する。表示されたボリュームの中に(システム)と併記されているボリュームがシステムボリュームになる。

第3章 クイックスタート

第1節 インストール時の注意点

詳しいインストールの仕方は、「第4章 インストール」を参照して下さい。
以下にインストールする際の注意点を挙げます。

- インストールをする前に必ずディスクの空き容量が50%以上あるかどうかを確認してください。
- StandbyDisk Soloをインストール前に、システム ボリューム上にエラーがないかどうか確認し、断片化の修正(最適化)を行っておくことを推奨します。最適化を行う方法としては、エクスプローラ上からシステム ボリュームを右クリックで選択した後に [プロパティ]を選び、[ツール]タブから[エラーチェック]あるいは[最適化]の項目を選択することができます。
- 現在のシステムが正常に動作しているかどうか確認してください。
- 使用中のシステムがウィルスなどに感染されていないか、デバイスドライバなどに問題がないかを確認して下さい。
- StandbyDisk SoloのインストールCDをCD-ROMドライブに挿入すると、自動的にインストール作業が開始されます。特に問題がなければ、既定の情報のまま進んで問題ありません。ただし、会社名とシリアル番号だけは必ず入力して下さい。また、使用許諾契約書に対しては[はい]をクリックして同意しないと本製品はインストールできません。同意できない場合は、[いいえ]をクリックしてインストール作業を終了して下さい。

第2節 初めて使用する際の注意点

ここでは、初めて使用する際の注意点を簡単に解説します。詳しい内容については、「第5章 基本機能解説」(p. 16)を参照して下さい。

1. ボリュームを更新する

インストールの最後で、[StandbyDisk Soloを起動する]チェックボックスがマークされているのを確認して、インストールウィザードを終了します。

インストール終了後、「StandbyDisk Soloで保護可能なボリューム」画面が表示されます。この画面で、保護するボリュームを選択し、[ボリューム更新]ボタンをクリックします。その後、ダイアログでボリューム更新を今すぐ行うかどうかのメッセージが表示されます。[はい]と答えて次へ進みます。

もしディスク領域が足りないと警告が表示された場合には[いいえ]を選択したのち、「第7章/第10節 ディスクの空き容量に関して」(p. 76)を参照してください。

2. 更新スケジュール

スタンバイエリアを自動的に更新するには、更新スケジュールに更新のためのタスクを登録します。

エクスプローラ上のStandbyDisk Soloのメイン画面から、[更新スケジュール]ボタンをクリックすると、[スケジュール]タブが開きます。[スケジュール]タブでは、スケジュールの新規作成、編集、削除などが

行えます。

[新規]ボタンをクリックすると、スケジュールウィザードが開きます。ウィザードの指示どおりに設定することによって、ボリューム全体の更新スケジュールや、ファイル／フォルダ単位の更新をスケジュールに登録することが可能です。たとえば、マイドキュメントなどの頻繁に使用する作業フォルダの内容をスタンバイエリアに定期的に更新するのは、非常に効率的です。初めてのボリューム更新作業以外は、すべて差分更新(変更、追加された部分のみを更新すること。)なので時間はあまりかかりません。このため、他の作業にスケジュールされた更新タスクがバックグラウンドで実行されていても、それほどパソコンのパフォーマンスは低下しません。ただし、更新タスクが実行できないケースもありますので、詳しくは「第7章/第9節 更新スケジュールにおける問題」(p. 76)の項目を参照して下さい。

3. ファイル／フォルダの復旧

レスキュー起動を行ったのち、スタンバイエリアからファイルを個別に復旧したい場合は、「スタンバイエリアからのファイル／フォルダの復旧」のヘルプ項目を参照してください。

万が一カレントエリア内のファイルに問題があった場合でも、スタンバイエリアに更新したファイルが存在する場合は、そのファイルを復旧させることが可能です。この作業の詳細については「第5章/第8節 スタンバイエリアからのファイル／フォルダの個別復旧」(p. 27)を参照してください。

4. スタンバイエリアの確認

スタンバイエリアに保存されているシステムの状態を安全な方法で確認したいときは「第5章/第7節/4. テストレスキュー起動」(p. 25)の解説を参照してください。

5. その他

StandbyDisk Soloのさらに詳細な使用方法に関しては、「第5章 基本機能解説」(p. 16)、及び「第6章 インターフェイス解説」(p. 34)を参照して下さい。

第4章 インストール

下記の方法でStandbyDisk Soloが快適に動作する環境を整え、ボリュームの保護に備えます。

- まず、システムボリューム(通常C:ドライブ)の空き容量を確認します。StandbyDisk Soloは現在のボリューム使用量を約2倍に増やします。また、新規ファイルを作成する場合、そのファイルを保護するたびに、個々のファイル容量の2倍のボリューム容量が必要となりますので、空き容量が十分にあることをまず確認して下さい。
- インストール前のシステムがウィルスなどに感染していないかを確認して下さい。
- StandbyDisk Soloをインストールする前に、ハードディスクにエラーがないかどうか確認し、断片化を修正することを推奨します。代表的な方法として、システムボリュームをエクスプローラ上から右クリックで選択した後に [プロパティ]を選び、[ツール]タブから[エラーチェック]あるいは[最適化]の項目を選択することができます。
- コンピュータ上のシステム時間と日付が正しいかどうかを確認し、StandbyDisk Soloのインストール作業を行って下さい。

第1節 インストールに必要な環境

- 本製品は、Windows 2000あるいはWindows XP上でご使用いただけます。StandbyDisk Soloをインストールするコンピュータは基本的にOSが推奨するハードウェア環境が満たされていなければなりません。推奨ハードウェア環境が不明な場合はOSに付属のマニュアルなどをご確認ください。StandbyDisk Soloは、ディスク容量を通常の使用に比べておよそ2倍必要とする以外は、特別な環境は必要としません。
- StandbyDisk Soloで保護するボリュームを決定します。[コントロールパネル] → [管理ツール] → [コンピュータの管理] → [記憶域] → [ディスクの管理]から「システム」と書かれたボリュームを探します。ボリューム操作を特にしていない場合は、通常「C」のドライブ文字(ドライブレター)がこのボリュームに割り当てられているはずです。また、デフォルトのボリューム名は「ローカルディスク」です。ただし、この名称はユーザー側で変更することもできますので、必ずしも「ローカルディスク」という名称が割り当てられているとは限りません。StandbyDisk Soloは、上記のような、OSが起動に使用するシステムを内包するボリューム領域を保護します。
- 上記で解説されたシステムボリュームは、現在ボリューム領域をファイル／フォルダなどで占有している容量と同等以上の領域を必要とします。ですので、エクスプローラ上でマイコンピュータの詳細表示を見たときに、たとえば18GBボリュームの場合はその半分の9GBが最低空き領域として確保されていなければなりません。この場合の推奨空き容量は10GBです。
- StandbyDisk SoloのインストールCDを準備します。

第2節 インストール手順

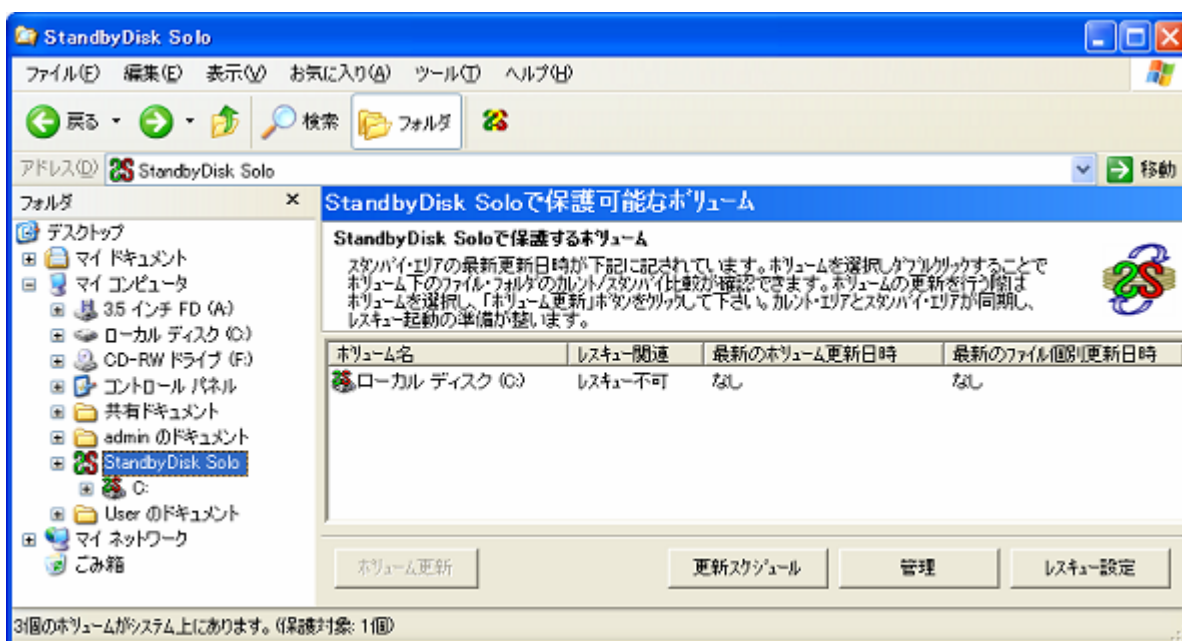
1. インストールCDをCDドライブに挿入すると、セットアッププログラムが自動的に立ち上がります。万が一立ち上がらない場合は、インストールCDから[Setup.exe]と書かれたプログラムを探してダブルクリックによりセットアッププログラムを実行します。
2. インストールが開始されると、StandbyDisk Soloの画面が表示され、次にインストーラのダイアログが表示されます。[次へ]を押すと使用許諾契約書が表示されますので、良くお読みになり、同意される場合は[はい]をクリックして次に進みます。StandbyDisk Soloをインストールするにはこの契約に同意する必要があります。同意されない場合には[いいえ]を押してインストールを中止します。
3. **情報**—インストール時の注意事項を記載したReadme.txtを良くお読みになり、[次へ]をクリックして下さい。
4. **ユーザー情報ダイアログ**—このスクリーンでは、お客様の名前、会社名、StandbyDisk Soloのシリアル番号を入力します。[次へ]をクリックする前にこれらの情報を入力して下さい。
5. **プログラムを保存するフォルダを指定する。**—プログラムのインストール先はデフォルト設定で「Program Files¥NetJapan¥」です。この設定は変更可能で、どのボリュームにインストールしても構いませんが、上記の通り、StandbyDisk Soloはシステムボリュームのみの保護を対象としています。
6. **ファイルのコピーをスタート**—これまでの設定の詳細が記述された画面が表示されます。この画面より先に進むと、これらの情報は変更できませんので、変更する場合には[戻る]ボタンをクリックして情報を入力し直して下さい。StandbyDisk Soloのシステム自体は4MB以下の領域しか必要としません。すでにインストール前に空き領域は確保しているはずですので、これは問題ないでしょう。
7. **管理**—最後にインストール状況を表示する画面が表示されます。インストールが終了した後にStandbyDisk Soloを実際に立ち上げて設定をするかどうかをチェックボックスのオン・オフで設定し終了します。インストールが失敗した場合は、ディスク容量が足りているかどうかを確認し、それでも再度インストールが失敗した場合には製品の発売元に確認して下さい。

第5章 基本機能解説

第1節 StandbyDisk Soloエクスプローラ

StandbyDisk Soloのメイン画面は、ウィンドウズエクスプローラの拡張部分に組み込まれています。StandbyDisk Soloをインストールすると、エクスプローラの通常の機能に加えて、StandbyDisk Soloの独自の機能(スタンバイエリアに関する情報を得たり、スタンバイエリアにあるファイルやフォルダを管理するというような)、を使用することができます。本文中では、このStandbyDisk Soloが組み込まれたエクスプローラをStandbyDisk Soloエクスプローラと呼び、その中でStandbyDisk Soloのメイン画面を表示させることをStandbyDisk Solo表示と呼びます。

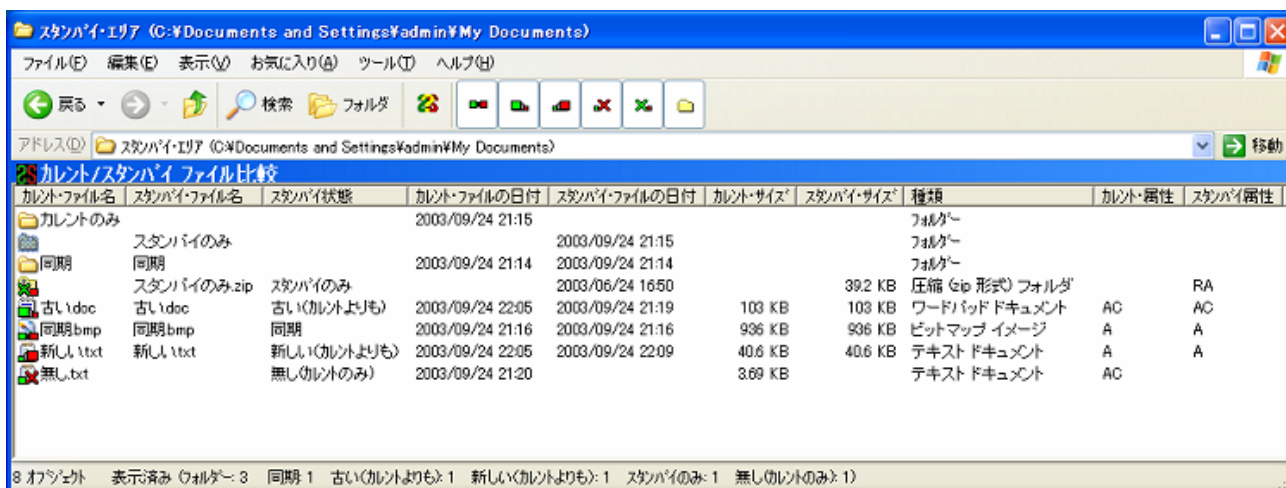
製品をインストールするとすぐにStandbyDisk Soloエクスプローラが起動し、StandbyDisk Solo表示に切り替わり、「StandbyDisk Soloで保護可能なボリューム」画面が表示されます。



この画面では、選択されたボリュームの内容をスタンバイエリアにボリューム更新するためのボタンやStandbyDisk Soloの設定項目の主要な機能を実行するボタンが表示されます。

保護可能なボリュームを選択し、ダブルクリックすると、そのボリュームの内容が保護領域であるスタンバイエリアにどのような状態で保管されているのかを示す「カレント/スタンバイ ファイル比較」画面が表示が切り替わります。

この操作画面では、ファイルやフォルダを手動で更新復旧することができます。



このように、StandbyDisk Soloエクスプローラの画面はその時々状況に合わせて切り替わります。これら二つの画面のどの状態においても、通常のエクスプローラの機能を使用することが可能です。ボリューム上からファイルを閲覧操作する場合には、フォルダツリー上から[マイコンピュータ]の下にあるボリュームを選び、そこからフォルダ／ファイルを参照します。このエクスプローラ画面では、ウィンドウズエクスプローラで通常行うファイル管理と操作方法はすべて一緒です。エクスプローラ画面からStandbyDisk Solo表示に戻すには、フォルダツリーからStandbyDisk Soloアイコンをクリックするか、スタートメニューから[すべてのプログラム(P) / プログラム(P)] → [StandbyDisk Solo] → [StandbyDisk Solo]を選択することで、StandbyDisk SoloエクスプローラによるStandbyDisk Solo表示が可能になります。

また、「StandbyDisk Soloの設定」ウィンドウはエクスプローラのツールバーから[ツール(T)]

→ [StandbyDisk Solo(B)] → [管理(C) / スケジュール(S) / イベントログを見る(V)]で直接各タブにジャンプすることも可能です。[バージョン情報]タブはエクスプローラの [ヘルプ(H)] → [StandbyDisk Soloのバージョン情報(S)]から直接アクセスすることもできます。StandbyDisk Soloヘルプは、エクスプローラ上のStandbyDisk Solo画面にある[?]マークアイコンから参照すると便利です。

なお、StandbyDisk Solo表示は通常のエクスプローラ表示とその表示項目などについて異なるので注意して下さい。

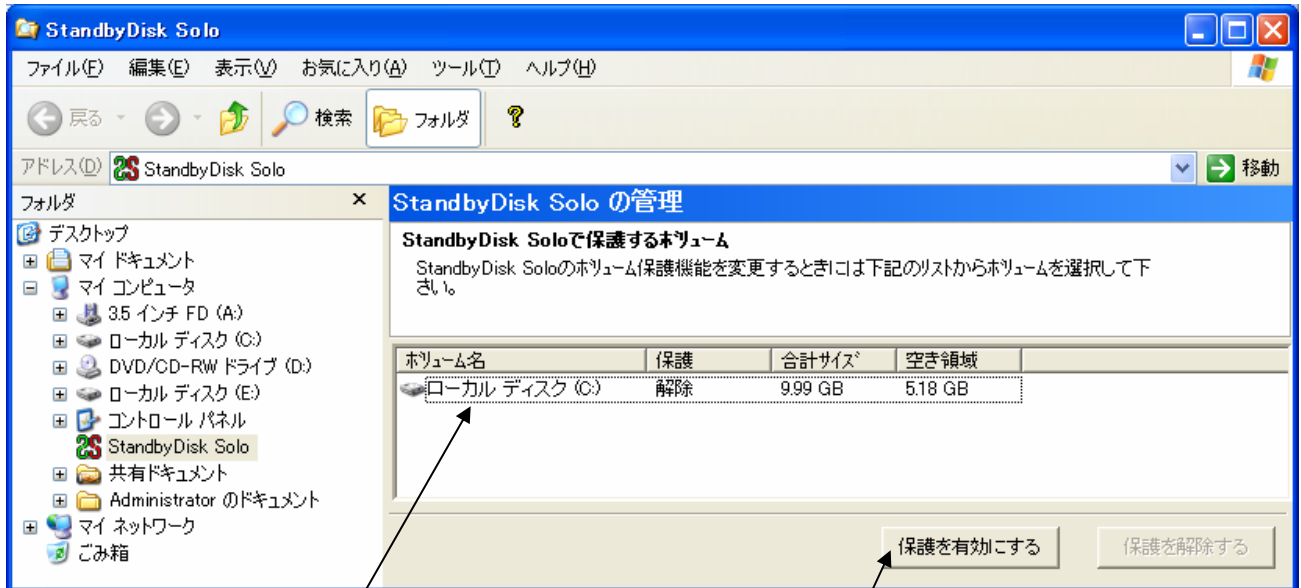
◆まとめ:

- 保護が解除されているとき、StandbyDisk Soloエクスプローラが表示されると「StandbyDisk Soloの管理」画面(p. 34)が表示されます。
- 保護が有効になると、「StandbyDisk Soloで保護可能なボリューム」画面(p. 36)に変わります。
- 「保護可能なボリューム」表示でボリュームをダブルクリックすると、「カレント／スタンバイ ファイル比較」画面(p. 37)に変わります。

第2節 ポリュームの保護を有効にする

StandbyDisk Soloは、ポリュームの保護を有効にして初めてStandbyDisk Soloの保護機能が使えるようになります。インストール直後は自動で保護が有効状態になりますので、あらためて設定をする必要はありません。

保護を解除状態から有効状態に変更する場合、アプリケーションを開始する感覚で[保護を有効にする]ボタンをクリックして下さい。保護を有効にする行為自体は、わずかなディスクスペースしか必要としません。この作業でまず、空のスタンバイエリアが作成されると考えて下さい。



保護するボリュームをリストからクリックして選択してください。クリックするとハイライトされます。StandbyDisk Soloでは、アクティブなシステムボリューム(オペレーティングシステムがインストールされたボリューム)のみを保護することができます。ボリューム更新後、レスキュー可と表示されると、レスキュー起動することができます。通常C:ボリュームが保護されます。

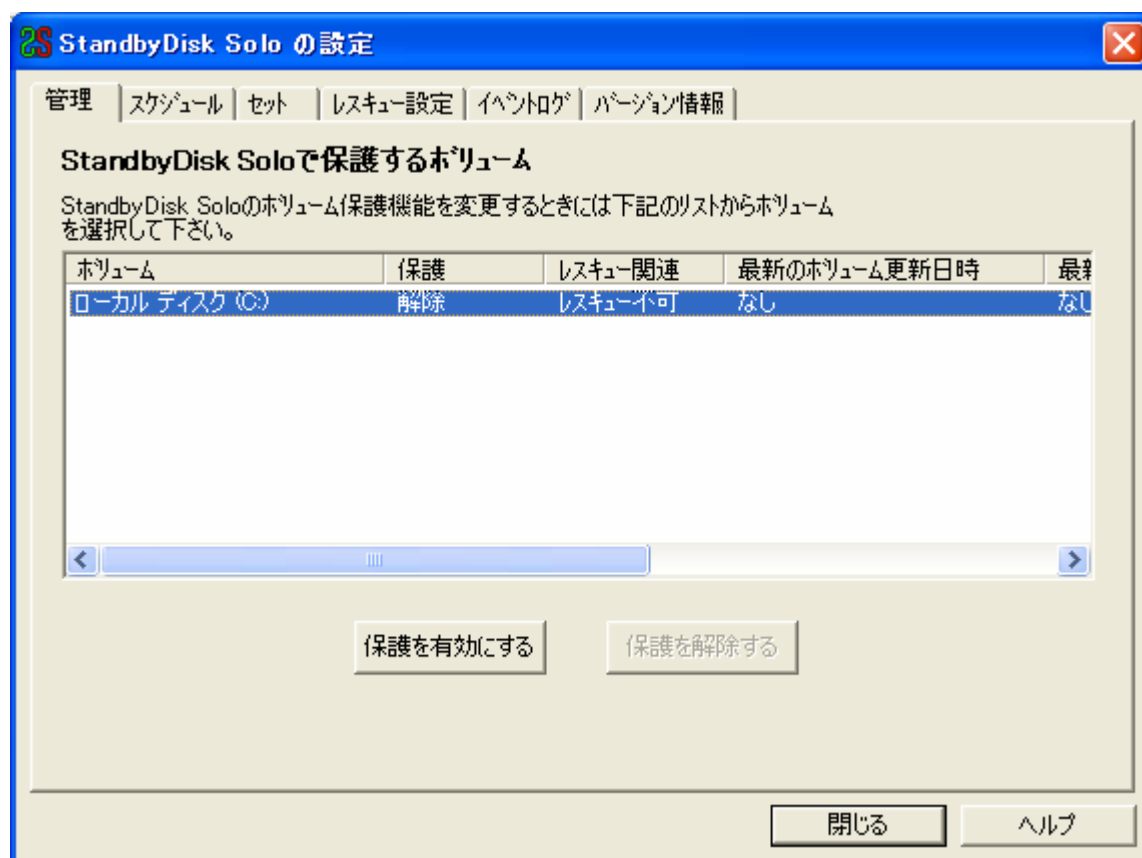
このボタンをクリックし、その次の確認メッセージで確認すると、スタンバイ・エリアが作成されます。(キャンセルすることも可能です。) 保護が有効になると、上記で選択されたシステムボリューム内容が、スタンバイ・エリアへ更新・格納する準備が整います。レスキュー起動を可能状態にするには、このボタンから保護を有効にした後、必ず「ボリューム更新」を行うようにしてください。

ボリュームの保護が有効になれば、スタンバイエリアをボリューム更新して、レスキュー起動に備えることができます。また、その後StandbyDisk Soloエクスプローラを用いて、スタンバイエリアに格納されているファイルやフォルダの有無や更新状況を確認管理することができます。保護が解除された場合、スタンバイエリアはエリアごと削除されますので注意して下さい。当然、その場合レスキュー起動もできなくなります。保護を解除すると、占有されていた領域は空き領域として開放されます。

保護を有効にしようとした場合に、ボリュームに十分な空き領域が無ければ警告メッセージが表示されます。ここで中止することもできますが、そのまま進むこともできます。十分な空き領域が無いまま更新を行った場合、更新タスクはディスクがフルになった段階で、メッセージを表示して中止します。この場合、不完全なボリュームのコピーがスタンバイエリアに置かれますが、レスキュー起動は、有効になりませんので注意してください。ボリューム更新は十分な空き領域を確保してから行うことをお勧めします。

まだ一度も保護を有効にしていない場合、あるいは保護が解除されている状態の場合、StandbyDisk Soloエクスプローラ上の「StandbyDisk Soloの管理」画面はシステムボリューム（通常はC:）の情報を表示しています。保護をするシステムボリュームをマウスで選択し、[保護を有効にする]ボタンをクリックしてください。すると、再確認メッセージが表示され、[はい]をクリックした後、ボリューム更新するかどうかを聞くメッセージが表示されるので、これにも[はい]と答えるとスタンバイエリアをボリューム更新します。

最初のボリューム更新は、システムボリューム上のすべてのファイル／フォルダを、他のディスクなどにコピーする場合と同じ時間がかかります。



StandbyDisk Soloエクスプローラを使用せずにボリュームの保護を有効にするには、Windowsの[スタート]ボタンから[すべてのプログラム(P) / プログラム(P)] → [StandbyDisk Solo] → [設定]を選び、[管理]タブで[保護を有効にする]ボタンをクリックします。

第3節 スタンバイエリア

「スタンバイエリア」というコンセプトが生まれた背景を少し紹介します。

StandbyDisk Soloよりも以前に開発されたStandbyDisk 2000-XP Proという製品では、二つのハードディスクをそれぞれ心臓に見立て、ひとつの心臓がダウンした際には、もうひとつの心臓(スタンバイディスク)が即時機能するイメージで設計されていました。

これに対して、StandbyDisk Soloでは、その名前の通り、ひとつのハードディスクで同様のコンセプトが再現されるように設計された製品です。つまり、ひとつの心臓に二つの心室(領域)があるような状態です。このようなイメージで、StandbyDisk Soloではシステムボリュームの内容が同じボリューム内の別領域に保管される仕組みになっています。

この別の領域を「スタンバイエリア」と呼びます。これに対し、通常使用しているシステムボリューム領域は「カレントエリア」と呼びます。もしもカレントエリア上のシステムに障害が発生したときには、カレントエリアの内容とスタンバイエリアの内容を切り替えて**レスキュー起動**が行われます。StandbyDisk Soloにおいて、スタンバイエリアはシステムボリューム(通常はボリュームC:)内にあり、その中にあるファイルやフォルダ内容が更新されるたびに、動的にサイズが変わります。スタンバイエリアの領域は隠されて見えないようになっているため、Windowsのエクスプローラなどから直接アクセスすることはできません。ただし、そのファイル情報についてのみStandbyDisk Soloエクスプローラの「**カレント/スタンバイ ファイル比較**」画面で確認することができます。

アドミニストレータ権限のあるユーザーがバックグラウンドで更新などを実行してシステムをメンテナンスしている限り、コンピュータをスタンバイエリアの知識のない一般ユーザーが使用しても問題ありません。

通常、オペレーティングシステム(OS)とファイルシステムによって、カレントエリアとスタンバイエリアは随時解析と修復が行われつつ保護されています。それと同時に、StandbyDisk Soloの各種サービスがバックグラウンドでボリューム更新やファイル/フォルダの個別更新のスケジュールといった作業をコントロールし、ボリュームを保護します。

StandbyDisk Soloの操作にはウィンドウズエクスプローラにStandbyDisk Soloの拡張機能がついたファイルブラウザを使用します。これをStandbyDisk Soloエクスプローラと呼びます。スタンバイエリア内のファイルとカレントエリア内のファイルを比較するには、StandbyDisk Soloエクスプローラを、[スタート] → [すべてのプログラム(P)] / プログラム(P) → [StandbyDisk Solo] → [StandbyDisk Solo]の順で開き、[StandbyDisk Solo]から下にあるスタンバイエリア内にあるファイルを開くことで保護されたファイルを参照することができます。

StandbyDisk Soloエクスプローラはウィンドウズエクスプローラの拡張型ですので、通常のエクスプローラの機能と共に使用できます。

第4節 スタンバイエリアをボリューム更新する

スタンバイエリアを**レスキュー起動**可能な状態にするには、必ず一度はボリュームの全内容を丸ごとスタンバイエリアにコピーしなければなりません。次のいずれかの方法でスタンバイエリアをボリューム更新して下さい。

①[スタート] → [すべてのプログラム(P)] / プログラム(P) → [StandbyDisk Solo] → [StandbyDisk Solo]でプログラムを起動し、[ボリューム更新]ボタンを押す

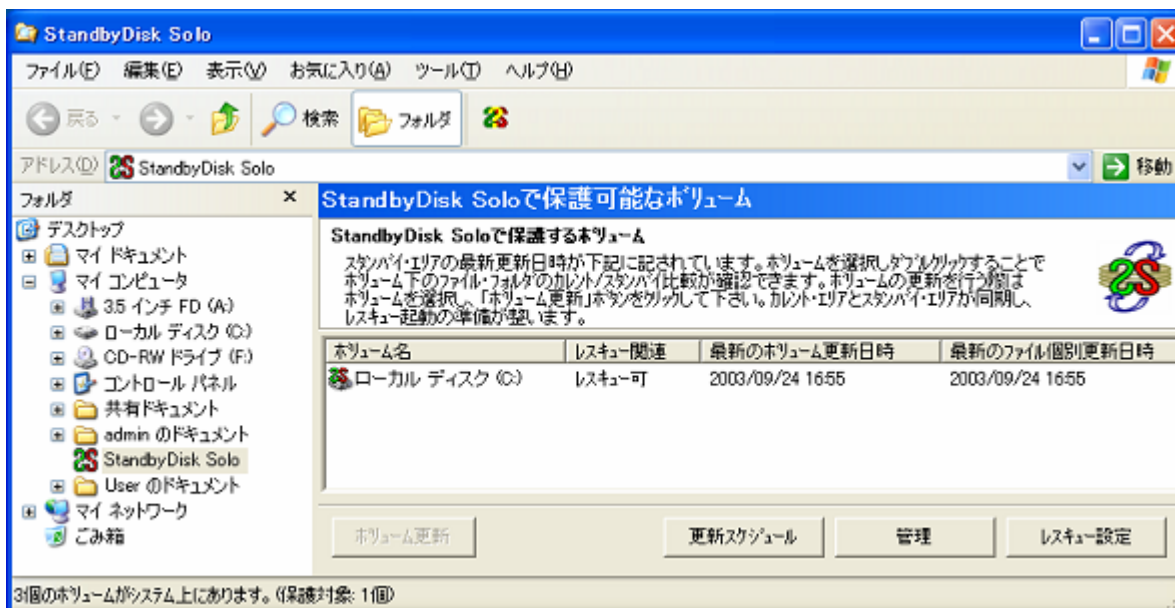
②[スタート] → [すべてのプログラム(P)] / プログラム(P) → [StandbyDisk Solo] → [ユーティリティ] → [ボリューム更新]を選択する。

※②の方法はパスワード機能が有効な場合、パスワード要求ダイアログが表示されます。

スタンバイエリアを選択されているボリュームの内容で更新します。「ボリュームの更新」作業では、選択されたボリュームの内容(カレントエリア)とスタンバイエリアの内容が比較され、内容が同期しているか

どうかのチェックが行われた後に、同期していない項目に関してカレントエリアの内容でスタンバイエリアが更新されます。この作業は20分くらいかかる可能性があります、実行中に作業を中止することもできます。

ボリューム更新作業がとくに問題なく終了するとレスキュー起動が可能となります。レスキュー起動が可能かどうかを確認するには、StandbyDisk Soloエクスプローラ上で保護可能なボリュームの一覧を参照したときに、「レスキュー関連」項目が「レスキュー可」と表示されていることで判断します。



更新作業中に[タスク ビューワ]にエラーが表示された場合、「StandbyDisk Soloの設定」の[イベントログ]タブを参照してエラーの原因をチェックすることができます。考えられる要因としては、ディスク容量不足によるものやロックされた圧縮ファイルの更新を試みた結果の失敗、OSがそもそもコピー不可能なファイルであることなどがあります。詳しくは、

- ディスクの空き容量 (p.76)
- 特殊なファイルの例 (p.75)

の項目を参照してください。

スタンバイエリアをボリューム更新することは、レスキュー起動の準備を整えることに相当します。

レスキュー起動した後は、スタンバイエリアの内容はかつてのカレントエリアの内容と入れ替わっています。そのまま使用を続ける場合には、次の障害に備えるために、再度スタンバイエリアの構築をし直す必要があります。「スタンバイエリアの再構築をすること＝ボリューム更新」と覚えておきましょう。

注)ボリューム更新を行う前に必要なファイルを個別に選択して、スタンバイエリアから復旧させることができます。レスキュー起動後、再度ボリューム更新を行うまで、システムが起動するたびにレスキュー起動の回数と共に、ボリュームの更新を促す警告メッセージが表示されます。

注)StandbyDisk Soloはレスキュー起動後、ボリューム更新が行われるまでは更新スケジュールに登録されているすべてのタスクについて、実行される前にユーザーに確認を取るよう設計されています。

第5節 ファイル/フォルダをスタンバイエリアへ個別更新する

この機能は、StandbyDisk Soloの中核で、ファイルとフォルダの保護を段階的に行えます。

ファイル/フォルダ単位での更新は、StandbyDisk Soloエクスプローラで表示されるファイルを右クリックして手動で行うか、スケジュールウィザードで設定したスケジュールに基づき、ウィンドウタスクスケジューラにより自動的に実行できます。StandbyDisk Soloエクスプローラではカレントファイルとスタンバイファイルの内容を比較した結果を表示します。これにより、内容が異なるファイルやフォルダだけを、カレントエリアからスタンバイエリアへの個別に更新することが可能です。

ほとんどの場合、保護することが明確なファイルであれば、フォルダとその中のファイルを更新して問題ありませんが、以下に述べる2点については更新作業の際に注意が必要です。

まず、ファイルが破壊されていた場合や目的のファイルが失われていた場合です。カレントファイルの状態が不明な場合、問題が修復されるまでスタンバイエリアへのファイル/フォルダの個別更新はボリューム更新と同様に、しない方がよいでしょう。

さらに注意すべきケースとして、スタンバイエリアがレスキュー起動後にまだボリューム更新されていない場合、つまり、スタンバイエリアを上書きするかしないかが決定されていない状態が挙げられます。この状態でスタンバイエリアを更新してしまうと、レスキュー起動後スタンバイエリア内に残された最新のファイル群があるにもかかわらず、これらはすべて上書きされてしまいます。このようなことがないように、StandbyDisk Soloエクスプローラを使って、ファイル名が同一のカレントファイルとスタンバイファイルをまず比較します。その後、スタンバイファイルをカレントファイルとして使用したい場合には個別に**ファイル/フォルダの復旧**を行って、スタンバイエリアを破棄してよい状態になるまで、スタンバイエリアのボリューム更新は行わないようにします。

関連項目:

スタンバイエリアをボリューム更新する (p.20)

ファイル/フォルダの復旧 (p.27)

第6節 更新スケジュールを登録する

StandbyDisk Soloの基本機能のひとつである「更新スケジュール機能」を使うと、ファイルやボリューム全体の内容をスタンバイエリアに自動更新させることができます。

スケジュール機能を使わなくても、一度でもスタンバイエリアがボリューム更新されていれば、万が一システムに障害が起きて**レスキュー起動**することは可能です。しかし、スタンバイエリアの内容が1年前のものであったとしたら、最後に更新したときから現在までの期間に作業してできたファイルをすべて個別に復旧させなければなりません。個別復旧は、少しの間にできた溝を埋めるには大変便利な機能ですが、1年という膨大な期間をこの機能で回復するのはできるだけ避けたいところです。

そんな場合には、「更新スケジュール機能」を使用すると、より完成度の高い保護が可能となります。

スケジュールにより更新作業を自動化させる最大の目的は、スタンバイエリアにきちんと動作する信頼性の高いシステムと現在必要とされているプログラムや書類を揃えることにあります。作業頻度の高いファイルやフォルダを適度な頻度で自動更新するように設定しておけば、障害が発生したときにもスムーズな問題解決を期待できます。

それでは、この「適度な頻度」とはどのようにして決定すればよいのでしょうか？これは、万が一システムが立ち上がらなくなったときに、どれくらい前に保存されているファイルがあればしのげるか、ということ考えると判断しやすいでしょう。もちろん、できるだけ最近のファイルにアクセスできるのが一番いいのですが、あまり更新頻度を高めてしまうと、ファイル作業中に発生した間違いや問題などが修正される前に、更新タスクがスケジュールにより起動し、スタンバイエリアにそのまま反映されてしまう可能性がでてきてしまいます。

◆ボリューム更新の推奨頻度

ボリューム更新をスケジュールによって実行させる頻度は使用条件によりさまざまと思いますが、ガイドラインとしては極力頻度を低くすることをお勧めします。本来は、OSをアップグレードした際などに、手動でボリューム更新するのが最適です。しかし、手動ではいつまでたっても更新作業が行われない可能性があります。不安な場合には、たとえば、月に1回というような頻度が考えられます。

◆ファイル／フォルダ個別更新の推奨頻度

個別更新は毎日1回行う、というような頻度が適しています。更新する時間はシステムがユーザーにあまり利用されていないときがよいでしょう。更新内容としては、コンピュータの使用形態にもよりますが、たとえば、一般的なユーザーファイル管理方法がとられている場合は、「マイドキュメント」フォルダなどが考えられます。このフォルダを定期的に更新するように設定することで、ユーザーが作成するドキュメント類などは保護されるでしょう。

◆実際にスケジュールを登録する

まず、スタートメニューより[スタート] → [すべてのプログラム(P) / プログラム(P)] → [StandbyDisk Solo] → [StandbyDisk Solo]を起動し、StandbyDisk Soloエクスプローラを開きます。そこから、以下のいずれかの方法で「StandbyDisk Solo設定」の[スケジュール]タブを開きます。

- 「保護可能なボリューム一覧」 → [更新スケジュール]ボタンを選択する。
- StandbyDisk Soloをウィンドウズエクスプローラで表示させた状態で、ツールバーから[ツール(T)] → [StandbyDisk Solo(B)] → [スケジュール(S)]タブを開く。

[スケジュール]タブでは、スケジュールに現在登録されている更新タスクの一覧を見ることができます。新規のタスクを登録したい場合は[新規(N)]ボタンをクリックします。すると、スケジュールウィザードが立ち上がり、新しいタスクの設定をウィザード形式で登録できます。登録後は更新タスクの一覧に作成したタスクが追加されていることを確認して下さい。また、有効欄のチェックボックスがマークされているかも確認して下さい。すでに選択されているタスクの登録内容を変更したい場合には[編集(M)]ボタンを、削除する場合は[削除(D)]ボタンをクリックします。詳しくは[スケジュール]タブの項目(p.43)を参照して下さい。

注)ボリューム更新をするときに現在動作中のシステムの状態が不安定だったり、あるいは再起動できない可能性が見つかるなど、障害が発生した際のレスキュー起動や復旧がうまくいかない場合があります。ボリューム上のシステム状態の異常が確認されたら、登録済みのボリューム更新タスクの「有効」欄のマークを外して無効にし、一時的にスケジュールに登録された更新タスクを実行させないようにします。こうしておけばタスクは再び「有効」になるまで実行されません。

注)レスキュー起動後、「レスキュー関連」項目が[レスキュー可]になるまでは、スケジュールに登録された更新タスクは実行される前にユーザーに確認を取るよう設計されています。詳しくは「レスキュー起動後の更新について」メッセージ(p. 69)をご参照ください。

関連項目：

更新スケジュールにおける問題 (p.76)

第7節 レスキュー起動

レスキュー起動はStandbyDisk Soloの最も特徴的な機能で、カレントエリア上のシステムに障害が発生したときに、カレントエリアの内容とスタンバイエリアの内容を切り替えて緊急時にシステムを起動する方法です。

通常のディスクユーティリティなどの復旧方法と違い、問題を短時間で解決することができます。しかし、大切なデータを操作する行為には変わりありませんので、ひとつひとつの行為の意味をよく理解した上で操作してください。

1. レスキュー起動の準備

レスキュー起動は、スタンバイエリアを**ボリューム更新**してはじめて使用可能になります。この状態を確認するには、「StandbyDisk Solo設定」の[管理]タブで「レスキュー関連」項目が「**レスキュー可**」と表示されているかどうかをチェックします。

ボリューム更新が一度も行われない状態で、手動で選択したファイル群の個別更新だけを行ってもレスキュー起動を行えません。準備を整えた上でレスキュー起動を行って下さい。

レスキュー起動をした後は、「レスキュー可」から「**レスキュー完了**」に表示が変わります。この表示は、レスキュー起動直後はまだレスキュー起動準備が整っていないことを示しています。システムの状態をチェックし、必要な**ファイル／フォルダ**をスタンバイエリアから復旧した後に、必ず**ボリューム更新**を行って下さい。このボリューム更新が行われるまで、毎回システムが起動するごとに、**スタンバイエリアをボリューム更新**するようにメッセージが表示し続けます。

「レスキュー関連」項目は、ボリューム更新またはフォルダの個別更新を行うと[レスキュー可]に変わります。

2. レスキュー起動するには

◆自動レスキュー起動(※)

まず典型的な自動レスキュー起動の例を紹介します。ボリュームがStandbyDisk Soloで保護されていて、スタンバイエリアのボリューム更新が正常に終了したあと(つまり「**レスキュー可**」の状態)でシステムに問題が起きたとします。この場合、オペレーティングシステム(OS)は通常、独自に修復を行い復旧作業を試みますが、この自己修復がうまくいかなかった場合、当然ながらシステムは起動できずに失敗します。失敗した場合には、たとえばユーザー側で[Ctrl]キーと[Alt]キーと[Del] キーを同時に押して再起動する方法や、電源を切って再度立ち上げる方法などで起動しようとするでしょう。このような方法で確認作業を何回か繰り返すうちに、3回(既定は3回。2～10回に設定可能)続けて起動に失敗すると、次の起動時に「Rescue Boot Menu」と表示されたレスキュー起動メニューが表示されます。このメニューでは[1.Rescue Boot (レスキュー起動)]、[2.Normal Boot (普通の起動)]という2種類の選択肢が与えられます。1.を選択するとレスキュー起動が行われ、これまで待機していたスタンバイエリアの内容が、カレントエリアの内容と入れ替わり、システムが起動します。単なる入れ替えですので、以前にカレントエリアにあったボリューム内容はすべてレスキュー起動時にスタンバイエリアへと退避されます。

※ この自動レスキュー起動は、起動失敗を自動検知しレスキュー起動するオプションが有効になっていないと実行されません(出荷時の設定は有効になっています)。「StandbyDisk Solo

の設定」→[レスキュー設定]タブで、有効と無効の切り替えをチェックボックスにて行います。

◆手動レスキュー起動

手動でレスキュー起動するには以下の方法があります。

(1) [レスキュー起動]ボタンからの起動

レスキュー起動を手動でコントロールすることももちろん可能です。「StandbyDisk Soloの設定」の[レスキュー設定]タブから[今すぐレスキュー起動]ボタンを押すと、メッセージが表示され、その後すぐにシステムをシャットダウンし、レスキュー起動します。これは以下に説明するテストレスキュー起動ではありませんので注意してください。再起動した後はレスキュー起動されているので、以前のスタンバイエリアがカレントエリアに入れ替わっています。もうひとつの[レスキュー起動のテスト]ボタンについては「4. テストレスキュー起動」(p. 25)の項目で解説します。

(2) [Alt]+[CapsLock]キー入力による起動

ユーザーインターフェース上からではない方法で レスキュー起動を立ち上げることも可能です。パソコンの起動時に「Protected by StandbyDisk Solo」というメッセージが表示されている間に[Alt]キーと[CapsLock]キーを同時に押すことで、メニュー画面が表示されます。このメニュー画面では、[1.Rescue Boot (レスキュー起動)]と[2.Normal Boot (普通の起動)]の2種類の選択肢が与えられるので、いずれかを選択して下さい。

3. [レスキュー設定]タブ

「StandbyDisk Soloの設定」の[レスキュー設定]タブは、**ボリューム更新がされて、レスキュー起動可能な状態になって初めて利用することができます**。この設定画面では、現在の起動タイプ(**通常の起動、レスキュー起動、テストレスキュー起動**)を確認できるとともに、レスキュー起動の回数などを確認することもできます。また、前述した起動失敗を自動検知してレスキュー起動するオプションを無効・有効にする設定変更もここから可能です。レスキュー起動を2回続けて行うこと(つまりスタンバイエリアの内容とカレントエリアの内容を入れ替えて、再度入れ替えること＝元に戻すこと)が、何も操作しない行為と等しいということがご理解いただければ、このレスキュー設定画面の意味するところは難しくないはずです。

StandbyDisk Soloでは、レスキュー起動後に、必ず最後に行われたレスキュー起動が偶数回なのか奇数回なのかをウィンドウメッセージでユーザーに知らされるように設計されているので、そこからも同様の情報が入手できます。

4. テストレスキュー起動

テストレスキュー起動とは、文字通りレスキュー起動のテストです。カレントエリアとスタンバイエリアの内容を入れ替えて、スタンバイエリアに保管されているシステムが起動可能かどうかを確認し、きちんとファイルなどが使用できる状態にあるかどうかを確認するために行うレスキュー起動です。普通のレスキュー起動との違いは、もう1回再起動すると元の状態に戻るということです。また、テスト中はいかなる更新・復旧タスクも実行されないので、安全が確保されています。

実際にテストレスキュー起動するには、[レスキュー起動のテスト]ボタンをクリックします。すると、システムは直ちにシャットダウンし、レスキュー起動(のテスト)を試みます。スタンバイエリアのシステムに問題がなければ、「Rescue Boot in Progress...」というメッセージが表示され、システムは起動します。起動に成功したということは、このスタンバイエリアは正常に起動するということなので、テストはほぼ成功したといえます。

◆テストレスキュー起動がうまくいかなかった場合

テストレスキューがうまくいかない場合には、起動不可能なシステムがスタンバイエリアにボリューム更新されてしまっていると判断します。この場合には、テストを終了した後にもう一度正常なシステムをカレントエリアに確認してからボリューム更新しなおします。そして再度、テストレスキュー起動をして動作を確認します。

テストレスキュー起動した後に再起動をかけると再度レスキュー起動され、当初のシステム状態に戻ります。戻ったシステムは「StandbyDisk Soloの設定」の[イベントログ]タブにレスキュー起動の記録が残る以外は何も変わっていません。

関連項目：

スタンバイエリア (p. 20)

スタンバイエリアをボリューム更新する (p. 20)

上級者向けレスキュー起動 (p. 70)

障害が発生した場合 (p. 31)

第8節 スタンバイエリアからのファイル／フォルダの個別復旧

スタンバイエリアに格納されているファイルを活用する機会は大きく分けて2種類あると思われます。

第1には使用領域であるカレントエリアのファイルが何らかの原因で削除、損傷、あるいは変更されてしまった場合、ついこの間スタンバイエリアに更新しておいた同じファイルの複製を問題があるファイルと差し替えよう...という状況が考えられます。

第2に、**レスキュー起動**を行った直後の状況が考えられます。レスキュー起動は、現在のシステム領域であるカレントエリアが何らかの問題で障害を受けた際に、事前にカレントエリアの内容で更新された隠し領域に存在するスタンバイエリアのシステムより、あたかも何事もなかったかのごとく起動する StandbyDisk Soloの機能です。このときに、障害を受けた可能性のある元のカレントエリアはスタンバイエリアと入れ替わります。

しかし、たとえシステムに障害が生じたとしても、そのボリューム内容すべてが問題であるとは限りません。スタンバイエリアへ入れ替わったものの中にはレスキュー起動直前に作業していた内容などの最新のファイル／フォルダ群も含まれており、それらはシステムの障害とは直接には関係ない場合も考えられます。そんなときに、レスキュー起動後、次のレスキューに備えてスタンバイエリアを現在のボリューム内容で更新してすべて上書きされてしまう前に、これらのスタンバイエリア内の貴重なファイルを個別にカレントエリアに引き戻そう(復旧)、という状況が考えられます。このときに気をつけたいこととしては、スタンバイエリアからカレントエリアへの復旧作業を行うことによって、同じ名前のカレントファイルは上書きされてしまうということがあります。慎重を期すためには、復旧しようとするスタンバイファイルと同一のカレントファイル／フォルダ名に別の名前を与えることをお勧めします。

また、次のような状況も考えられます。カレントフォルダ内のファイル数が、スタンバイフォルダ内のファイルの数よりも多い場合があります。あるいは、カレントフォルダ内のファイルが、スタンバイフォルダ内のファイルよりも新しい場合があります。このような場合、フォルダの復旧を行うと、スタンバイフォルダの内容がカレントフォルダの内容として置き換わりますので注意して下さい。置き換わるということは、スタンバイエリアにはなかったファイルはカレントファイルでも無くなってしまいます。このような理由から、スタンバイフォルダを復旧する際には、ひとまずカレントフォルダ名を書き換えた後、操作を行う方法をお勧めします。

さて、カレントファイル名、カレントフォルダ名を変更する場合には、StandbyDisk Soloの「カレント／スタンバイ ファイル比較」画面から、実際のシステムボリューム下にあるカレントファイル进行操作しなければなりません。このような場合に有効な操作として、ファイルのフォルダを右クリックし、表示されるコンテキストメニューの中から[元のフォルダを参照(W)]を選択する方法があります。これによって、実際のシステムボリューム上のカレントフォルダを参照できるので、簡単に名称変更ができます。

[ファイル・フォルダの個別復旧(R)]を選択すると、本当に実行するかどうかの確認メッセージが表示されます。カレントファイルの名称を前述のように変更した場合か、もしくは操作内容を完全に把握している場合にのみ作業を継続するようにしてください。とくにレスキュー起動後に行う復旧の際には、間違いが起きないように細心の注意を払って作業を行ってください。

関連項目:

ファイル／フォルダの復旧の確認 (p. 67)

第9節 ファイルを検索する

ファイルのスタンバイ状態の確認や、個別更新・復旧をしたいときには「カレント／スタンバイ ファイル 比較」画面から行なうことができます。

しかし、「カレント／スタンバイ ファイル 比較」画面は1つのフォルダの内容しか表示できないため、別のフォルダに保存されているファイルの状態の確認や更新・復旧を行なうには、その都度対象のフォルダへ移動し、画面に表示されている内容を切り替えなければなりません。

フォルダ間に跨ったファイルを一括して表示するには「検索エンジン」を利用すると便利です。

「検索エンジン」は保護されているボリューム内にあるファイルを、ユーザーが指定した条件で検索して結果をリスト形式で表示することができます。

指定できる条件は「検索」、「ファイル名」、「Standby状態」、「最後に変更された日時」、「ファイルサイズ」です。

- **[検索]**では検索を実行する場所を指定することができます。リストから「参照」を選択し、参照ダイアログから検索したい場所を選びます。また、保護されているボリューム全体を検索したい場合は「ボリュームC全て」を指定します。
- **[ファイル名]**では検索したいファイル名を指定することができます。ファイル名を指定するにはリストから「名前を指定する・・・」を選択し、表示されるダイアログのテキストボックスに検索したいファイル名を入力します。ファイル名の入力にはワイルドカードやクエッションマークが利用できます。
- **[Standby状態]**では検索するファイルのスタンバイ状態を指定することができます。選択できる項目は「カレント／スタンバイ ファイル 比較」画面の「スタンバイ状態」に表示される項目に加えて、「保護対象外」と「同期以外」があります。「同期以外」とは文字通り同期が取れているファイル以外の全てのことで、「保護対象外」とは「同期以外」から「新しい」と「スタンバイのみ」を除いたものです。
- **[最後に変更された日時]**ではタイムスタンプが指定された日時より以前に変更されたファイルか、以降に変更されたファイルを検索することができます。日時を指定するには表示される「日付と時間を指定」ダイアログに日時を入力します。入力した時間をリセットするには「時間を夜中の0時に指定する」をクリックします。
- **[ファイルサイズ]**では検索するファイルサイズを指定することができます。指定されたサイズより小さいファイルか、大きいファイルを検索することができます。サイズを指定するには表示される「ファイルの大きさを指定」ダイアログにサイズを入力し、単位として「バイト」、「KB」、「MB」、「GB」のいずれかを選択します。

第10節 StandbyDisk Soloの各種設定

「StandbyDisk Soloの設定」は6つのタブで構成されています。この設定ウィンドウはスタートメニューから、[スタート] → [すべてのプログラム(P) / プログラム(P)] → [StandbyDisk Solo] → [設定]で簡単に起動することができます。また、主なタブ項目に直接ジャンプするには、エクスプローラのツールバーから [ツール(T)] → [StandbyDisk Solo(B)] → [管理(C) / スケジュール(S) / イベントログを見る(V)]のいずれかを選択します。最後のタブの[バージョン情報]はエクスプローラの[ヘルプ(H)] → [StandbyDisk Soloのバージョン情報(S)]から直接アクセスできます。これらの詳しい操作方法については「StandbyDisk Soloの設定」画面(p. 45)の項目を参照して下さい。

- [管理]タブでは、保護されていないボリュームの保護を有効にする、あるいはすでに保護が有効であるボリュームの保護を解除する、のどちらかの制御が行えます。
- [スケジュール]タブでは、スケジュールに現在登録されている更新タスクの一覧を見ることができます。新規のタスクを登録したい場合は、[新規(N)]ボタンをクリックします。すると、スケジュールウィザードが立ち上がり、新しいタスクの設定をウィザード形式で登録できます。また、すでに登録されているタスクの内容を変更したい場合には、タスクを選択してから[編集(M)]ボタンを押します。削除する場合は[削除(D)]ボタンを押します。
- [セット]タブでは、現在登録されている更新セット（更新するファイル／フォルダを自分で指定）の一覧を見ることができます。表示を更新したい場合は、[最新情報を表示(R)]ボタンをクリックします。使用しなくなった更新セットを削除したい場合は、[削除(D)]ボタンをクリックします。
- [レスキュー設定]タブでは、レスキュー起動メッセージなどの表示機能を有効あるいは無効にカスタマイズできるほか、起動失敗の回数を数える機能のオン・オフの設定、レスキュー起動やテストレスキュー起動を実際に開始することなどができます。
- [イベントログ]タブでは、更新／復旧／レスキュー起動の結果やエラー・警告を見ることができます。一覧から任意のログを選択すると、「解説」ビューに詳細を表示します。表示を更新したい場合は、[最新情報を表示(R)]ボタンをクリックします。ログを消去したい場合は、[ログをクリア(C)]ボタンをクリックします。
- [バージョン情報]タブでは、製品のバージョンなどの基本情報のほかにアップグレード情報などを見つけることができます。

第11節 データ障害を回避するには

データ障害を回避するためには、データ障害に備える以外、方法はありません。ここに記述されている方法でStandbyDisk Soloを万全な状態に整えましょう。

システムに何らかの障害が起きた場合、StandbyDisk Soloには**レスキュー起動**をしてこれまで作業領域として使用していたボリューム(カレントエリア)の内容をすべてスタンバイエリアに退避させ、以前スタンバイエリアにあった内容はすべてカレントエリアに置き換えるという作業を行い、システムを迅速に復旧させます。この場合、最新のファイルはスタンバイエリアにあるので、最悪の事態がおきても、大切なデータが損傷を受けていない限り個別に復旧することが可能です。

さらに信頼性の高い復旧環境を作り上げるには、StandbyDisk Soloの導入のほかに、通常メーカーから提供されるシステムの復旧(リカバリー)ディスクと、最近まで使用していたシステムのバックアップイメージを保存しておくことを推奨します。StandbyDisk Soloがデータ障害に対して最も身近で、かつ最速の復旧方法であるからといって、別のメディアにバックアップを一回だけとっておき、それに頼り切ってしまうのはよくありません。最近のバックアップを常に持つためには、定期的に他の媒体へのバックアップをすることが重要です。

それでは、StandbyDisk Soloを使って万全な状態を整えるには具体的にどうすればいいのでしょうか？

ポイントとしては、ユーザーが作成した最新のデータにできるだけ近い状態のファイルをスタンバイエリアに更新しておくことと、スタンバイエリアに状態の良いシステムが常に置かれていることが挙げられます。

この2点の鍵を握るのが**更新スケジュール**機能です。更新作業をある程度自動化させて行うことで、不意に訪れる障害に対応します。

たとえば、システムファイルやアプリケーションをあまり頻繁に追加しないようなユーザーは、ボリューム更新タスクを更新スケジュールに1か月に1回というような頻度で予約をしてもいいでしょう。本来は、OSをアップグレードした際や、アプリケーションをインストールする直前に、手動でボリューム更新するのが最適ですが、手動ではいつまでたっても更新作業が行われな可能性があるので、スケジュール機能を使用します。ここで注意する点としては、ボリューム更新の際に、必ず現在動作中のシステムの状態が良いかどうかをチェックするということです。状態が悪くないと、問題のあるシステム状態がスタンバイエリアに反映されてしまい、障害発生の際のレスキュー起動、復旧がうまくいかない可能性があります。

また、システムの調子がよくない状態が発見された時点で**更新スケジュール**に登録されているボリューム更新タスクを一時的に無効にすることを忘れないようにして下さい。

もしも、スタンバイエリアに古いシステムを格納しておきたい、というときには、逆にスケジュールによる定期的なボリューム更新を設定してしまうとスタンバイエリアが上書きされてしまうので注意して下さい。このような場合では、むしろ、スタンバイエリアに格納してあるシステムが果たしてレスキュー起動可能なかどうか、という疑問を払拭しておく必要があります。この疑問を解決するためには、「**テストレスキュー起動**」の機能を利用して下さい。

このように、スタンバイエリアをボリューム更新する前にシステムの状態を点検すること、また、「**テストレスキュー起動**」を行いスタンバイエリアの状態を確認すること、このふたつの作業を組み合わせることでスタンバイエリア上のシステムの質を高めることができます。

第12節 障害が発生した場合

システムに障害が発生した場合、あるいはファイルへのアクセスができなくなった場合、**ファイル/フォルダの復旧**の項目で解説された手順で、以前スタンバイエリアへ更新してあったファイルやフォルダを個別に復旧することができます。

それでも問題が解決しない場合には、システム自身をスタンバイエリアから復活させる必要があります。以下の条件が整っているか確認してください。

- StandbyDisk Soloがインストールされている
- ボリュームの保護が有効になっている
- **ボリューム更新**が最低1回行われている
- 「レスキュー可」と[管理]タブに表示されている

これらの条件が揃っていれば、StandbyDisk Soloの**レスキュー起動**による復旧方法が利用できます。

StandbyDisk Solo設定にある[レスキュー設定]タブの設定が出荷時のまま何も変更されていない限りは、具体的なレスキュー起動の方法を知らなくても3回起動に失敗した段階で自動的にレスキュー起動メニューが表示されますので、そこから[1.Rescue Boot]を選択し、レスキュー起動を行えば、以前スタンバイエリアに更新した内容のシステム状態に戻ります。

これまでレスキュー起動を一度も行ったことがない場合は、システムがどのような状態になったのかを理解しておくためにも「第5章/第7節 **レスキュー起動**」(p. 24)の項目を再度参照してください。

レスキュー起動による復旧方法は非常に短時間で済みます。通常の場合、レスキュー起動した後は、システムが正常に動いているのを確認し、必要なファイルの復旧作業が済めば、後は次に起こる問題に備え**スタンバイエリアを再度ボリューム更新**すれば、復旧作業は完了です。

StandbyDisk Soloで復旧できましたか？ 次回の障害に備えて、「**第10節 データ障害を回避するには**」(p. 30)の項目もこの機会に読んでおいて下さい。

万が一復旧できなかった場合は、ハードウェアもしくは、ハードディスクそのものに問題が生じている可能性があります。StandbyDisk Soloではこれらの問題を解決することはできませんので、レスキュー起動プロセスを一通り行ってみたと復旧できなかった場合は、ディスクユーティリティなどでディスクの状態を再検証してみてください。

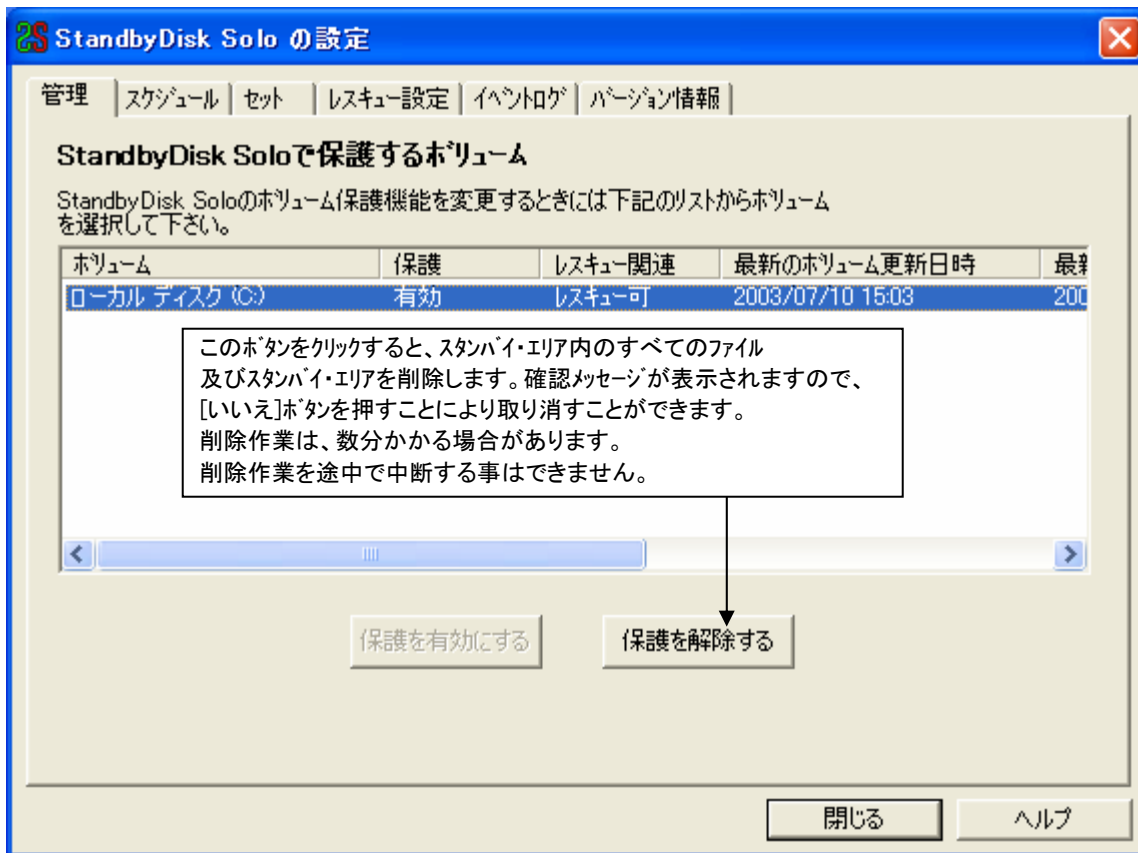
さらに、ソフトウェアの問題であっても、非常に稀なケースですが、StandbyDisk Soloで解決できない場合があります。ボリューム更新されている場合でも、その更新のタイミングがシステムの起動に失敗する直前の、不安定な状態がスケジュール機能などで更新されてしまった場合です。これらの場合、論理上レスキュー起動ができて、実質的には起動不可能なシステム内容がスタンバイエリアに書き込まれているためにシステムは立ち上がりません。

このような事態を回避するには、上級レベルの対処法として、**テストレスキュー起動**機能を日頃から利用することをお勧めします。スタンバイエリア上のシステムが起動可能かどうか、すべてのファイルが使用可能かどうかを障害が起きる前にチェックすることができます。問題が発見された場合は、現在のシステムの状態を整えた後で再度、スタンバイエリアをボリューム更新してください。そして再びテストレスキュー起動を行い確認します。

第13節 保護の解除

StandbyDisk Soloの保護を解除するとは、ボリュームの更新やその他のStandbyDisk Soloの機能を無効化することに相当します。保護が解除された状態では、スタンバイエリアも存在しません。すでに保護が有効になっている場合は、現在のスタンバイエリアごと削除されることになります。

保護の解除は「StandbyDisk Soloの設定」の[管理]タブで行います。



[保護を解除する]ボタンを押すと、本当に解除するかどうかを聞く**確認メッセージ**が出るので、本当に保護を解除したいかどうかをここで判断してください。ここで[はい]をクリックすると、システムはスタンバイエリア内のファイルやフォルダをスタンバイエリアごとすべて消去します。この作業はデータ量によっては数分かかることもあり、削除処理中に中断することはできません。スタンバイエリアを消去した後、システムはこれまで保護に使用されていたツールなどを無効にし、これまでエクスプローラのツリー上に見えていたStandbyDisk Soloのファイル表示を無効にします。この操作によってスタンバイエリアに待機中の貴重なファイルが消去されてしまわないよう、必要なファイルは事前にカレントエリアに復旧してから保護を解除するようにしてください。保護が解除されるとスタンバイエリアはなくなるのでレスキュー起動できません。

関連項目:

保護の解除を確認する(p. 65)

第14節 アップグレード及びアンインストール

本製品にご満足いただけたでしょうか。StandbyDisk Solo製品の最新情報にご関心があるかと思えます。StandbyDisk Soloは、将来的に様々な形で改良される予定です。「StandbyDisk Soloの設定」の[バージョン情報]タブよりアクセス可能な、ウェブサイトを参照するようにしてください。このページを開くには、StandbyDisk Soloエクスプローラエクステンションのヘルプから[StandbyDisk Soloのバージョン情報(S)]を選択するか、「StandbyDisk Soloの設定」から[バージョン情報]タブを選んでください。

このページより、StandbyDisk Solo及びデュアルディスクの環境ですばやくバックアップリストアを行う姉妹製品のStandbyDisk 2000-XP Proについてのアップデート、最新情報、製品のバージョンアップ情報を参照できます。お使いのシステムがインターネットに接続されていれば、[アップグレード(U)]ボタンをクリックしてください。インターネットブラウザを起動して簡単にアクセスすることができます。

本製品に残念ながらご満足いただけなかった場合は、StandbyDisk Soloのアンインストールを行ってください。アンインストールは非常に簡単にできます。スタンバイエリアに重要なファイルなどが残されていないか、必ず確認してください。スタンバイエリア内のファイルは、すべて削除されます。アンインストールを起動するには、以下のいずれかの方法で行います。

- Windows XPの場合、スタートメニューをクリックして、[コントロール パネル(C)] → [プログラムの追加と削除] → [StandbyDisk Solo]を選択して[変更と削除]ボタンをクリック
- Windows 2000の場合、スタートメニューをクリックして、[プログラム(P)] → [設定(S)] → [コントロール パネル(C)] → [アプリケーションの追加と削除] → [StandbyDisk Solo]を選択して[変更と削除]ボタンをクリック

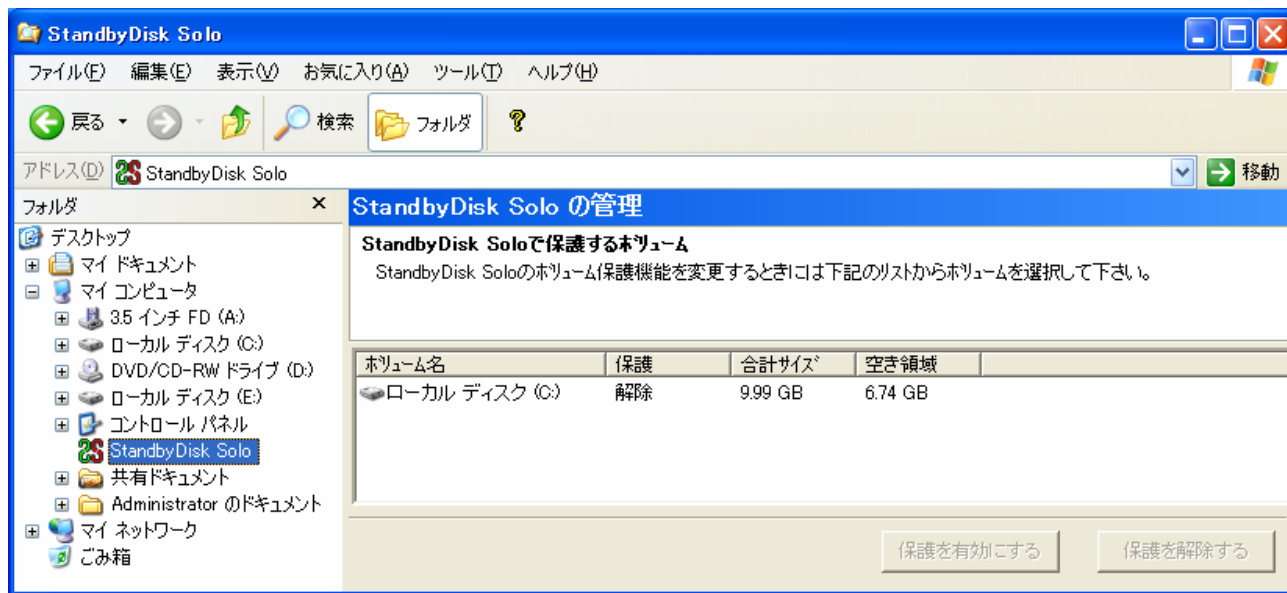
アンインストールは、アンインストール操作を行うかどうか確認を求めています。アンインストールを行う場合には、[はい]ボタンをクリックしてください。アンインストールには、数分かかります。終了すると再起動するように聞かれますので再起動して下さい。また、一度アンインストールを実行してしまった場合、スタンバイエリアの削除を中止することはできません。終了すると、StandbyDisk Soloはシステムから完全に削除されます。

第6章 インターフェイス解説

第1節 StandbyDisk Soloエクスプローラ

1. 「StandbyDisk Soloの管理」画面

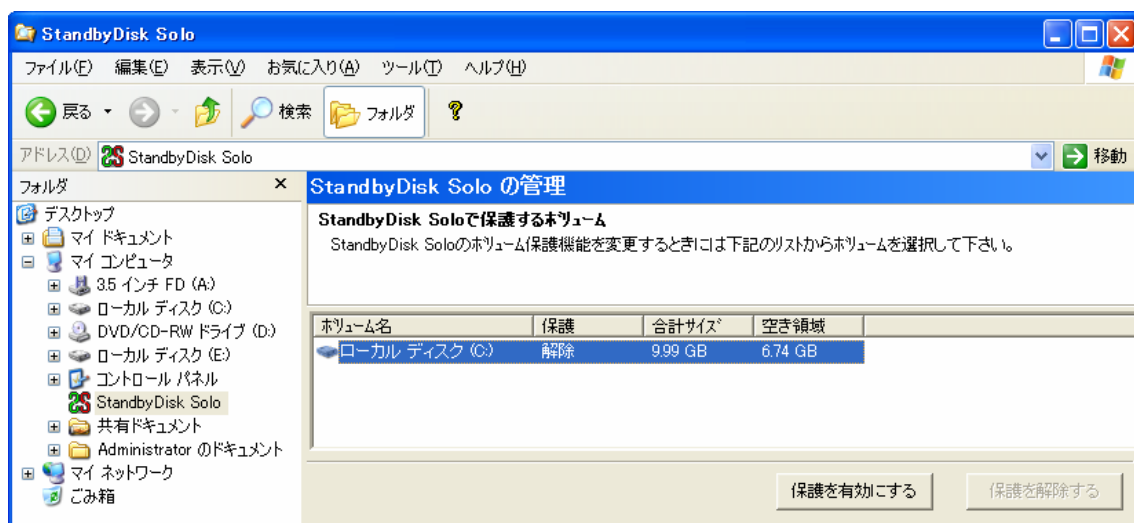
「StandbyDisk Soloの管理」画面はボリュームの保護が解除されている際に表示されるStandbyDisk Soloエクスプローラにおける表示画面のひとつです。このほかに2つの表示画面があります。



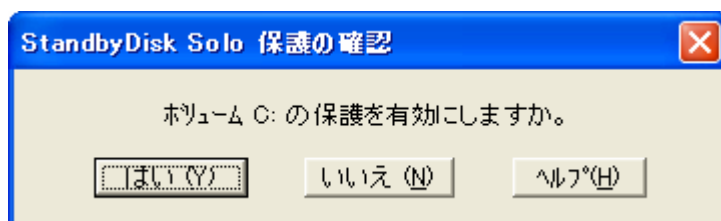
画面上には、StandbyDisk Soloで保護するボリュームのリストが表示されています（※本製品では、システムボリュームのみが対象になります）。ボリュームに関する以下の項目を見ることができます。

- **ボリューム名**——ボリュームに付けられた名前
- **保護**——ボリュームの保護が「有効」か「解除」のいずれかにあるかを表示しています
- **合計サイズ**——保護ボリュームの合計サイズ
- **空き領域**——保護ボリュームに現在どれくらい空き領域があるかを示しています。保護が解除されている状態から保護を有効にするときに空き領域が合計サイズの50%以上あることを確認して下さい。

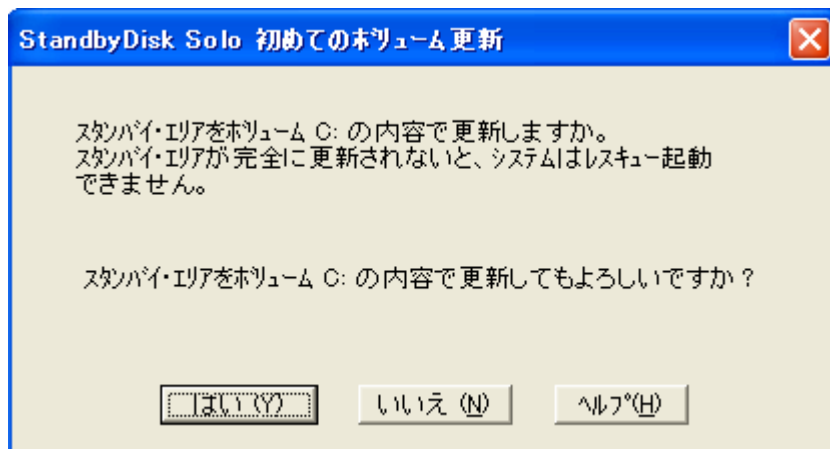
「保護が有効ではない＝保護が解除された状態」では、「StandbyDisk Soloの管理」画面はシステムボリューム（通常はボリュームC:）が表示されています。表示されているボリュームをリストから選んでクリックし、ハイライトさせた後、[保護を有効にする]ボタンをクリックします。



[保護を有効にする]をクリックした後、再確認メッセージが表示されます。



これに[はい]をクリックして進むと、次にボリューム更新するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。



ここで再び[はい]をクリックすると、スタンバイエリアのボリューム更新を開始します。保護を開始した後の最初のボリューム更新は、ボリューム上にあるすべてのファイル／フォルダを他のディスクなどにコピーするのと同じ程度の時間がかかります。

上記の操作方法の通り、この画面では、まだ保護されていないボリュームの**保護を有効**にすることができます。保護を有効にして初めてStandbyDisk Soloの保護機能が使えるようになりますので、アプリケーションを開始する感覚で[保護を有効にする]ボタンをクリックして下さい。保護を有効にする行為自体は、わずかなディスクスペースしか必要としません。この作業でまず、空の**スタンバイエリア**が作成されると考えて下さい。

ボリュームの保護が有効になれば、スタンバイエリアをボリューム更新して、レスキュー起動に備えることができます。また、その後StandbyDisk Soloエクスプローラの「カレント/スタンバイ ファイル比較」表示を用いて、スタンバイエリアに格納されているファイルやフォルダの有無や更新状況を確認・管理することができます。保護が解除された場合、スタンバイエリアはエリアごと削除されますのでご注意ください。当然、その場合レスキュー起動もできなくなります。保護を解除すると、占有されていた領域は空き領域として開放されます。

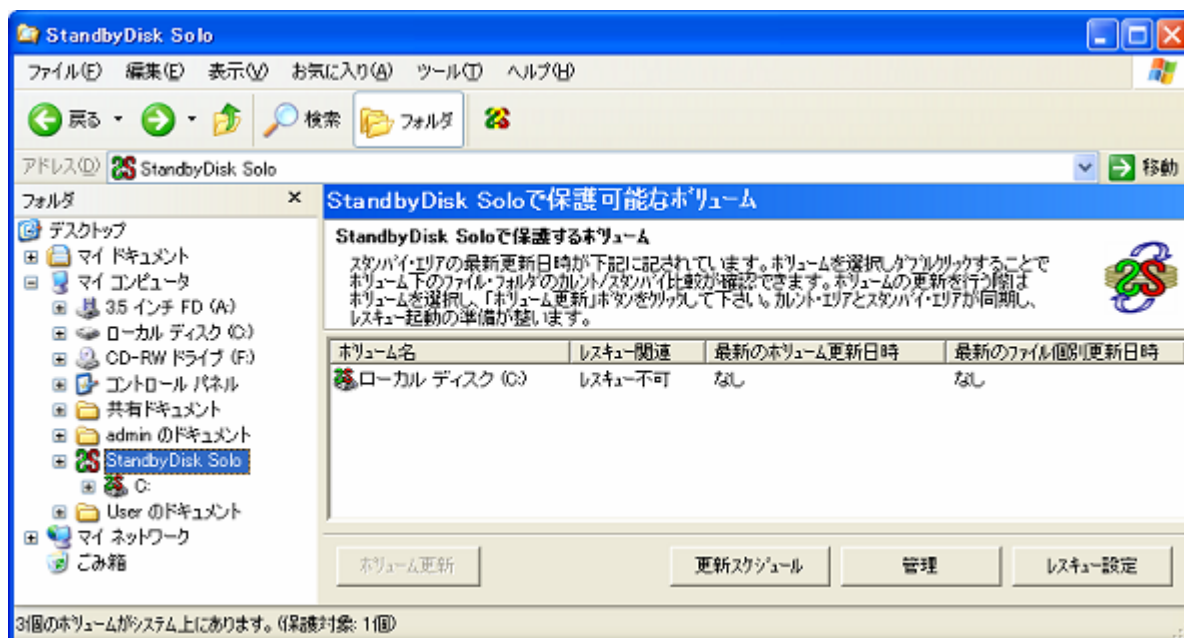
保護を有効にしようとした場合に、もしもボリュームに十分空き領域が無ければ、警告メッセージ(p. 76)が表示されます。ここで中止することもできますが、そのまま進むこともできます。十分な空き領域が無いまま更新を行った場合、更新タスクはディスクがフルになり次第、メッセージ表示して途中で中止されます。この場合、未完全なボリュームのコピーがスタンバイエリアに置かれますが、レスキュー起動は有効になりませんので注意してください。十分な空き領域を確保してからボリューム更新するようお勧めします。

関連項目：

StandbyDisk Soloエクスプローラ(p. 16)

2. 「StandbyDisk Soloで保護可能なボリューム」画面

保護が有効になると同時にこの画面が表示されます。



選択されたボリュームをダブルクリックするとファイル/フォルダ用の「カレント/スタンバイ ファイル比較」画面(p. 37)が表示されます。

「StandbyDisk Soloで保護可能なボリューム」一覧では、「レスキュー関連」、「最新のボリューム更新日時」、「最新のファイル(フォルダ)の個別更新日時」を表示します。ここでは、スタンバイエリアへの[ボリューム更新]を開始するボタン、StandbyDisk Soloの設定項目のうち、頻繁に使用する項目、[更新スケジュール]、[管理]、[レスキュー設定]タブを表示するための各ボタンがここから利用できます。

◆「レスキュー関連」表示一覧

- **レスキュー不可**—スタンバイエリアがまだボリューム更新されていないためレスキュー起動ができない状態を示します。
- **レスキュー可**—ボリューム更新された状態で、レスキュー起動が可能な状態を示します。
- **レスキュー完了**—レスキュー起動された後まだボリューム更新されていない状態を示します。ボリューム更新されると再び「レスキュー可」になります。

◆[ボリューム更新]ボタン

ボリューム更新するには、まず更新するボリュームをクリックしてハイライトします。こうすることで、[ボリューム更新]ボタンが有効になり、スタンバイエリアへボリュームを更新できるようになります。[ボリューム更新]ボタンを押すと、スタンバイエリアにカレントボリュームの内容を更新(複製)します。更新作業が成功するとスタンバイエリアとカレントエリアの内容は、等しくなります。この操作は、作業内容量により、時間がかかる場合がありますが、更新作業中に中断することも可能です。更新が実行中の場合でも、他のアプリケーションなどの操作を並行して行うことができますが、通常よりレスポンスは悪くなる場合があります。この初回の更新動作を行うには、50%の空き容量を確保するようにしてください(2度目以降は、新しいファイルを追加するたびにそのファイルサイズの2倍の容量が必要となります)。ボリューム更新に関する詳細は、**ボリューム更新**の項目を参照してください。

◆[更新スケジュール]ボタン

[更新スケジュール]タブを開き、タスクスケジュールの編集、追加、削除を行います。

◆[管理]ボタン

[管理]タブを開き、保護の有効、解除を設定します。

◆[レスキュー設定]ボタン

[レスキュー設定]タブを開き、レスキュー起動を行ったり、レスキュー起動のカスタマイズを行います。

関連項目:

StandbyDisk Soloエクスプローラ (p.16)

3. 「カレント／スタンバイ ファイル比較」画面

この画面では、カレントファイルとスタンバイファイルの内容を比較するための詳細表示をし、更新復旧の際の情報として役立てます。

「カレント／スタンバイ ファイル比較」表示内では、カレントエリア及びスタンバイエリア内のファイルやフォルダを作成日やサイズ情報で比較し表示します。また、ファイルやフォルダがどちらか一方の領域だけに存在する場合に、ファイルとフォルダがどちらの領域に存在するかを「スタンバイ状態」表示により確認することができます。両方の領域に存在するファイルは、2つ同じファイル名が表示されます。どちらか一方に存在する場合には、名前はひとつだけ表示されます。スタンバイ状態カラムでは、スタンバイファイルをカレントファイルと更新時間を比較したときのスタンバイファイルの状態を示しています。

スタンバイエリア (C:\Documents and Settings\admin\My Documents)

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 検索 フォルダ

アドレス(C) スタンバイエリア (C:\Documents and Settings\admin\My Documents) 移動

カレント/スタンバイファイル比較

| カレントファイル名 | スタンバイファイル名 | スタンバイ状態 | カレントファイルの日付 | スタンバイファイルの日付 | カレントサイズ | スタンバイサイズ | 種類 | カレント属性 | スタンバイ属性 |
|-----------|-------------|--------------|------------------|------------------|---------|----------|------------------|--------|---------|
| カレントのみ | | | 2003/09/24 21:15 | | | | フォルダ | | |
| 同期 | スタンバイのみ | | 2003/09/24 21:14 | 2003/09/24 21:15 | | | フォルダ | | |
| 古い.doc | スタンバイのみ.zip | スタンバイのみ | 2003/09/24 22:05 | 2003/06/24 16:50 | 103 KB | 392 KB | 圧縮 (zip 形式) フォルダ | AC | RA |
| 同期.bmp | 古い.doc | 古い(カレントよりも) | 2003/09/24 21:16 | 2003/09/24 21:19 | 936 KB | 103 KB | ワードリットドキュメント | A | AC |
| 新しい.txt | 同期.bmp | 同期 | 2003/09/24 22:05 | 2003/09/24 21:16 | 406 KB | 936 KB | ビットマップ イメージ | A | A |
| 無し.txt | 新しい.txt | 新しい(カレントよりも) | 2003/09/24 21:20 | 2003/09/24 22:09 | | 406 KB | テキストドキュメント | AC | A |
| | 無し.txt | 無し(カレントのみ) | | | 369 KB | | テキストドキュメント | | |

8 オフセット 表示: 読み込み済み 3 フォルダ: 1 同期: 1 古い(カレントよりも): 1 新しい(カレントよりも): 1 スタンバイのみ: 1 無し(カレントのみ): 1

スタンバイ状態には下記の5種類の状態があります。

◆「スタンバイ状態」一覧



新しい(カレントよりも)

スタンバイファイルがカレントファイルよりも新しい状態。もしもこのより新しいファイルをカレントファイルとして使用したい場合には、スタンバイエリアから復旧します。



古い(カレントよりも)

スタンバイファイルがカレントファイルよりも古い状態。最後に更新されたときよりも、カレントファイルには新たな作業が加わっていると想定されます。カレントファイルとスタンバイファイルの日付やサイズを比較して、あまりギャップがあるようであれば、万が一に備えて更新作業を行って同期させておくといでしょう。



同期

スタンバイファイルとカレントファイルの内容は同じである状態。



スタンバイのみ

同じファイル名のカレントファイルが存在しない状態。カレントファイルが消去されてしまった場合と、レスキュー起動されたために以前のカレントエリアにのみあったファイルがスタンバイエリアに移動した2通りのケースが考えられます。



無し(カレントのみ)

カレントエリアにのみファイルが存在する状態。スタンバイエリアがカレントエリアのファイルの内容で更新されていないことを示します。

注) フォルダのスタンバイ状態は表示されません。フォルダの新旧比較をする場合は、フォルダを開いて、中にあるファイルの状態を参照してください。カラムの幅や位置は、通常のウィンドウズエクスプローラの詳細表示と同様の操作で変更することができます。現行のファイルを変更、参照したい場合には、フ

フォルダを右クリックし、表示されたメニューの中から[元のフォルダを参照(W)]を選択すると、エクスプローラ上で選択されたカレントフォルダの内容を表示します。

StandbyDisk Soloのメイン画面は、拡張機能としてウィンドウズエクスプローラに組み込まれています。ウィンドウズエクスプローラの全機能に加え、「カレント／スタンバイ ファイル比較」により、スタンバイエリアとカレントエリアに含まれるファイルを比較表示します。このウィンドウは、エクスプローラの「StandbyDisk Soloで保護可能なボリューム」一覧表示より、保護ボリュームをダブルクリックするか、エクスプローラの左側に表示されているフォルダツリーから、StandbyDisk Soloの下に保護されているボリュームのアイコンを選択することによって表示されます。また、StandbyDisk Soloの下に保護されているボリュームのアイコンで右クリックしポップアップメニューから[開く]を選択します。新たにエクスプローラが開き、「カレント／スタンバイ ファイル比較」が表示されます。フォルダツリーからフォルダをクリックするか、ファイルビュー内のフォルダをダブルクリックすることにより、フォルダ内部のファイルをブラウズすることができます。これらの表示は、StandbyDisk Soloでは、通常のエクスプローラ表示とは異なりますので注意してください。

「カレント／スタンバイ ファイル比較」表示内では、コピー、ペースト、ドラッグ & ドロップなどファイルやフォルダに対する操作を行えません。ファイルやフォルダをひとつもしくは、複数選択し、マウスの右クリックによって表示されるメニューから、選択したファイル／フォルダを更新もしくは復旧することができます。これらのコマンドは、必ず**ファイル及びフォルダの復旧、更新**についての情報を熟読した上で行ってください。フォルダを選択した時に限り、メニューの[元のフォルダを参照(W)]を選択することにより、通常のエクスプローラを開き、カレントエリアにある同じフォルダを表示します。このエクスプローラ上では、新規作成、削除、移動、名前の変更、コピーなどのファイル操作を行えます。必要であれば、エクスプローラの[戻る]ボタンを利用して、「カレント／スタンバイ ファイル比較」表示へ戻ることができます。

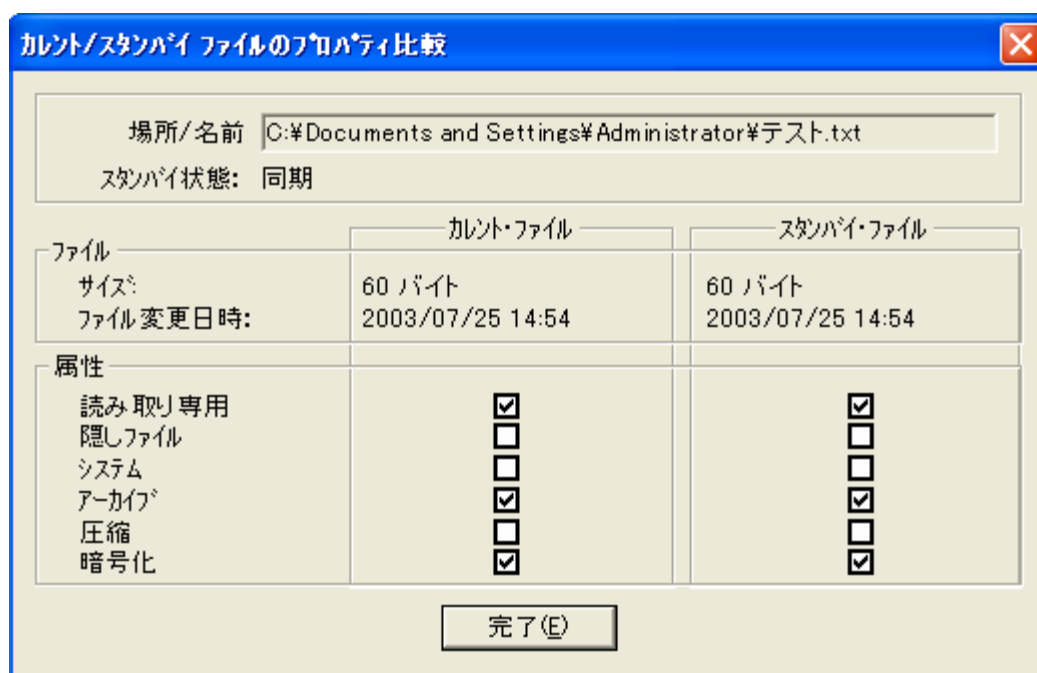
上記以外の点では、通常のエクスプローラと同様の操作で、操作を行うことができます。

関連項目：

StandbyDisk Soloエクスプローラ (p.16)

4. 「プロパティ」機能

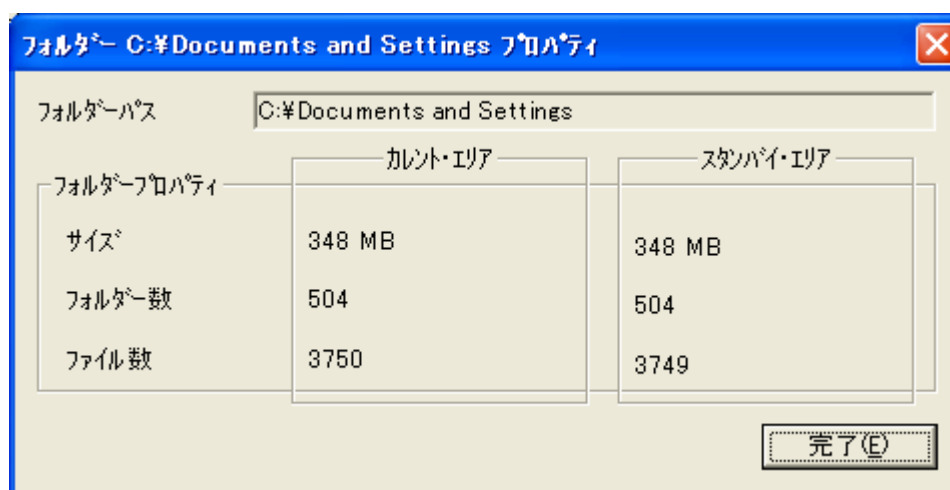
ファイルプロパティ



StandbyDisk Soloエクスプローラのカレント／スタンバイ ファイル比較画面で任意のファイルを右クリックするとコンテキストダイアログを表示します。ダイアログの[プロパティ(P)]を選択すると、以下の情報を表示します。

- ・**ファイルの保存場所**—カレントファイルの保存場所(実際の保存場所)を表示します
- ・**スタンバイ状態**——スタンバイファイルとカレントファイルの同期状態を表示します
- ・**ファイルサイズ**——カレントファイルとスタンバイファイルのそれぞれのサイズを表示します
- ・**ファイル更新日時**——カレントファイルとスタンバイファイルのそれぞれの最新更新日時を表示します
- ・**ファイル属性**——カレントファイルとスタンバイファイルのそれぞれのファイル属性を表示します

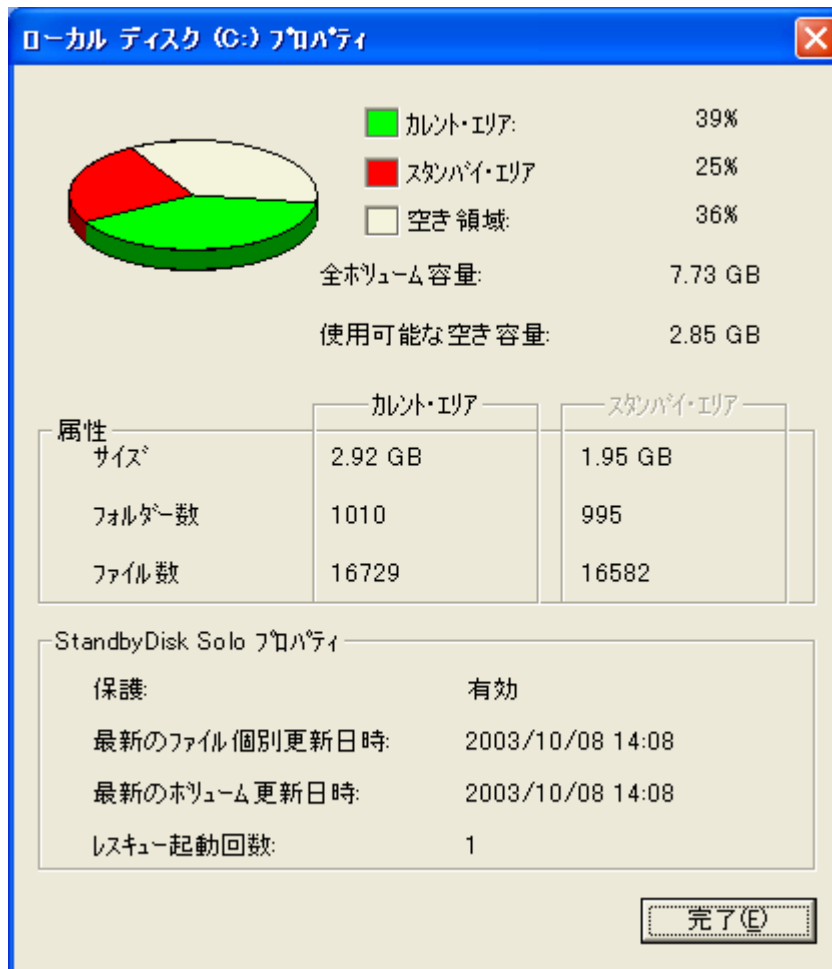
フォルダプロパティ



任意のフォルダを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ(P)]を選択すると、以下の情報を表示します。

- ・**フォルダーパス**—選択したフォルダーの場所を表示します
- ・**サイズ**—サブフォルダーも含むフォルダーの使用容量を表示します
- ・**フォルダー数**—選択したフォルダー内にあるサブフォルダーの総数を表示します
- ・**ファイル数**—選択したフォルダー内にあるファイルの総数を表示します

ボリュームプロパティ

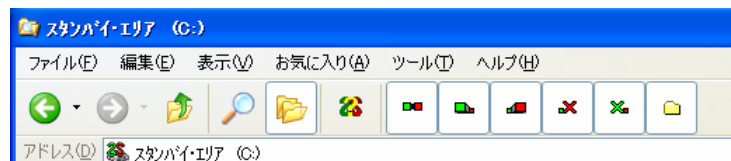


ボリュームを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ(P)]を選択すると、以下の情報を表示します。

- ・**サイズ**—ボリュームのHDDにおける使用容量を表示します
- ・**フォルダー数**—ボリューム内にあるフォルダーの総数を表示します
- ・**ファイル数**—ボリューム内にあるファイルの総数を表示します
- ・**保護**—現在の保護の状態を表示します
- ・**最新のファイル個別更新日時**—最後にファイル・フォルダの個別更新を実行した日時を表示します
- ・**最新のボリューム更新日時**—最後にボリューム全体の更新を実行した日時を表示します
- ・**レスキュー起動回数**—現在までにレスキュー起動を実行した回数を表示します

5. 「スタンバイ状態によるフィルタ」機能

- ✓ 同期(E)
- ✓ 古い(カレントよりも)(Q)
- ✓ 新しい(カレントよりも)(C)
- ✓ 無し(N)
- ✓ スタンバイのみ(S)
- ✓ フォルダを表示する(F)



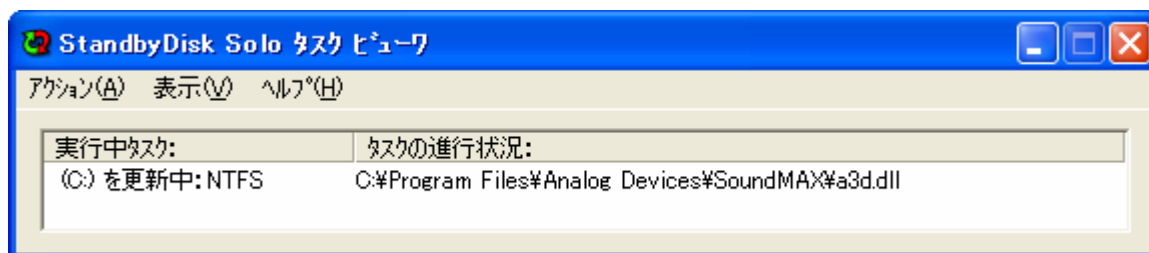
StandbyDisk Soloエクスプローラのメニューバーより、[表示(V)] → [スタンバイ状態によるフィルタ(E)] を選択すると、コンテキストダイアログを表示します。既定ではすべてにチェックが付けられています。(すべてのファイルおよびフォルダを表示するという意味です)

「カレント／スタンバイ ファイル比較」画面においてスタンバイエリアのファイルの状態をフィルタリングします。

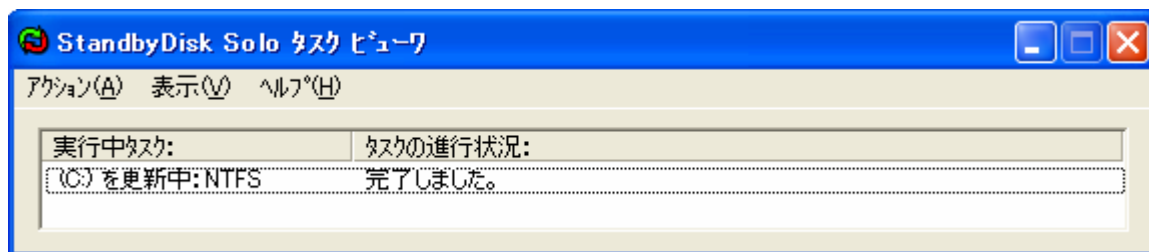
大量のファイルが存在する際に、目的のファイルの状態を確認するの役立つ機能です。

第2節 StandbyDisk Soloタスクビューワ

1. タスクビューワ

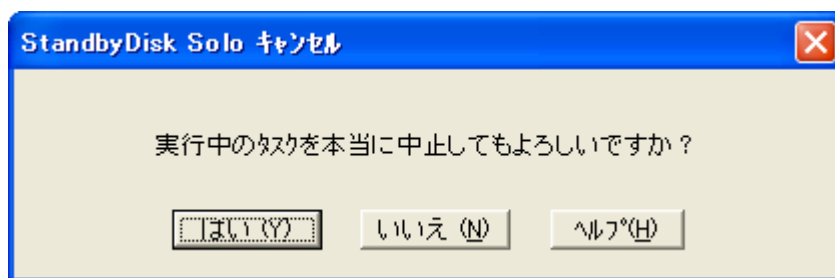


タスクビューワでは、StandbyDisk Soloで行われるボリューム更新、あるいはファイル／フォルダ個別更新、個別復旧の進捗状況を表示します。

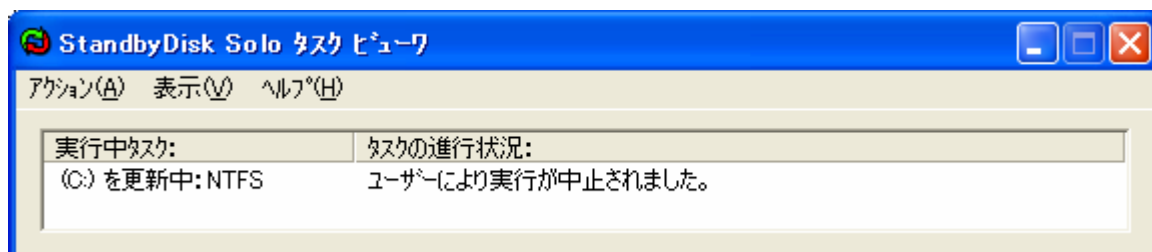


作業が終了すると、進行状況に「完了しました。」と表示します。

また、タスク実行時でも作業を中断することができます。更新・復旧作業を途中でキャンセルするには、[アクション(A)] → [現在のタスクを強制終了(A)]をクリックしてください。または、タスクトレイに常駐しているアイコンを右クリックしてポップアップウィンドウから[現在のタスクを強制終了(A)]を選択してください。



「キャンセル」メッセージが表示された状態で[はい(Y)]を選択すると、中断の処理に入ります。中断のリクエストが確認されてから、実際に処理されるまでに少し時間がかかる場合があります。タスク終了の際に、エラーや警告が画面に表示されていないか確認してください。



何らかのエラーもしくは警告が表示されていた場合にその原因を調べるには、「StandbyDisk Soloの設定」の[イベントログ]タブをチェックするとよいでしょう。

2. メニューバー

◆アクション(A)

現在のタスクを強制終了(A)

実行中のタスクを終了させます。

終了したアイテムのクリア(E)

タスクビュー内の終了したアイテム表示を消去します。

※タスクビュー ウィンドウ内で右クリックして表示されるポップアップウィンドウからでも同様の操作が可能です。

タスクビューを閉じる(C)

タスクビューを閉じます。

◆表示(V)

常に前面に出す(A)

タスクビュー ウィンドウを常に前面に表示します。

イベントログ(E)

「StandbyDisk Soloの設定」の[イベントログ]タブを表示します。

◆ヘルプ(H)

StandbyDisk Soloのバージョン情報(A)

「StandbyDisk Soloの設定」の[バージョン情報]タブを表示します。

StandbyDisk Soloのヘルプ(H)

「StandbyDisk Solo ヘルプ」を表示します。

3. タスクトレイアイコン



パソコンを起動後、ボリュームの更新・個別の更新/復旧を手動もしくは更新スケジュールで起動させると上記のアイコンがタスクトレイに常駐し、StandbyDisk Soloの稼働状態を回転で表示します。StandbyDisk Soloが動作中(更新/復旧)はアイコンが回転します。

アイコンを右クリックすると、タスクビューワに関する操作メニューを表示します。

◆終了したアイテムをクリア(E)

タスクビューワ内の終了したアイテム表示を消去します。

◆現在のタスクを強制終了(A)

実行中のタスクを終了させます。

◆イベントログの確認(V)

「StandbyDisk Soloの設定」の[イベントログ]タブを表示します。

◆常に前面に表示(I)

タスクビューワ ウィンドウを常に前面に表示します。

◆タスクビューワを開く(O)

閉じているタスクビューワ ウィンドウを表示します。

◆タスクビューワの終了(E)

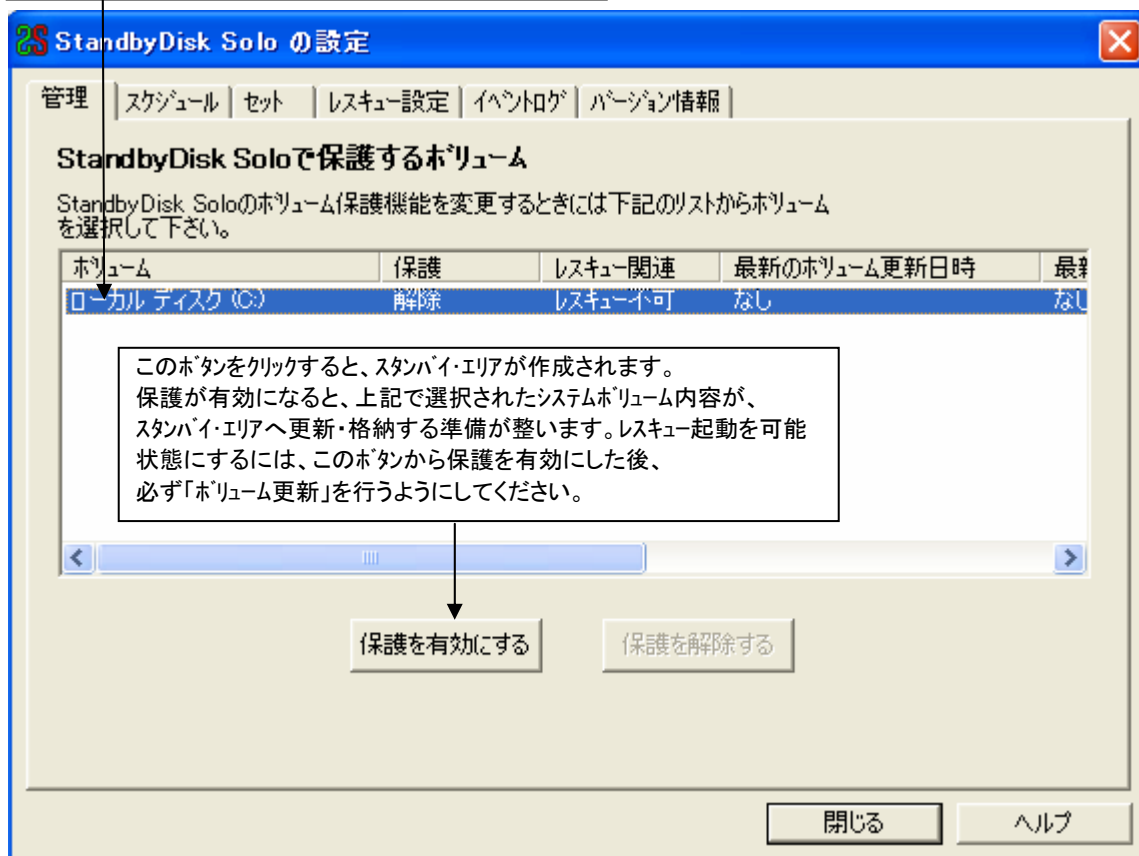
タスクビューワを終了します。

第3節 「StandbyDisk Soloの設定」画面

1. [管理]タブ

「StandbyDisk Soloの設定」の[管理]タブでは、システムボリュームの保護を有効もしくは、解除することができます。保護の有効化は直ちに行われ、ほんのわずかしきディスクスペースを必要としません。この作業では、スタンバイエリアの作成を行います。逆に保護を解除すると、スタンバイエリアを削除し、スタンバイエリアの使用していた領域を開放します。ボリューム更新後に保護を解除すると、使用中の領域の約半分が開放されます。保護を解除する際には、スタンバイエリア内のすべてのファイルがスタンバイエリアと共に削除され、レスキュー起動できなくなりますので十分に注意してください。

保護するボリュームをリストからクリックして選択してください。
クリックするとハイライトされます。StandbyDisk Soloでは、
アクティブなシステムボリューム(オペレーティングシステムが
インストールされたボリューム)のみを保護することができます。
ボリューム更新後、レスキュー可と表示されると、
レスキュー起動することができます。
通常C:ボリュームが保護されます。



[管理]タブ上では、システム上の保護を有効にできるボリュームのリストが表示されます(※本製品では、システムボリュームのみが対象になります)。ボリュームに関する以下の情報を確認することができます。

- **ボリューム名**—ボリュームに付けられた名前
- **保護**—ボリュームの保護が「有効」か「解除」のいずれかにあるかを表示しています
- **レスキュー関連**—「レスキュー不可」、「レスキュー可」、「レスキュー完了」の3つの状態のいずれかが表示されます。「レスキュー不可」はスタンバイエリアがまだボリューム更新されていないためレスキュー起動ができない状態を示します。「レスキュー可」はボリューム更新された状態で、レスキュー起動が可能な状態を示します。「レスキュー完了」はレスキュー起動された後まだボリューム更新されていない状態を示します。この場合、ボリューム更新すると再び「レスキュー可」になります。
- **最新のボリューム更新日時**—最後にボリューム更新された日時が表示されます。
- **最新のファイル個別更新日時**—最後にファイル／フォルダが個別更新された日時が表示されます。
- **合計サイズ**—保護ボリュームの合計サイズ
- **空き領域**—保護ボリュームに現在どれくらい空き領域があるかを示します。保護が解除されている状態から保護を有効にするときは空き領域が合計サイズの50%以上あることを確認して下さい。

保護するボリュームをリストから選んでクリックするとボリュームがハイライトされます。StandbyDisk Soloでは、アクティブなシステムボリューム（オペレーティングシステムがインストールされたボリューム）のみに保護が適用され、レスキュー起動を行うことができます。通常C:ボリュームがシステムボリュームとして保護されます。

ボリュームを選択し、[保護を有効にする]あるいは[保護を解除する]の2つのボタンがありますので、自分の目的に合ったボタンを選びます。

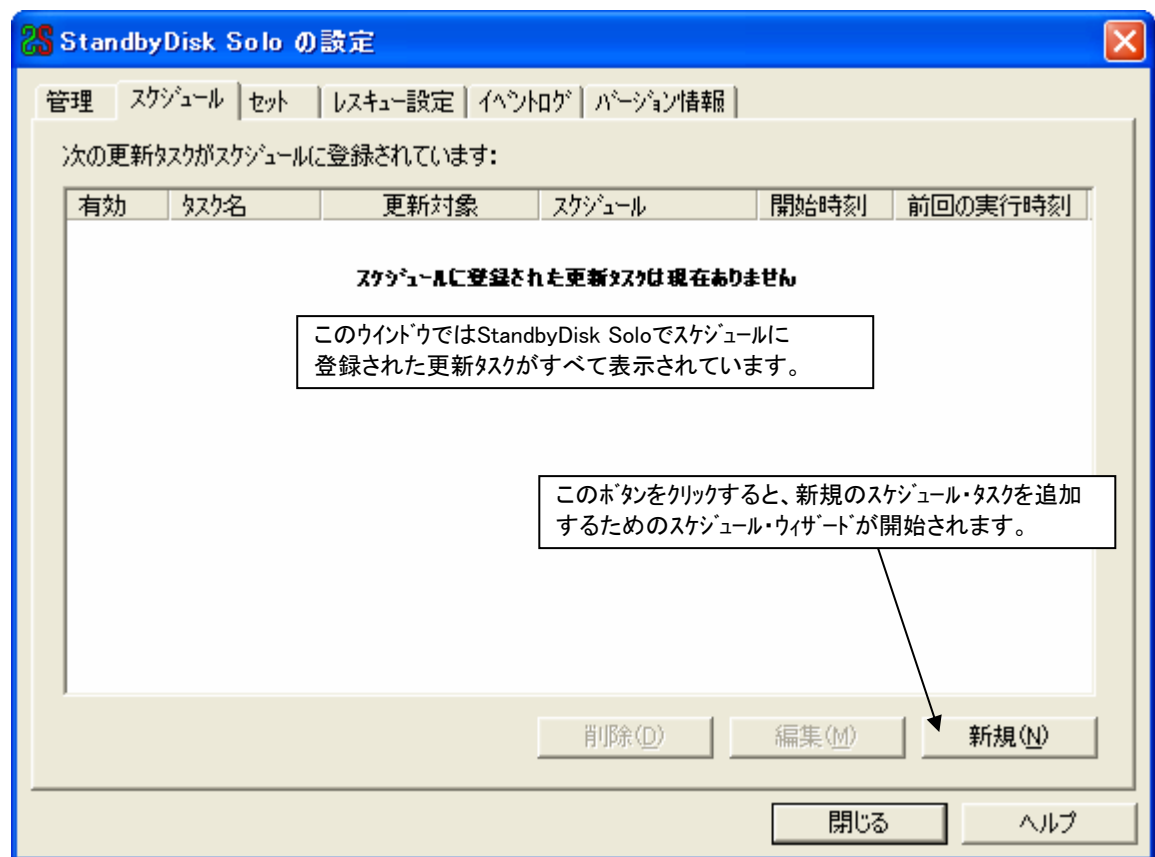
- [保護を有効にする]ボタンをクリックすると、ボリュームの保護が有効になります。
- [保護を解除する]ボタンをクリックすると、スタンバイエリア内のすべてのファイル及びスタンバイエリアを削除します。確認メッセージが表示されますので、[いいえ]ボタンを押すことにより中断することができます。削除作業は、数分かかる場合があります。削除作業を途中で中断する事はできません。

関連項目：

StandbyDisk Soloの各種設定 (p.29)

2. [スケジュール]タブ

「StandbyDisk Soloの設定」の[スケジュール]タブではStandbyDisk Soloでスケジュールされたタスクのリストを表示します。



新規のスケジュールタスクを追加するには、[新規(N)]ボタンをクリックして下さい。削除する場合には削除するタスクをリストから選択しハイライトにしてから、[削除(D)]、編集する場合には[編集(M)]ボタンをクリックして下さい。

- [新規(N)]ボタンをクリックすると、新規のスケジュールタスクを追加するため、スケジュールウィザードが開始されます。
- [削除(D)]ボタンをクリックすると、上記で選択されたスケジュールタスクが削除されます。
- [編集(M)]ボタンをクリックすると、上記で選択されたスケジュールタスクを編集できます。

注) カレントエリアのシステム(現在動作中のシステム)に不具合がある場合は、そのボリューム内容がスタンバイエリアにそのまま反映されてしまわないように、スケジュールに登録されているボリューム更新タスクを無効にして、一時的にタスクがスケジュールで実行されないようにします。更新スケジュールを無効にするには、「更新タスク一覧」からタスクを選択し、「有効」欄のマークをはずします。こうすることで、タスクは再び「有効」になるまで実行されません。

関連項目：

スケジュールを登録する(p. 22)

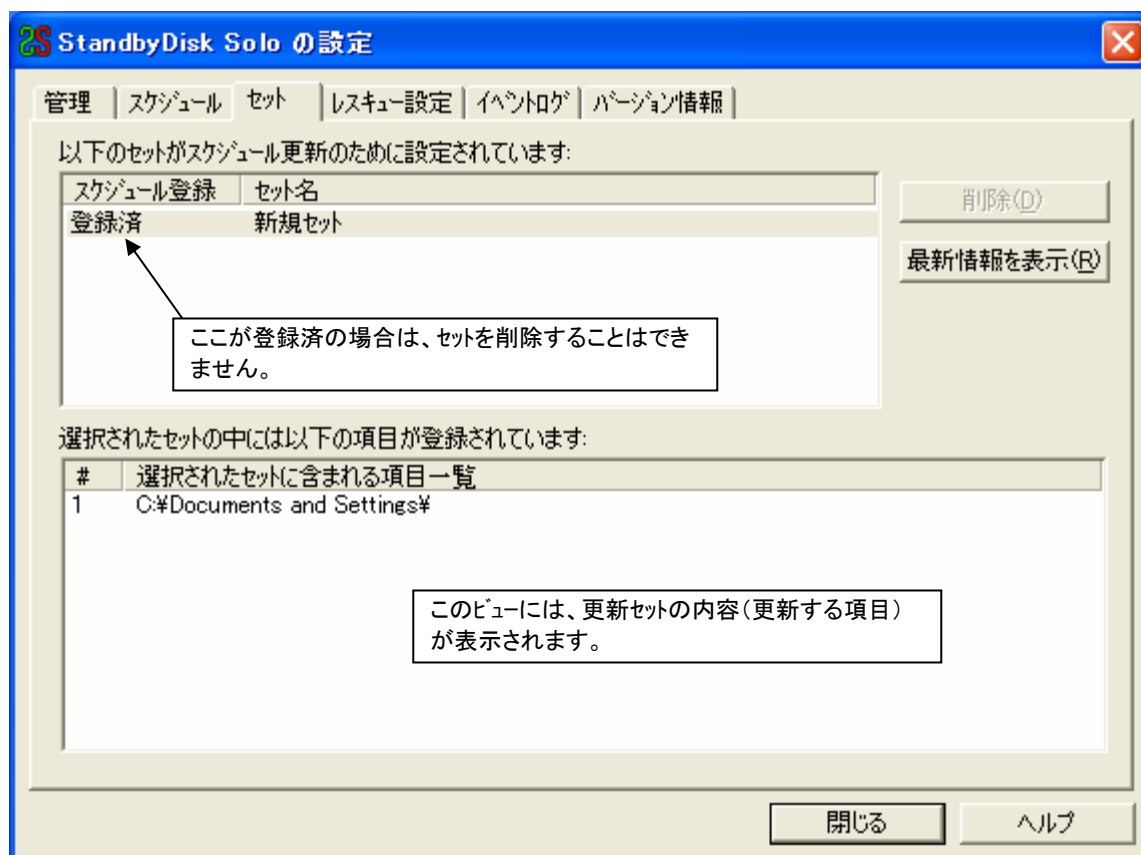
StandbyDisk Soloの各種設定(p. 29)

3. [セット]タブ

「StandbyDisk Soloの設定」→[セット]タブでは、[スケジュール]タブで作成した更新セットの一覧を表示します。

上段ビューのセットを選択すると下段ビューに、更新セットの内容(更新選択項目)を表示します。

セットを削除する際は、そのセットを使用しているスケジュールを[スケジュール]タブで削除してから[削除(D)]ボタンをクリックします。スケジュール登録の項目が「登録済」になっている状態では削除することができません。



関連項目:

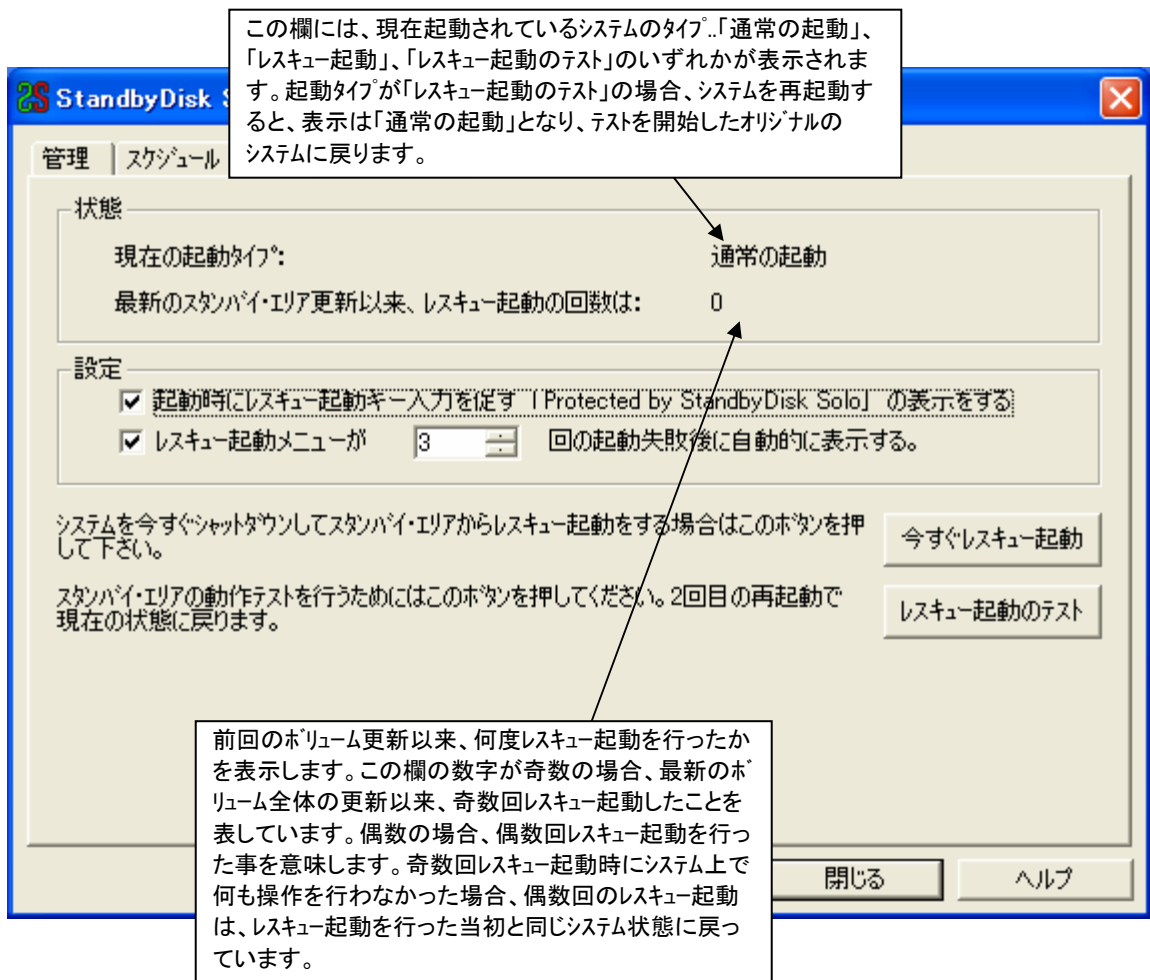
[スケジュール]タブ(p.43)

スケジュールウィザード(p.50)

4. [レスキュー設定]タブ

「StandbyDisk Soloの設定」→[レスキュー設定]タブでは、本製品を熟知されたユーザー用にレスキュー起動の動作を設定することができます。このダイアログボックスでは、現在のレスキュー起動もしくは、テストレスキュー起動の状態を表示し、レスキュー起動の開始を制御します。チェックボックスでは、StandbyDisk Soloの監視機能の動作に関連した設定を行います。

この画面を初めて使用する場合は、操作の前に「第5章/第7節 レスキュー起動」(p. 24)を必ず熟読して下さい。「第7章/第2節 上級者向けレスキュー起動」(p. 70)では、このトピックに関して、さらに詳細な内容を、参照することができます。



[レスキュー起動設定]タブで設定可能な項目は、以下の通りです。

- **現在の起動のタイプ**—この欄には、現在起動されているシステムのタイプ、すなわち「通常の起動」、「レスキュー起動」、「レスキュー起動のテスト」のいずれかが表示されます。起動の種類が「レスキュー起動のテスト」の場合、システムを再起動すると表示は「通常の起動」となりテスト開始前のオリジナルのシステムに戻ります。
- **最新のスタンバイエリア更新以来、レスキュー起動の回数**—この欄では前回のボリューム更新以来何度レスキュー起動を行ったかを表示します。この欄の数字が奇数の場合、最新のボリューム全体の更新より奇数回レスキュー起動したことを表しています。偶数の場合、偶数回レスキュー起動を行った事を意味します。システム上でとくに何もファイル操作を行わずに何度かレスキュー起動を繰り返す場合、システムは偶数回の起動ごとに、最初にレスキュー起動を行ったシステム状態に戻っていると考えられます。テストレスキュー起動から復帰した場合はこの回数は0に戻ります。
- **起動時にレスキュー起動キー入力を促す「Protected by StandbyDisk Solo」の表示をする**—このチェックボックスをオフにした場合、システム起動画面に「Protected by StandbyDisk Solo」のメッセージは表示されなくなります。チェックボックスをオンにした場合は、メッセージが(約2秒間)表示されます。ユーザーはその間に起動プロセスの割り込みをし、レスキュー起動メニューを立ち上げることができます。レスキュー起動メニューの立ち上げ方法は5章の第7節を参照して下さい。
- **レスキュー起動メニューが n 回の起動失敗後に自動的に表示する**—このチェックボックスをオンにすると、n 回(規定は3回。2~10回に設定可能)連続して起動に失敗した後にレスキュー起動メニューが自動的に表示されます。他のオペレーティングシステム(OS)を頻繁に起動するなどで、レスキュー起動メニューを表示させたくない場合にはチェックをオフにしてください。
- **レスキュー起動のテスト**—このボタンをクリックするとテストレスキュー起動を開始します。システムが直ちにシャットダウンされ、レスキュー起動が開始します。レスキュー起動後、再起動すると元のシステムに復帰します。レスキュー起動が正常に動作するかどうかの確認にこのテストレスキュー起動モードを使用して下さい。
- **今すぐレスキュー起動**—このボタンをクリックすると直ちにレスキュー起動を行います。システムがシャットダウンされ、レスキュー起動を行います(この場合にレスキュー起動メニューは表示されません)。

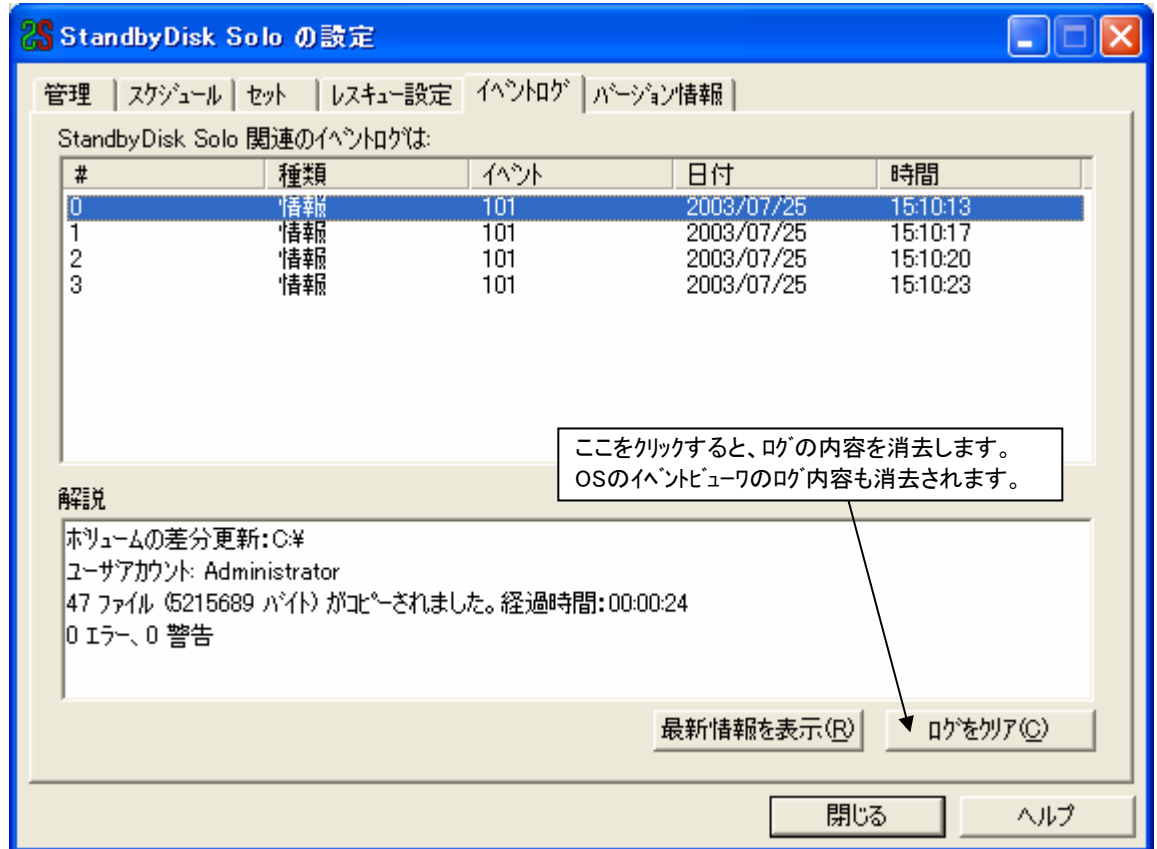
関連項目:

レスキュー起動(p. 24)

StandbyDisk Soloの各種設定(p. 29)

5. [イベントログ]タブ

「StandbyDisk Soloの設定」の[イベントログ]タブは、ボリュームやファイルの復旧、更新の動作結果や警告、エラー情報を記録しています。



一覧から任意のイベントを選択すると、下段の「解説」欄に詳細情報を表示します。

このイベントログの内容はOSのイベントビューアと連動しており、同様の内容を表示しています。[ログをクリア(C)]ボタンをクリックすると、[イベントログ]タブとOSのイベントビューアの両方の内容を消去します。

6. [バージョン情報]タブ

「StandbyDisk Soloの設定」の[バージョン情報]タブには登録ユーザー情報や製品のバージョン情報、またインターネット上で参照できるアップグレード情報のためのホームページアドレスなどが記載されています。インターネットに接続されている状態でアップグレードボタンをクリックするとアップグレード情報のホームページが自動的に開きます。

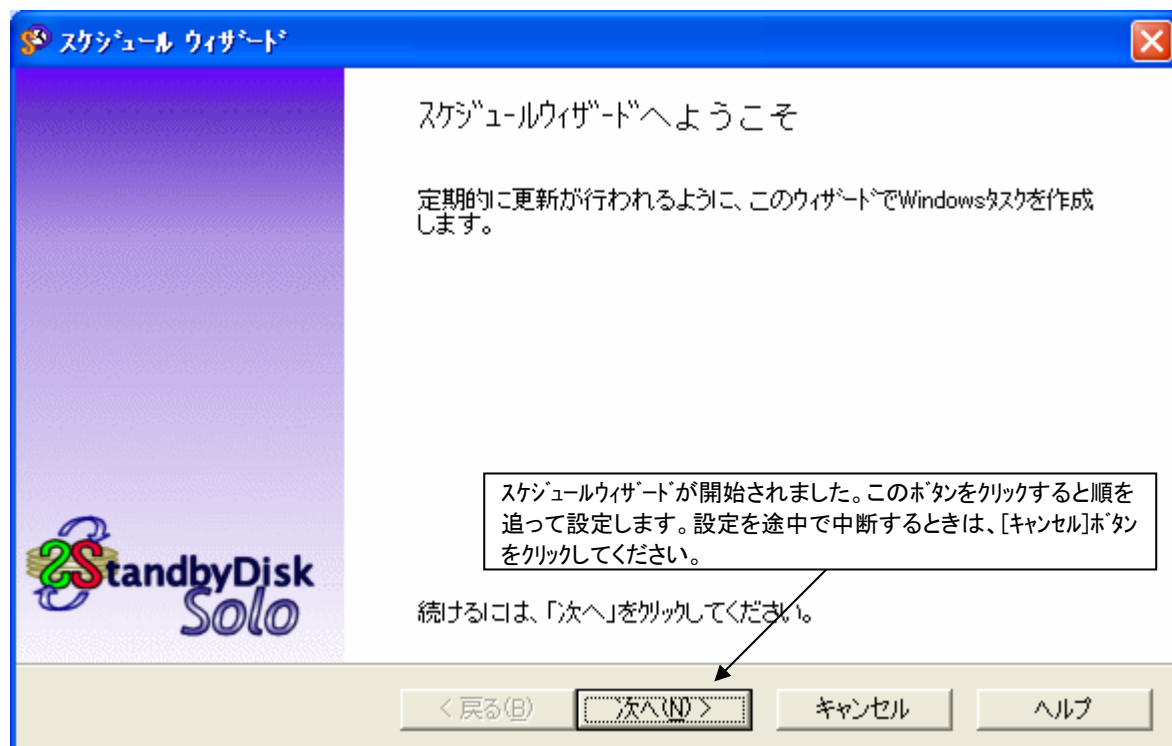


関連項目：

StandbyDisk Soloの各種設定(p. 29)

第4節 スケジュールウィザード

1. 「スケジュールウィザードへようこそ」画面



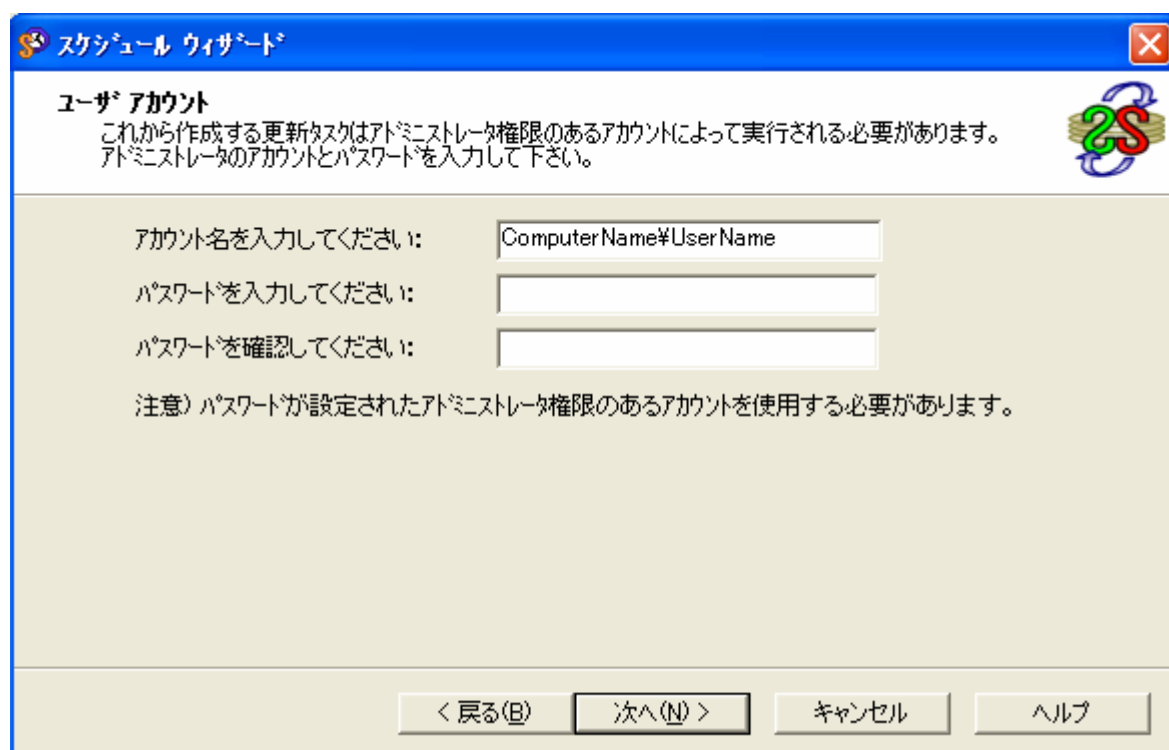
スケジュールウィザードが開始されると上記の画面が表示されます。そのまま[次へ(N)]をクリックすると、新しいスケジュールタスクの設定を開始します(もしも有効にならない場合は、以下にある「[次へ(N)]ボタンが有効にならない」をお読み下さい)。「次へ(N)]ボタンを押すと、それ以降順を追って設定画面が表示されます。

ウィザードではボリューム、フォルダ、ファイルいずれかを対象として、スタンバイエリアを更新するスケジュールを登録しますので、必要な情報を入力してください。スケジュールの構成には、アドミニストレータ権限を持ったユーザー名とパスワードが必要になります。スケジュールの頻度の設定単位は、毎日、毎週、毎月から選択することができます。次に、タスクの開始時刻、日付、更新するボリューム、フォルダ、ファイルの選択を行い、タスクに名称とコメントを付け加えることができます。

注) もしも[次へ(N)]ボタンが有効にならない場合には、保護が有効になっていない可能性があります。「ボリュームの保護を有効にする」(p. 18)の項目をまず読んで、保護を有効にしてからスケジュールの設定を行って下さい。

2. 「アドミニストレータ権限のあるアカウント情報を入力」画面

この画面では、ユーザーアカウントとパスワードを入力します。ユーザーアカウントの欄では、Windowsユーザーネームを入力してください(例: マシン名¥ユーザー名)。



スケジュール ウィザード

ユーザー アカウント

これから作成する更新タスクはアドミニストレータ権限のあるアカウントによって実行される必要があります。
アドミニストレータのアカウントとパスワードを入力して下さい。

アカウント名を入力してください: ComputerName#UserName

パスワードを入力してください:

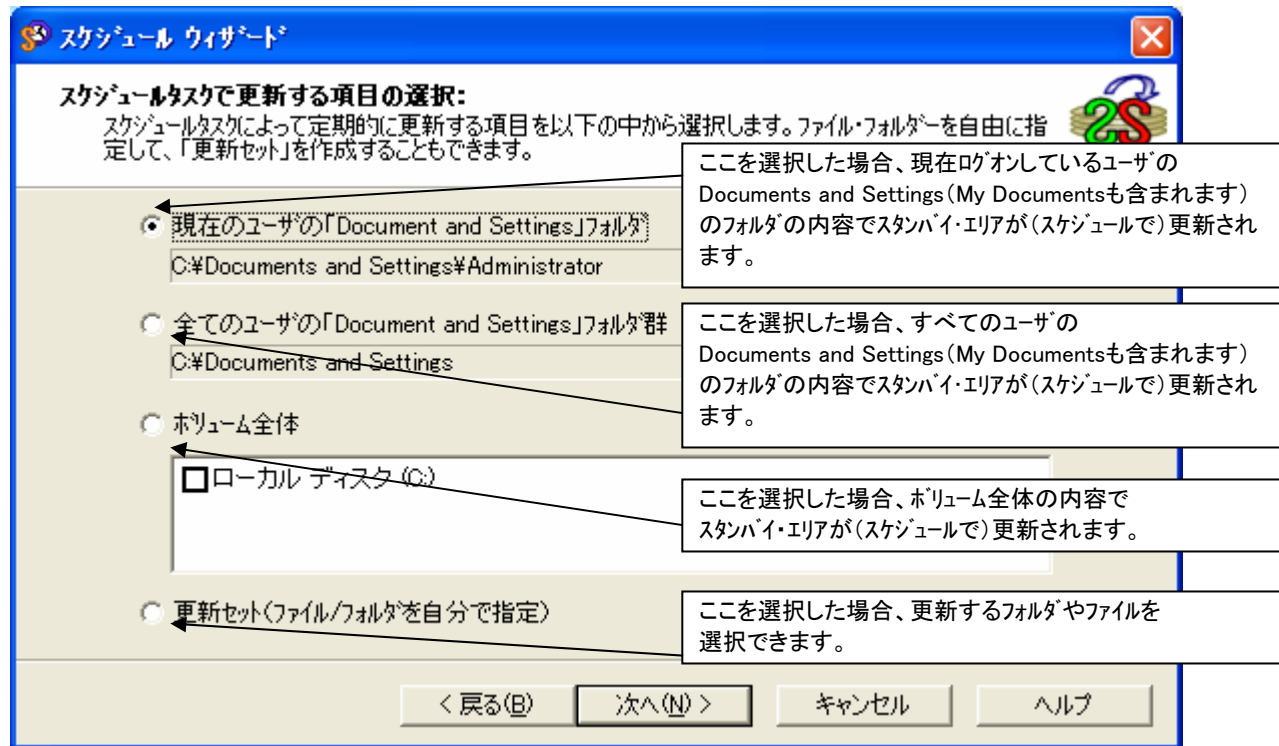
パスワードを確認してください:

注意) パスワードが設定されたアドミニストレータ権限のあるアカウントを使用する必要があります。

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

StandbyDisk Soloの更新スケジュール機能はウィンドウズのスケジュールタスク機能と連動しています。Windows上でタスクを作成する場合、必ずユーザー設定をする必要がありますが、StandbyDisk Soloでは、アドミニストレータ権限の持つユーザーでなければタスクをスケジュールに登録できないようになっています。また、Windowsでは「タスク設定するユーザーアカウントがアドミニストレータである場合、ほとんどのケースにおいてパスワードが設定されていること」とされています。アドミニストレータ権限のアカウントにパスワードが設定されていない場合は、StandbyDisk Soloのスケジュールが動作しない可能性がありますので注意して下さい。

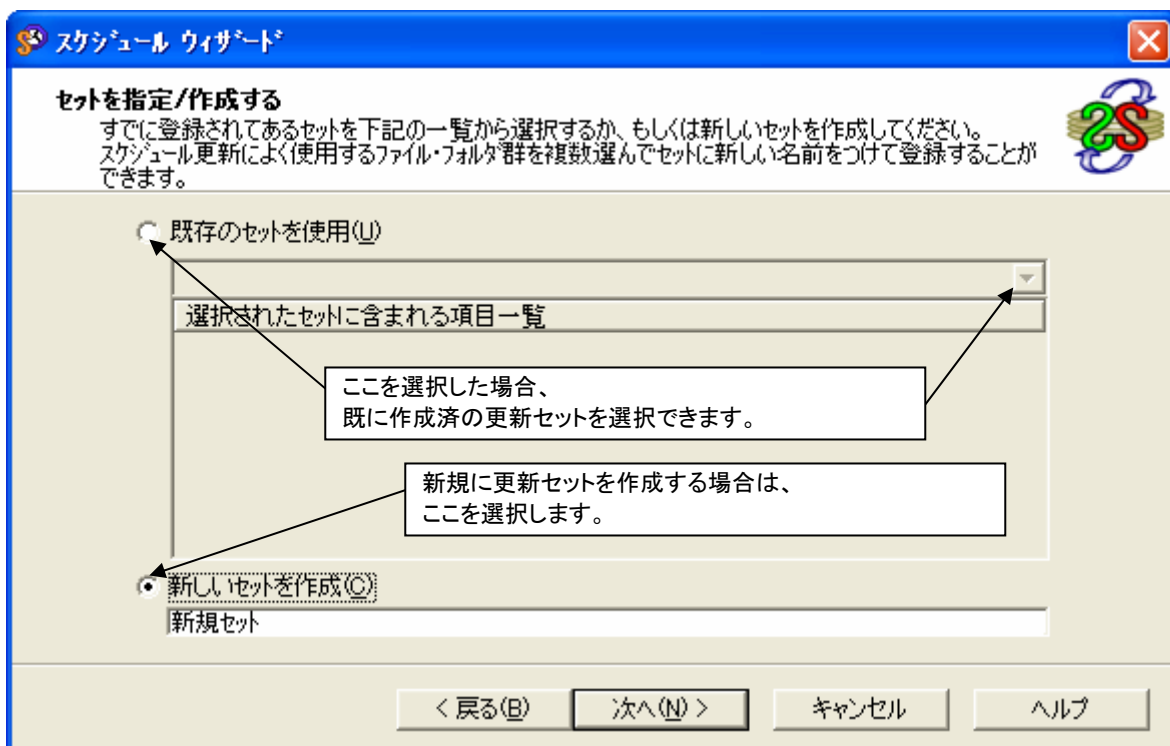
3. 「スケジュールタスクで更新する項目の選択」画面



この画面ではスケジュールに登録する更新内容(どのアイテムを更新させるか)を選択します。アイテムには[現在のユーザのDocuments and Settingsフォルダ]、[全てのユーザのDocuments and Settingsフォルダ]、[ボリューム全体]、[更新セット(ファイルやフォルダを指定できます)]のいずれかを選択することができます。ファイルやフォルダを指定する場合は、更新セットのラジオボタンをマークし、次のウィンドウで任意のファイルやフォルダを指定します。

- **現在のユーザの「Documents and Settings」フォルダ**を選択することにより、スケジュールタスク動作時に、スタンバイエリアをDocuments and Settings\現在ログオン中のユーザの名前のフォルダとその内容で部分的に更新します。
- **全てのユーザの「Documents and Settings」フォルダ**を選択することにより、スケジュールタスク動作時に、スタンバイエリアをDocuments and Settingsフォルダとその内容で部分的に更新します。
- **ボリューム全体**を選択することにより、スケジュールタスク動作時に、スタンバイエリアをボリューム全体の内容で更新します。
- **更新セット**を選択することにより、スケジュールタスク動作時に、スタンバイエリアを選択したフォルダやファイルとその内容で部分的に更新します。

4. 「セットを指定/作成する」画面

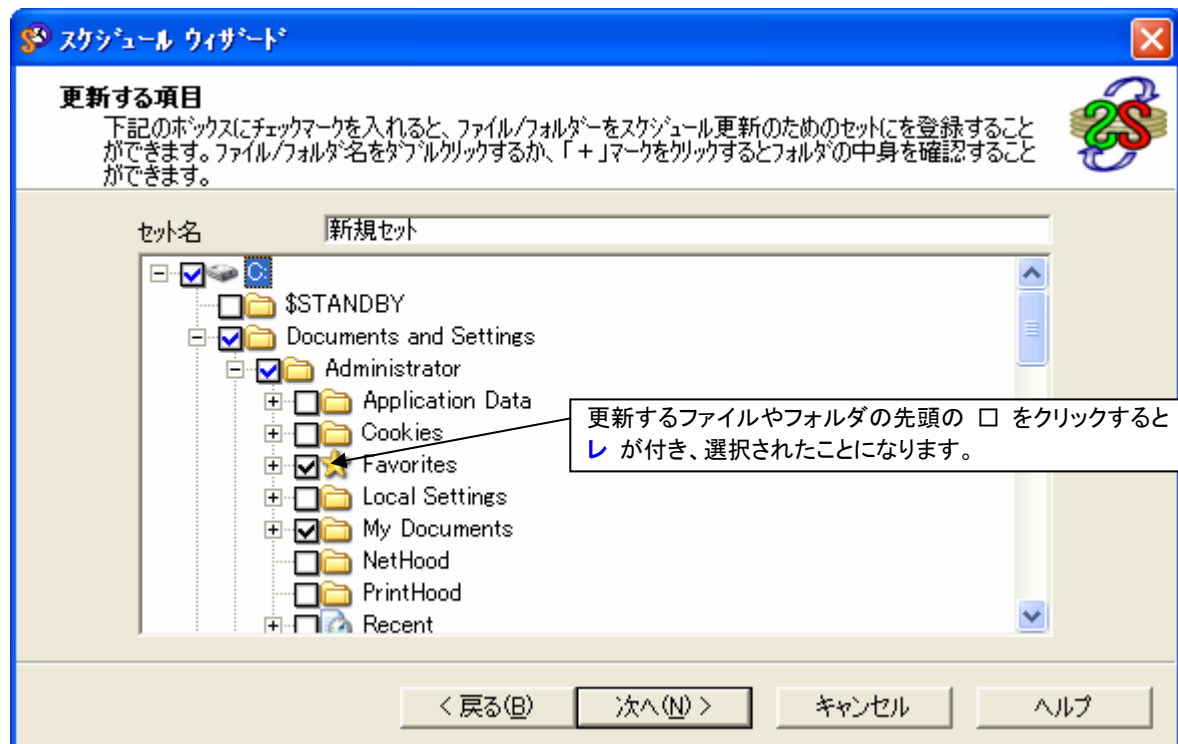


この画面では、更新セットを既存のセット(既に作成済のセット)を使用するか新規作成するかを選択します。

既存のセットを使用する場合、ドロップダウンリストからセットを選択する事ができます。

新規セットを作成する場合、セットに一意の名前を付けてください。

5. 「更新する項目」画面



フォルダのツリー表示を利用して、スタンバイエリアを個別更新するフォルダを選択します。マウスで更新したいファイルやフォルダのアイコンの先頭の ☐ をクリックして ☒ を付けて選択します。複数のファイルやフォルダを指定できるので、この動作を繰り返します。

フォルダやドライブは、アイコンをダブルクリックするか +マーク をクリックするとツリーを展開することができます。

6. 「更新時間を選択してください」画面

この画面では、タスクの実行頻度と開始日及び時間を設定します。「2週間に1回」など、さらに細かくスケジュールを設定したい場合、この後の完了ページで詳細設定を選択することによって可能です。

スケジュール ウィザード

更新時間を選択してください。
更新タスクを実行する頻度と開始時間を選択して下さい。

下記の頻度でこのタスクを実行:

☒ 日単位
☐ 週単位
☐ 月単位

開始時間(T):
0:00

開始日付(D):
2003/07/10

時間を直接入力するか矢印をクリックして数字を変更することにより、更新開始時間を設定することができます。

日付を直接入力するか矢印をクリックしてカレンダーから日付を選択することにより、更新開始日付を設定することができます。

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

- **日単位**を選択すると、更新が毎日1回の頻度で行われるように設定されます。1日に複数回タスクが実行されるようにしたい場合や、複数日に1回ごとにタスクが実行されるようにしたい場合などは、このウィザードの終了時に[完了ボタンをクリック後、拡張プロパティを開きます(A)]と書かれた項目のチェックボックスにマークをして、詳細設定画面で別途設定を行って下さい。
- **週単位**を選択すると、更新が1週間に1回の頻度で行われるように設定されます。複数週に1回ごとにタスクが実行されるようにしたい場合などは、このウィザードの終了時に[完了ボタンをクリック後、拡張プロパティを開きます(A)]と書かれた項目のチェックボックスにマークをして、詳細設定画面で別途設定を行って下さい。
- **月単位**を選択すると、更新が1ヶ月に1回の頻度で行われるように設定されます。複数月に1回ごとにタスクが実行されるようにしたい場合などは、このウィザードの終了時に[完了ボタンをクリック後、拡張プロパティを開きます(A)]と書かれた項目のチェックボックスにマークをして、詳細設定画面で別途設定を行って下さい。

◆ 開始時間の入力:

時間を直接入力するか矢印をクリックして数字を変更することにより、更新開始時間を設定することができます。

◆ 開始日の入力:

日付を直接入力するか矢印をクリックしてカレンダーから日付を選択することにより、更新開始日付を設定することができます。

7. 「タスク名」画面

スケジュール ウィザード

タスク名
タスク名と説明を入力してください。

タスク名: 日単位 StandbyDisk Solo の更新

コメント: このスケジュールタスクがスタンバイエリアに更新する項目: ローカル ディスク (C:)

タスク名の詳細をコメントとして記述します。すでに記述されているコメントに独自のコメントを付け加えるのがいいでしょう。

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

スケジュールされた複数のタスクリストを見分けるために、スケジュールに独自の名称と説明を加えることができます。スケジュールウィザードは、作成したタスクに対してデフォルト(既定)の名称がつけられていますが、独自のタスク名を設定することもできます。更新スケジュールのタイミングや更新の対象となるファイル/フォルダ/ボリューム名などを記述しておくといでしょう。また、そのタスク名の詳細をコメントとして記述できます。すでに記述されているコメントに独自のコメントを付け加えるのがいいでしょう。

8. 完了ページ

スケジュールウィザードの最終画面では、これからWindowsタスクスケジューラへ登録されるタスクの詳細情報を確認します。表示されたデータが間違っていた場合、[戻る]ボタンをクリックすると、前のページに戻ることができますので、もし入力したデータが間違っていたとしても修正できます。



Windowsに登録されるタスク名がここに表示されます。
この名称はコントロールパネルの[タスク]を表示したときにも
使用されます。

このタスクが更新するアイテムが表示されています。

WindowsがStandbyDisk Soloで
設定されたタスクを実行する頻度。

このボックスをマークすると、タスクが実行される前に
確認のダイアログを表示します。


このボックスをマークすると、拡張プロパティウィンドウを開き、
スケジュールの頻度等の詳細設定をWindowsのタスク設定
機能を用いて行うことができます。

上記の設定でよければ[完了]ボタンをクリックしてタスクを登録してください。
登録されたタスクは[スケジュール]タブのタスク一覧リストで、
登録された更新セットは[セット]タブのセット一覧リストで確認できます。

また、このページには、スケジュールウィザード終了後に拡張プロパティダイアログを開くためのチェックボックスがあります。このチェックボックスは、より詳細な設定を行うときにのみ利用して下さい。拡張プロパティダイアログでは、スケジュールの分単位での実行や、その他さまざまな起動条件タスクを設定することができます。Windowsタスクスケジューラについての情報は、Windowsのヘルプを参照してください。

日単位 StandbyDisk Solo の更新

タスク | スケジュール | 設定

 C:\WINDOWS\Tasks\日単位 StandbyDisk Solo の更新.job

実行するファイル名(R): "C:\Program Files\Net Japan\StandbyDisk Solo\Sol

参照(R)...

開始(T):

コメント(C): このスケジュールタスクがスタンバイエリアに更新する項目: ローカル ディスク (C)

実行するアカウント名(U): ComputerName\User Name

パスワードの設定(S)...

☒ 実行する (スケジュールされたタスクは指定の時間に実行されます)(E)

OK キャンセル 適用(A)

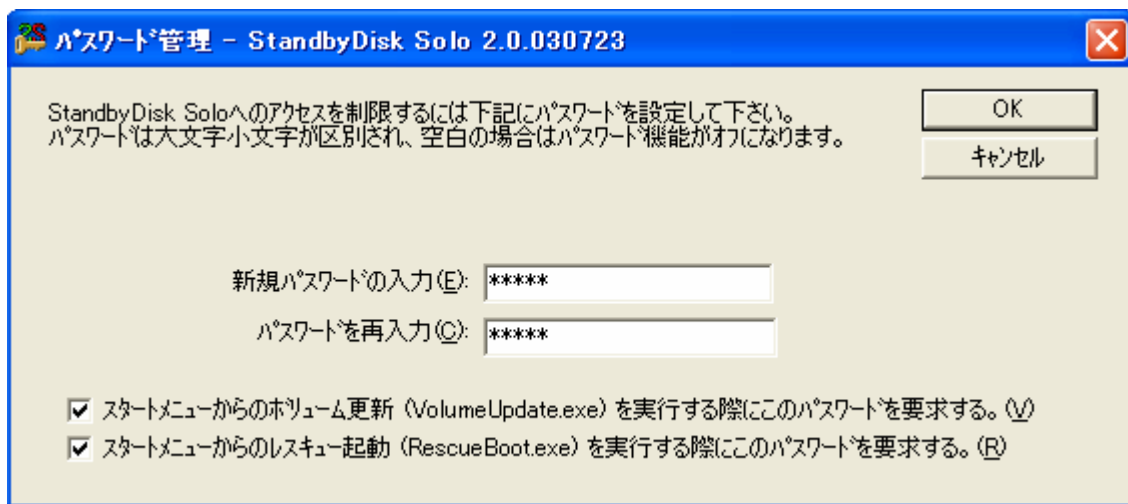
スケジュールの拡張プロパティダイアログを開いた際に、StandbyDisk Soloのスケジュールウィザードによって設定された重要なパラメータは、必要がない限り変更しないようにしてください。パラメータが変更されることによりタスクがエラーとなり実行されない場合があります。とくに、SoloCmdLine.exeと書かれた行に続くオプションパラメータは、変更しないで下さい。頻度や名称、アクセス権に関わるオプションだけを設定し、他に設定する項目が無ければ、ウィンドウを閉じてください。

スケジュールウィザードの完了ページで[完了]ボタンを押すと、拡張プロパティダイアログからスケジュールウィザードに戻ることはできません。「StandbyDisk Soloの設定」の[スケジュール]タブで新しいスケジュールタスクが登録されたか確認して下さい。ここでさらに[新規(N)]ボタンを押すとスケジュールウィザードが開き、新たに別のタスクを作成することができます。また、既存のスケジュールを、[編集(M)]ボタンをクリックすることで編集することも可能です。

関連項目:

スケジュールを登録する(p. 22)

第5節 「パスワード管理」画面



[すべてのプログラム(P) / プログラム(P)] → [StandbyDisk Solo] → [ユーティリティ] → [ボリューム更新]と[レスキュー起動]にはパスワード保護機能があります。

[すべてのプログラム(P) / プログラム(P)] → [StandbyDisk Solo] → [ユーティリティ] → [パスワード管理]をクリックすると「パスワード管理」の画面が起動します。

パスワード入力欄をブランク(空白)にした場合はパスワード機能は無効になります。

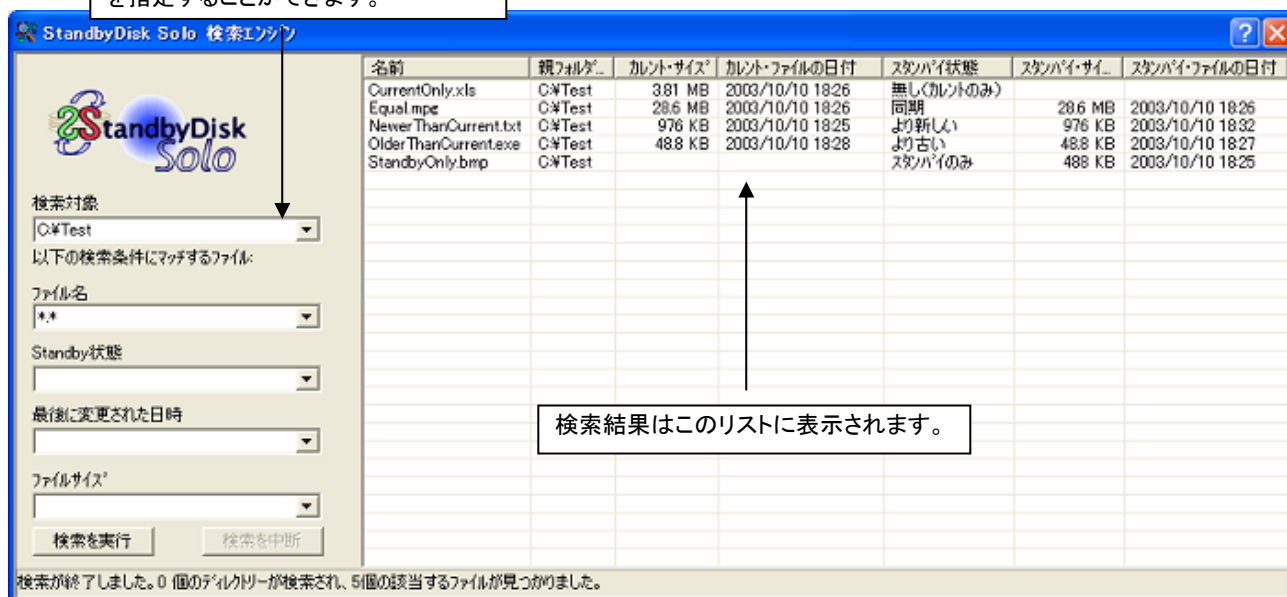
パスワードは大文字小文字を区別しますので入力にはご注意ください。

パスワードを有効にする際、ボリューム更新 (VolumeUpdate.exe) とレスキュー起動 (RescueBoot.exe) を使用した時にパスワード要求ダイアログを表示するか否かをチェックボックスで選択できます。

注意) StandbyDisk Soloをインストールした直後は、パスワードは「SDSRB」に設定されています。

第6節 「検索エンジン」画面

このメニューから検索したいファイルを指定することができます。

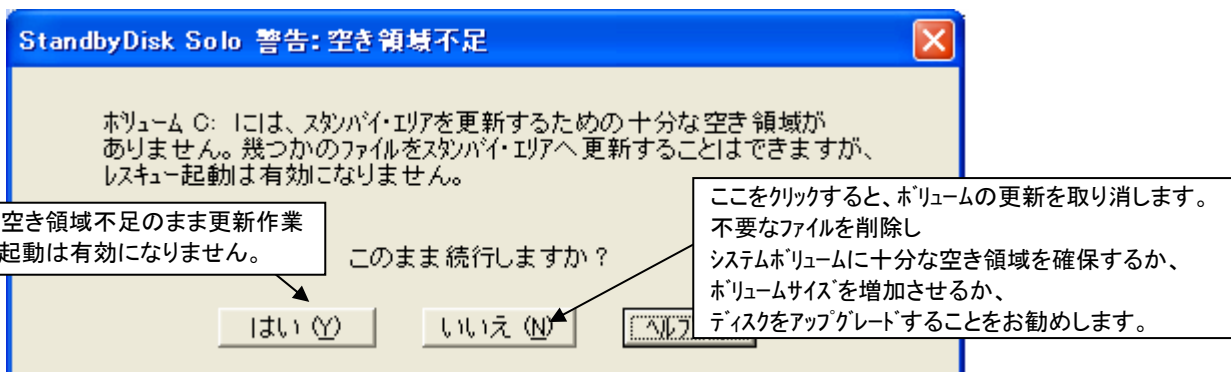


左側のメニューから検索したいファイル指定し「検索を実行」ボタンをクリックすることで、検索を実行できます。検索が終了したら条件に合致したファイルが右側のリストに表示されます。表示されたファイルを選択して、スタンバイエリアへの更新やカレントエリアへの復旧を行なうことができます。

- **検索**—検索する対象を指定できます。
- **ファイル名**—検索するファイルの名前を指定できます。
- **Standby状態**—Soloエクスプローラにおける、ファイルの保護状態を指定できます。
- **最後に変更された日時**—タイムスタンプを「～日時以前」「～日時以降」形式で指定できます。
- **ファイルサイズ**—ファイルのサイズを「～より大きい」「～より小さい」形式で指定できます。

第7節 各種メッセージ&警告

1. 「警告:空き領域不足」メッセージ

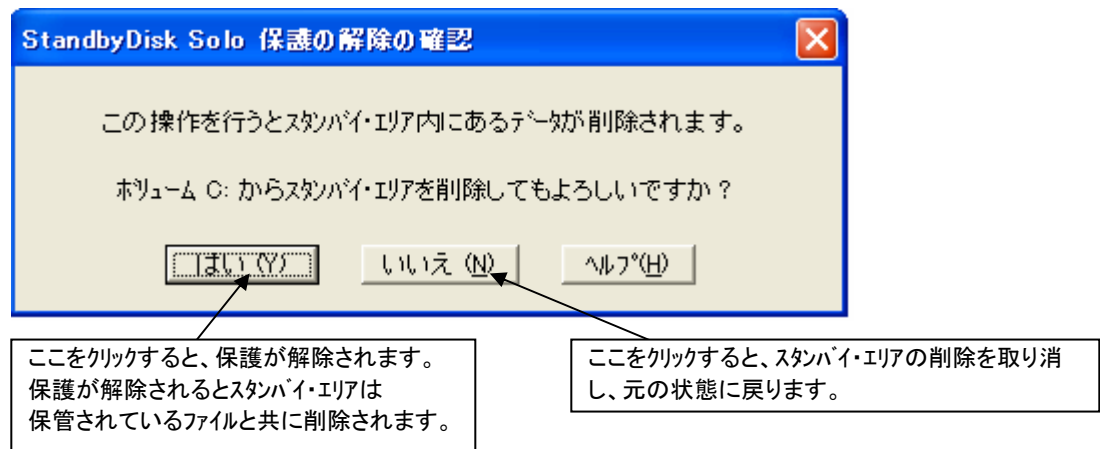


現在、システムボリュームはボリュームサイズの50%以上を使用しています。ボリュームの更新はディスクが一杯になるまで行われますが、完了しない場合はその時点で中断されます。ディスク容量不足のエラーは、イベントログに記録されます。更新が完了しないとレスキュー起動は有効になりません。また、更新もしくは保護されないファイルが存在する可能性があります。継続する前に不要なファイルを削除し、ディスクの空き容量を十分に確保するか、ボリュームサイズを増やして下さい。このまま続行する場合には、[はい(Y)]をクリックしてください。

関連項目:

ディスクの空き容量 (p. 76)

2. 「保護の解除の確認」メッセージ



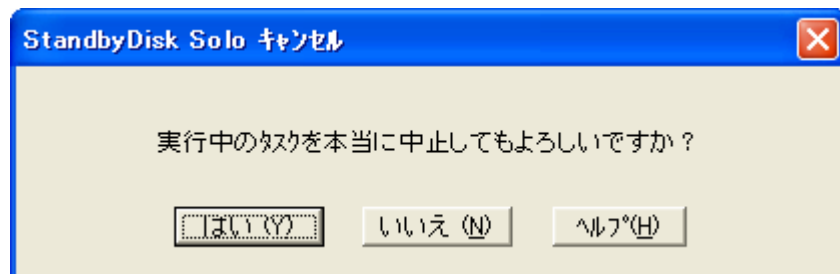
このメッセージはボリュームの保護を解除する際に、表示されます。この操作は一度了承すると途中で中止することはできません。

[はい(Y)]と答えて即スタンバイエリアの削除を実行するか、[いいえ(N)]と答えて何も実行せずキャンセルすることができます。

関連項目：

保護の解除(p. 32)

3. 「キャンセル」の確認ダイアログ



中断する場合は、[はい(Y)]をクリックし、そのままタスクを続行する場合は[いいえ(N)]をクリックします。

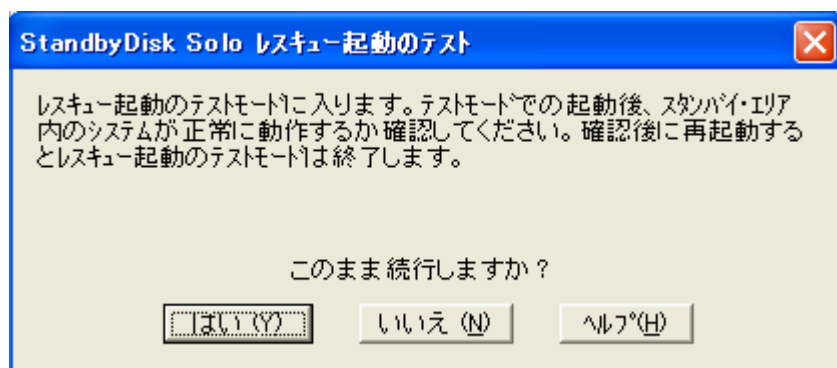
関連項目：

スタンバイエリアをボリューム更新する(p. 20)

ファイル／フォルダをスタンバイエリアへ更新する(p. 22)

ファイル／フォルダの復旧(p. 27)

4. 「レスキュー起動のテストの警告」メッセージ



[はい(Y)]をクリックすると**レスキュー起動のテスト**を開始します。システムが直ちにシャットダウンされ、レスキュー起動のテストを開始します。再起動すると元のシステムに復帰します。レスキュー起動が正常に動作するかどうかの確認にこのレスキュー起動のテストモードをご使用下さい。

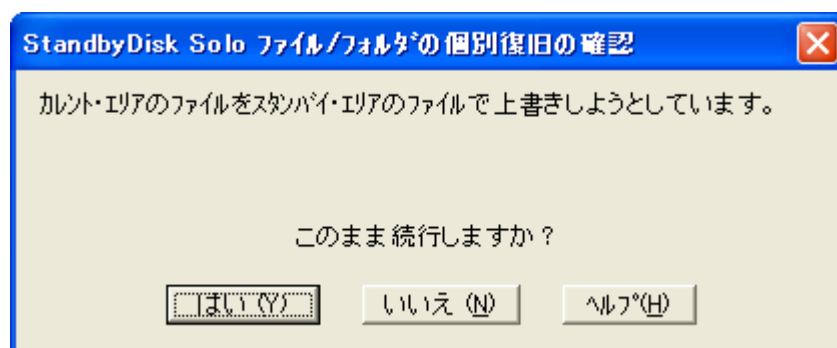
[いいえ(N)]をクリックすると、レスキュー起動のテストを開始せずに取り消します。レスキュー起動を十分に理解してから、利用して下さい。

関連項目：

レスキュー起動(p. 24)

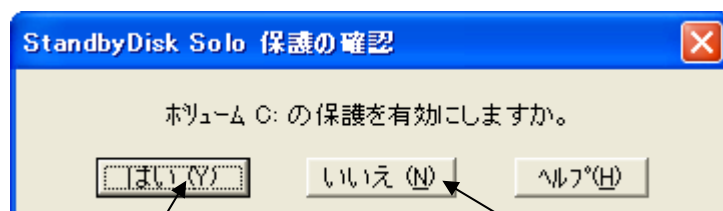
5. 「ファイル・フォルダの復旧の確認」メッセージ

ファイル・フォルダの個別復旧を行う際に、下記のような再確認メッセージが表示されます。



[はい(Y)]を選択するとファイル・フォルダの個別復旧が実行されます。カレントファイルはスタンバイファイルの内容と同一になり、スタンバイ状態は「同期」と表示されます。[いいえ(N)]を選択すると操作を実行せずにキャンセルします。

6. 「ボリュームの保護の確認」メッセージ



ここを選択すると、システムボリュームの保護を有効にします。

ここをクリックすると、保護作業は取り消され、何も行いません。

このダイアログが表示された後、[はい(Y)]をクリックすると、システムボリュームの保護が有効になります。

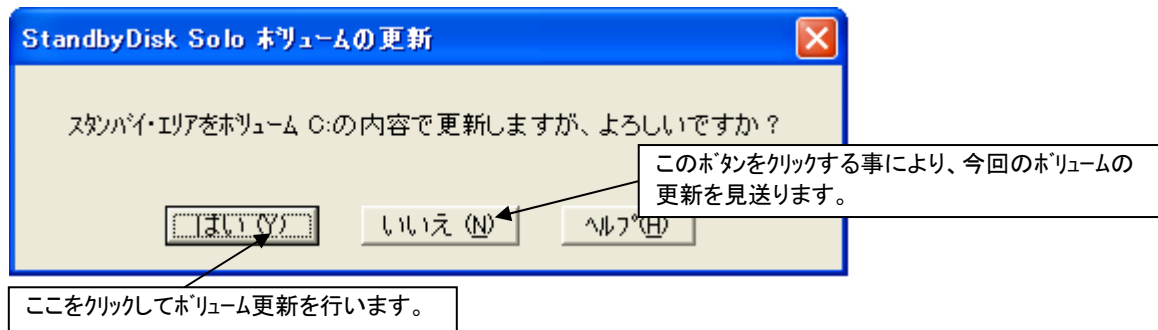
保護を有効にして初めて、StandbyDisk Soloの保護機能は使えるようになりますので、ここはアプリケーションを開始する感覚で[はい(Y)]をクリックし、保護を有効にしてください。この操作により、空のスタンバイエリアが作成され、スタンバイエリアをボリューム内容で更新する準備が整います。[はい(Y)]をクリックすると、続いて**ボリューム更新**するかどうかを聞く確認ダイアログが表示されます。保護を有効にしない場合は[いいえ(N)]をクリックして下さい。

関連項目：

ボリュームの保護を有効にする(p. 18)

7. 「ボリューム更新を確認する」メッセージ

すでにスタンバイエリアが設定されている場合：



スタンバイエリアをボリューム更新する際に、確認ダイアログが表示されます。
[はい(Y)]をクリックすることにより、現在のカレントボリュームの内容で、スタンバイエリアが上書きされます。

カレントボリューム上で最新のボリューム更新のとき以来変更されたファイルだけが更新されます。
(差分更新)

更新が成功するとスタンバイエリアとカレントエリアの内容は等しくなり、カレント／スタンバイ ファイル比較画面においてスタンバイ状態が「同期」と表示されます。

[いいえ(N)]をクリックすると、ボリューム更新をせずにキャンセルします。

関連項目：

スタンバイエリアをボリューム更新する(p. 18)

初めてボリューム更新する場合：



スタンバイエリアを初めてボリューム更新する際、本当に更新するかどうかを問う確認メッセージが表示され、このまま続けるかどうかを決定することができます。

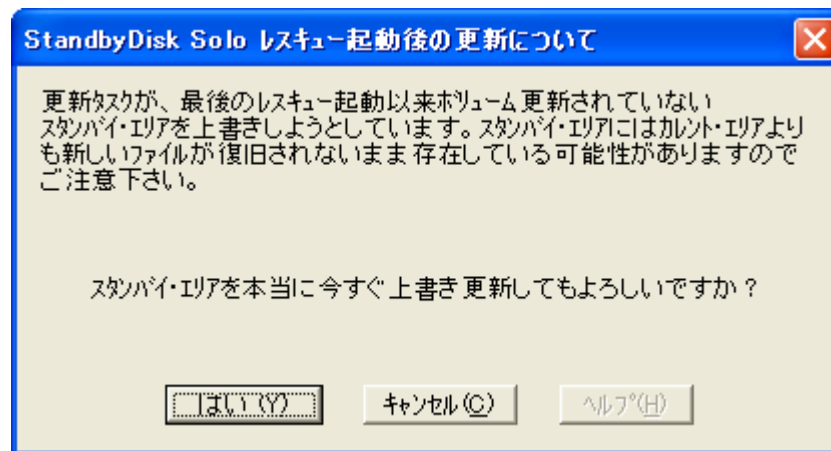
[はい(Y)]を選択することにより、現在のカレントボリュームの内容で、スタンバイエリアが上書き更新

されます。更新が成功するとスタンバイエリアとカレントエリアの内容は等しくなり、「カレント／スタンバイ ファイル比較」画面においてスタンバイ状態が「同期」と表示されます。[いいえ(N)]ボタンをクリックすると、ボリュームの更新をせずにキャンセルすることができます。

関連項目：

スタンバイエリアをボリューム更新する(p. 20)

8. 「レスキュー起動後の更新について」メッセージ



上記のメッセージはレスキュー起動後からボリューム更新またはフォルダの個別更新されるまでの間に、スタンバイエリアに変更を加える何らかの更新タスクが実行されようとした場合に表示されます。たとえば、以下のような場合です。

- 更新スケジュールがすでに登録されている場合で、スケジュールが実行されようとしたとき
- 手動でボリューム更新しようとした場合
- 手動で個別更新しようとした場合

関連項目：

スタンバイエリアをボリューム更新する(p. 20)

レスキュー起動(p. 24)

第7章 上級者向け解説

第1節 「レスキュー可」にならない

スタンバイエリアの「スタンバイ関連」項目が レスキュー可にならない場合、以下に問題解決のヒントを示します。

保護が有効になっているか？

現在のボリュームが保護可能になっているか確認してください。

ボリューム更新が正常に終了したか？

更新の後には、必ずイベントログを確認してください。

システムボリュームは、起動ボリュームか？

アクティブに設定された起動ボリュームだけを保護することができます。

第2節 上級者向けレスキュー起動

1. Standby Disk Soloでレスキュー起動する方法

レスキュー起動は、以下に示す4通りの方法があります。

1. 「StandbyDisk Soloの設定」より[レスキュー設定] タブを選ぶ。そして[今すぐレスキュー起動]ボタンをクリックしてレスキュー起動・・・使用中、システムに問題が生じたが再起動を行ってない場合に利用します。テストとしてレスキュー起動をする場合は、次の[レスキュー起動のテスト]ボタンを使用してください。
2. 「StandbyDisk Soloの設定」より[レスキュー設定]タブを選ぶ、そして[レスキュー起動のテスト]ボタンをクリックしてレスキュー起動のテスト・・・スタンバイエリアの状態を試し、再び元のシステムに戻ることができます。再起動後、スタンバイエリア上のシステムから現在利用しているオリジナルのシステムに戻るようになっています。
3. レスキュー起動メニューが「3」回の起動失敗後に自動的に表示する・・・オートマチックブートフェイルカウンターが起動失敗の回数を数え、「3」回起動に失敗すると次に起動しようとしたときに、自動的にレスキュー起動メニューが表示されます。システム起動時に、StandbyDisk Soloサービスが実行できないかどうかを判断し、起動に失敗した数をカウントしています。規定は「3」回ですが、「2～10回」の任意の回数を設定することができます。レスキュー起動を行う場合には、起動メニューから[1.RescueBoot (レスキュー起動)]を選択します。
4. [Alt]+[CapsLock]キー入力によるレスキュー起動メニューの表示・・・起動メッセージ「Protected by StandbyDisk Solo」表示中に[Alt]+[CapsLock]キーを押す事によって、レスキュー起動メニューが表示されます。そして、起動メニューから[1.RescueBoot (レスキュー起動)]を選択します。この方法は、レスキュー起動の結果に関して十分に熟知している人が、十分注意の上利用してください。レスキュー起動中に何が変更されるのかを理解するために、まずレスキュー起動のテストを行うことをお勧めします。

2. レスキュー起動と起動回数

上級者ユーザーは、レスキュー起動ボタンを利用してさまざまな使い方の可能性を引き出すことができます。テストレスキュー起動を利用しないで、レスキュー起動を何度も繰り返し行う場合は、どのレスキュー起動でどちらの領域が起動されるのか(どちらが元のオリジナルなのか?)など、混乱することがあります。レスキュー起動後にどちらのファイルがカレントエリアになってどちらがスタンバイエリアになるかということがわかれば、この混乱が避けられるはずです。

このため、StandbyDisk Soloでは、最後にボリューム更新を行ってから、次にボリューム更新を行うまでのレスキュー起動の回数をレスキュー起動が行われるたびに、ユーザーに知らせます。ここでは、奇数回のレスキュー起動なのか偶数回のレスキュー起動なのかも知知らせます。更新もしくは復旧を行わず同じ状態のままである限り、すべての偶数回のレスキュー起動後に参照できるファイルは、同じ領域を利用しています。同様に奇数回のレスキュー起動後に参照できるファイルも、何らかの変更が行われないう限り、同じ領域を利用しています。このことから、レスキュー起動後のメッセージがレスキュー起動の回数が偶数回なのか奇数回なのかを知らせています。この区別は、1回以上のレスキュー起動を行った場合、どこにファイルがあるかを記憶しておく事で利用できます。最後にボリューム更新してから行ったレスキュー起動の回数は、「StandbyDisk Soloの設定」ウィンドウの[レスキュー設定]タブを表示して確認することができます。

ボリューム更新の後、カレントエリアとスタンバイエリアは、同じになります。この結果、奇数偶数のレスキュー起動回数を知らせるメッセージは表示されなくなります。ボリューム更新の後、偶数回のレスキュー起動システム上にいると考えてください。

一般的なユーザーに対しては、テスト及びレスキュー起動後にシステムに問題が生じるかどうかを確認する場合など、必要に応じて[レスキュー起動のテスト]を利用することをお勧めします。

関連項目:

レスキュー起動(p. 24)

「レスキュー設定」タブ(p. 486)

起動の失敗(p. 71)

第3節 起動の失敗

ごく稀に、システムが起動せず、さらにn回(2~10回)連続した起動を試した後レスキュー起動を行っても正常に起動しない場合があります。この場合オペレーティングシステム(OS)の機能を利用して、以下のような操作を行ってみてください。WindowsとStandbyDisk Soloの総合力と保護機構によりカレントエリアとスタンバイエリアを同時に修復できる可能性があります。

A. 確認事項

StandbyDisk Soloをインストールし、設定をきちんと行い、テストレスキュー起動が正常に動作していたのが確認されており、かつ、起動時ごとに「Protected by StandbyDisk Solo」のメッセージが表示されるが、レスキュー起動をしようとしてレスキュー起動メニューから1番を選択後、レスキュー起動に失敗している場合、以下の方法を試してみてください。

1. 起動時に「Protected by StandbyDisk Solo」のメッセージが表示されている間に[Alt]キーと[CapsLock]キーを同時に押してみてください。レスキュー起動メニューが表示されるので、1番のレスキュー起動を選択します。
2. Windows XP/Windows2000インストールCD、もしくはNTFSに対応したディスクユーティリティを利用して、CHKDSKなどファイルシステムを修復可能なツールを起動します。セーフモードの起動が可能であれば、起動時にF8を選択し、セーフモードとコマンドプロンプトを選択してCHKDSKを動作させることができます(Windows XP/Windows 2000の起動ディスク

では、NTFSに対してCHKDSKやSCANDISKを行うことはできません。

3. 再度レスキュー起動を行うため、システムを再起動し、[Alt] + [CapsLock]キーを押してレスキュー起動メニューからレスキュー起動を選択します（CHKDSKを実行した後に行ってください）。
4. それでも起動に失敗する場合には、Windows XP/2000のインストールCDから起動し、修復を行います。修復後、標準起動、レスキュー起動をそれぞれ試してみてください。
5. 他のバックアップツールで保存した最新のバックアップイメージを復元します。
6. メーカー提供の復元用CD（リカバリーCD）より、リストアします。
7. 修復のために再度システムを構築します。

B. レスキュー起動メッセージが表示されない場合

レスキュー起動メッセージが表示されない場合、MBR（マスターブートレコード）が不正な状態になっている可能性があります。Windows 2000/XPのインストールCDがある場合には、起動して緊急用のコンソールを起動してください、そこからFIXMBRツールを起動できます。またシマンテック社のSystem Worksのようなサードパーティが提供するユーティリティでMBRをクリーンな状態にしてみてください。ただし、MS-DOS/Windows版のFDISK/MBRを利用することはお勧めできません。NTFSを利用したシステムに対してDOS/WindowsのFDISKを使用した際の問題点が、マイクロソフト社から指摘されています。

第4節 アドミニストレータ権限のないユーザーに関して

アドミニストレータ権限のないユーザーは、StandbyDisk Soloを利用することはできません。アドミニストレータ以外のユーザーがStandbyDisk Soloを起動すると、StandbyDisk Soloエクスプローラで以下のメッセージが表示されます。

「StandbyDisk Soloサービスから応答がありません。ログオン中のアカウントにアドミニストレータ権限があることを確認し、StandbyDisk Soloサービスがインストールされて実行されていることを再確認して下さい。」

1. 使用制限

上記のメッセージが表示される場合、ログオンしたアカウントにはアドミニストレータ権限がありません。StandbyDisk Soloを利用するには、アカウントの権限を変更するか、アドミニストレータ権限のあるアカウントでログオンしなおす必要があります。ツールメニューから「StandbyDisk Soloの設定」を表示する事はできますが、設定を変更することはできません。

2. インストールとアンインストール

StandbyDisk Soloをインストールする場合も、アドミニストレータ権限が必要になります。アドミニストレータ権限がない場合、以下のメッセージが表示され、インストール作業を中止します。

「StandbyDisk Soloをインストールするには、アドミニストレータ権限が必要です。このアカウントには、アドミニストレータ権限がありません。」

インストールを行う場合には、アドミニストレータ権限のあるアカウントでログオンしなおす必要があります。

ます。また、アドミニストレータ権限のないアカウントでアンインストールを行った場合、エラーダイアログを表示します。アドミニストレータ権限がないアカウントでは、アンインストールをすることができません。

3. 更新スケジュールの登録:

スケジュールウィザードによって更新タスクをスケジュールに新しく登録する場合も、アドミニストレータ権限のアカウントが必要になります。詳しくは[アカウント情報](#)を入力項目を参照してください。

第5節 イベントログ/アプリケーションログ

StandbyDisk Soloでは、ボリュームやファイルの復旧、更新の動作結果や警告、エラー情報を「StandbyDisk Soloの設定」の[イベントログ]タブとOSの[イベントビューア]に記録しています。ログは、エラーや更新復旧が行われるたびに記録されます。エラー発生時だけでなく、正常に更新や復旧を行った確認が必要な場合には、必ず参照するようにしてください。

1. イベントログの参照方法

イベントログは、「StandbyDisk Soloの設定」の[イベントログ]タブより参照することができます。[すべてのプログラム(P) / プログラム(P)] → [StandbyDisk Solo] → [StandbyDisk Soloの設定] → [イベントログ]タブをクリックするとイベントの一覧が表示されます。

一覧から任意のイベントを選択すると、下段の「解説」欄に詳細情報を表示します。

このイベントログの内容はOSのイベントビューアと連動しており、同様の内容を表示しています。また、[ログをクリア(C)]ボタンをクリックすると、[イベントログ]タブとOSのイベントビューアの両方の内容を消去します。

2. アプリケーションログの参照方法

アプリケーションログは、Windows 2000及び Windows XPのイベントビューアより参照することができます。[コントロールパネル(C)]→[管理ツール]→[イベントビューア]をクリックするとイベントビューアが表示されます。StandbyDisk Soloがインストールされている場合、イベントビューアのリストにStandbyDisk Soloの項目が追加されています。

StandbyDisk Soloを選択すると右側に、これまで記録されたイベントが一覧で表示されます。「情報」、「警告」、「エラー」の3種類のイベントタイプがあります。「情報」は、問題の記録ではなく、StandbyDisk Soloの動作記録です。ディスクに空き容量が無くなった場合やロックされたファイルを更新しようとした場合など、外的要因で更新復旧などが行われなかった場合には、「警告」が記録されます。また、StandbyDisk Soloの動作に致命的な問題が発生した場合には「エラー」が記録されます。

3. 利用法

イベントログ／アプリケーションログは、以下の様な場合に利用できます。

◆更新・復旧の結果を表示する場合

復旧や更新の際、[タスクビュー]を閉じていると、結果を見ることができません。更新や復旧が確実に行われたかを確認するために、必ずイベントログ／アプリケーションログを参照するようにしてください。ディスクの空き容量が無かったために更新が完了しなかった場合もここに記録されます。

◆更新スケジュールの実行記録を確認

更新や復旧の結果は、エラー発生に関係なく記録されています。ログは、更新タスクを実行した日時も記録しますので、更新スケジュールタスクが決められた時間に正常に実行されたかを確認することができます。ここに実行記録が残されていない場合、タスクは実行されていません。

◆致命的なエラーが発生した場合のサポート資料

万が一StandbyDisk Soloを使用中に致命的な問題が発生した場合、ここにエラー発生状況が記録されます。サポートを受ける場合に必要の情報となりますので、必ず記録しておいてください。また発生時刻に近いシステムログや他のアプリケーションログを報告していただくと、問題の原因をより早く究明できます。

第6節 レジストリとフォルダ設定の同期

特殊なファイルやフォルダのプロパティなどの設定項目には、レジストリ内に保存されているものがあります(例:イメージフォルダの設定など)。ファイルの変更日時とファイルに関連付けられたレジストリキーの日時が異なる場合、復旧もしくはレスキュー起動のあとに、おかしい振る舞いが見られることがあります。これは、ファイルとそれを参照するレジストリキーとが別々に更新されたために起こります。このような問題は、バックアップ／リストアを行うどのツールでも発生しうる問題です。ファイルやフォルダ単位での個別更新、復旧の代わりに、毎回完全なボリューム更新を行うことによって解決できます。この方法でほとんどの場合正常に同期をとることができます。

たとえば、Windows XPで新規にサポートされている、エクスプローラのピクチャー表示もしくはミュージック表示のような表示方法において、この問題が発生します。この表示方法は、レジストリ内のキーによって、フォルダ用の機能として実現されます。ファイルシステム内のフォルダのヘッダーに保存されるデータを用いて行われるわけではありません。情報がシステムのレジストリに保管されるため、簡単に互いの同期に矛盾が生じてしまいます。レスキュー起動後、フォルダは更新されたときに、使用されていたものとは異なるモードで表示される可能性があります。これは、表示設定を失ってしまったためですが、エクスプローラメニューから簡単な操作で元に戻すことができます。

暗号化、圧縮、読取専用、隠し、システム、アーカイブ、名前、日時、所有者とセキュリティなどの属性は常にスタンバイエリア内のフォルダとともに保存されます。これらの内容は、復旧もしくは、レスキュー起動の後、関連性が狂うことはありません。

StandbyDisk Soloには、StandbyDisk NTSVR製品におけるOTMのようなサーバーレベルファイルの日時同期の機能はありません。このため、データベースやファイルとレコードの正確な時間の同期に依存したアプリケーションは、StandbyDisk Soloによって正常に更新、復旧されません。

第7節 ブートマネージャ

マイクロソフトのブートローダーがStandbyDisk Soloの操作を行っているシステムパーティション以外のパーティションに導入されている場合、StandbyDisk Solo自身は利用できますが、レスキュー起動はできません。これは、レスキュー起動を有効にするためには起動可能なアクティブパーティションにオペレーティングシステム(OS)が導入されている必要があるからです。

こうしたケースは、幾つかのブートマネージャが該当しますが、違うケースもあります。ブートローダーを保持するために、ある種のブートマネージャでは、小さなパーティションを作成する必要があります。この方法をとった場合でも、StandbyDisk Soloのインストール、ボリュームの保護、スタンバイエリアへのボリュームの更新が可能です。ただし、ファイル単位での保護は可能ですが、レスキュー起動する事はできません。ブートマネージャを利用する場合、StandbyDisk Soloが正常に動作するように、マイクロソフトの方法と同様にWindows XPもしくは、Windows 2000を起動させるようにしてください。

第8節 特殊なファイルの例

1. 更新されないファイルについて

カレントエリア内のファイルには、更新されない、もしくはされなかったように見えるファイルがあります。これはStandbyDisk Soloによって、更新が正しく行われなかったわけではありません。これらのファイルは、個別に更新を行っても、スタンバイ状態が「同期」となりません。

以下のようなファイルが該当します。

◆メモリスワップファイルなど、再起動時に新しく作成されるため更新する必要のないシステムファイル

起動ごとに新たに作成されるファイルは、スタンバイエリアに更新しません。これにより、空き領域を無駄に消費することを避けています。

◆ログファイルなどシステムやアプリケーションによって、絶えず更新されているファイル

更新したかに見えて、再度確認するとカレントエリアのファイルが新しくなっている場合があります（スタンバイ状態が「同期」にならない）。こうしたファイルは、スタンバイエリアに更新はされていますが、カレントエリアのファイルがすぐに変更されてしまうため、更新したように見えません。多くは、ログファイルなど記録ファイルなので、レスキュー起動時やシステムの復旧に影響を与えることはありません。他のアプリケーションが利用しているファイルの場合は、アプリケーションを終了することで、正しく更新されます。ボリューム更新は、動作中のアプリケーションを終了してから行うようにしてください（ただし、以下のファイルはStandbyDisk Soloでスタンバイエリアへの更新、復旧ができません）。

◆アプリケーションによってロックされた圧縮ファイル

動作中のアプリケーションによってロックされた圧縮ファイルはStandbyDisk Soloによって更新、復旧を行うことができません。動作中のアプリケーションの例として、Microsoft Outlookなどが挙げられます。StandbyDisk Soloがこのような状態のファイルを更新しようとした場合、「StandbyDisk Soloの設定」の[イベントログ]やイベントビューアに警告メッセージが記録されます。毎回、該当するすべてのファイルがレポートされます。ログファイルを参照することによって、どのファイルがスキップされたのか、どのファイルがロックされた圧縮ファイルなのかを確認することができます。この問題を解消するには、ファイルをロックするアプリケーション（Microsoft Outlookなど）がメモリーにない時間帯を想定して、更新スケジュールを登録するなり、手動で復旧を行うのがいいでしょう。あるいは、ファイルを常に非圧縮状態にしておくことで、この問題を防止することができます。

◆オペレーティングシステム(OS)によってコピーできないファイル

保護されたボリューム上にOSによってコピーできないファイルが含まれている場合があります。このようなファイルをStandbyDisk Soloが扱おうとした場合、「StandbyDisk Soloの設定」の[イベントログ]やイベントビューアにエラーが記録されます。具体的には、インターネットのURLアドレスなどがファイル名になっているタイプのファイルで、この場合にはファイル名がOSのサポート範囲の長さを超えてしまってコピーができません。このようなタイプのファイルが「Temporary Internet Files」フォルダの中に存在する可能性があります。このような、手動でコピーができないようなファイルはStandbyDisk Soloによっても、そのファイルについては処理が失敗する可能性があります。

第9節 更新スケジュールにおける問題

更新スケジュールを登録し、実行させるには、**アドミニストレータ権限**が必要になります。アドミニストレータグループに所属するユーザーだけがスケジュールタスクを起動させることができます。ユーザーIDにパスワードが設定されていない場合、スケジュールタスクが正常に動作しない可能性があります。パスワードの設定されたアドミニストレータグループに所属するアカウントで、スケジュールウィザードを設定してください。

スケジュールタスクは、他のタスクや同時に他のユーザーがStandbyDisk Soloへアクセスをおこなって、ブロックされることなく動作します。スケジュールされたStandbyDisk Soloタスクが、レスキュー起動の後、動作するようにスケジュールされていた場合、ボリュームの更新またはフォルダの個別更新が行われるまでの間、スケジュールが実行されようとしたときには**警告メッセージ**が表示されます。

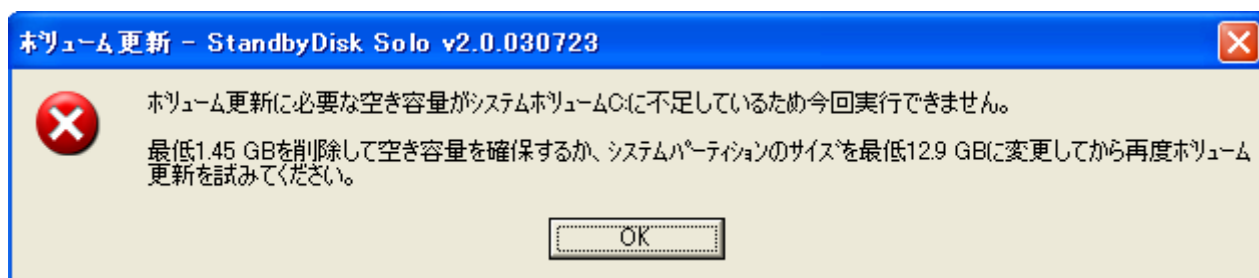
日単位、週単位、月単位という大雑把なスケジュールよりも、さらに細かな更新の計画を立てるには、Windowsタスクスケジューラの詳細設定が必要になります。**スケジュールウィザードの完了ページ**で「拡張プロパティ」のチェックボックスをマークすることにより、スケジュールの詳細な設定を行うことができます。StandbyDisk Soloは、スケジュール更新毎にWindowsタスクスケジューラに対して、実行ファイル名(SoloCmdLine.exe)およびパラメータを渡す必要があります。そのため、プロパティダイアログを開くと、フィールド内に実行するファイル名およびStandbyDisk Soloによってセットアップされたパラメータが表示されます。このフィールド内のデータは実質上、編集可能ですが、変更しないでください。

SoloCmdLine.exeのパラメータが変更された場合、スケジュールは正常に動作しなくなります。

第10節 ディスクの空き容量に関して

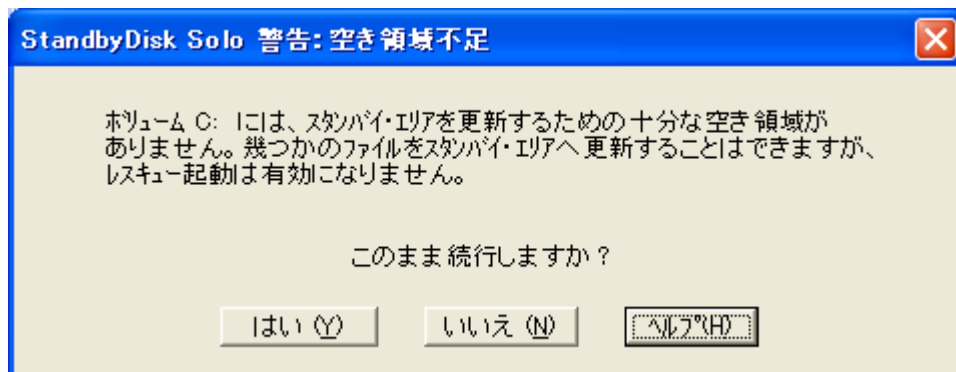
StandbyDisk Soloの難点は、通常必要なディスク容量に対し2倍の容量が必要になるということです。StandbyDisk Solo自体はさほどディスク容量を必要としませんが、インストールを行う際に、2倍の容量が必要になるのです。

StandbyDisk Soloをインストールする際、すでにボリューム全体の50%以上の領域が使用されているような場合には、空き容量不足を示す内容の**警告メッセージ**を表示します。



不要なファイルを削除し、システムボリュームの空き領域を十分に確保することによってインストールが完了し、StandbyDisk Soloを使用できます。

また、StandbyDisk Soloをインストールした後、初めてボリューム更新する際に、すでにボリューム全体の50%以上の領域が使用されている場合には、StandbyDisk Soloはボリューム更新時に完全な保護ができないという内容の警告メッセージ(レスキュー起動が無効=完全な保護ができない)を表示します。



すべてのファイルとフォルダが完全に更新されない場合、StandbyDisk Soloによるレスキュー起動が利用できません。不要なファイルを削除し、システムボリュームの空き領域を十分に確保することによってボリューム更新が完了し、StandbyDisk Soloのすべての機能が使用できます。

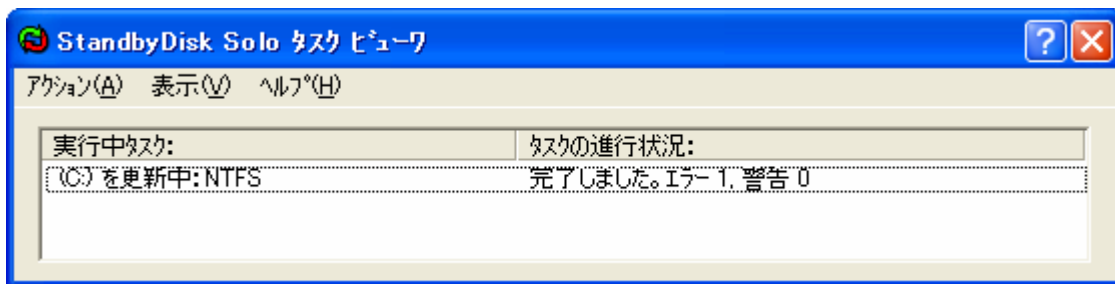
StandbyDisk Soloは、ファイル数が増えることによりディスクの空き領域が無くなることは当然ながら防止できません。インストール及び最初のボリューム更新の際にのみ、空き領域が少なくなっていることの警告があります。

ユーザーが想定する約半分のディスク容量でディスクスペースは一杯になってしまいます。

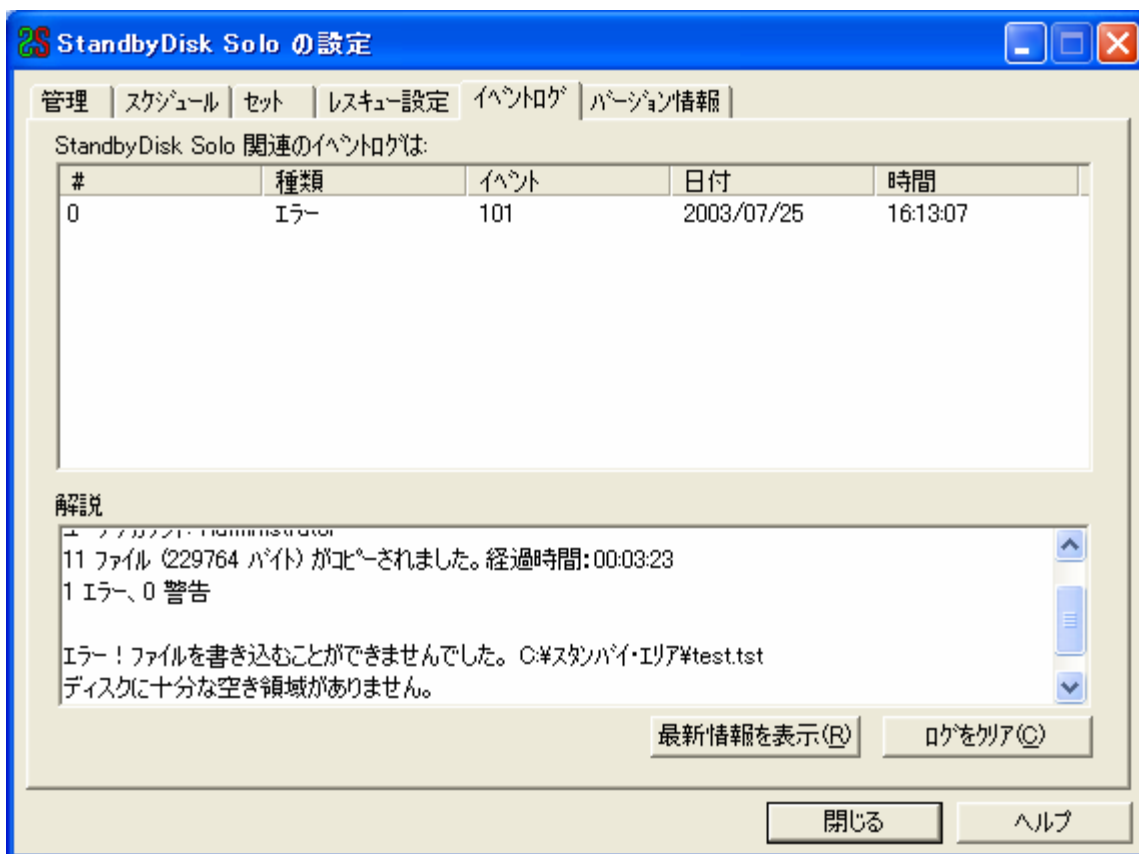


ボリューム更新をしばらく行っていなかったときなどは、更新を行う前に現在のカレントエリアの使用量をチェックするように心がけて下さい。もしシステムボリュームが一杯になってしまったら、ボリュームの保護を一旦解除し、ディスクの使用量をチェックします。予めシステムボリュームに十分な空き容量を確保するようにして下さい。

StandbyDisk Soloでは、最高のパフォーマンスが得られるように、タスクによる空き容量の監視は行っていない。



そのため、普段からディスク上の空き領域をチェックしておくことが重要です。ディスクスペースがすべて使用されてしまうと、StandbyDisk Soloは、ディスクスペースが十分でないことを「イベントログ」に記録します。



このようなエラーが発生する前に、システムボリューム上で使用されていないファイルを削除する、パーティションの再設定などによりシステムボリュームのサイズを変更する、あるいは、ディスクのアップグレードを行うなどの処置を事前にとることをお勧めします。データ量が増えることによって発生するこれらの対策は避けることができません。とはいえ、StandbyDisk Soloによる復旧準備は可能な限りのディスクブロックを有効利用するので、他のパーティションにディスクイメージを置くよりも無駄のない方法であることは確かです。

StandbyDisk Soloの基本条件が ボリューム単体で行うところにあるため、利用可能なディスクブロックを有効活用するためには複数のパーティションを統合した方がよいでしょう。

StandbyDisk Soloでは、スタンバイエリアのボリューム更新が完了しなかった場合、レスキュー起動を行うことができません。十分に空き領域のないボリューム上でStandbyDisk Soloを起動した場合、レスキュー起動の機能は使えず、いわゆるファイル主体のバックアップ復元機能のみが有効となります。この場合、選択したファイルを個別にスタンバイエリアへ更新することができます。

第11節 ユーザーの簡易切り替え機能(FUS)との併用

ここではWindows XPにおけるユーザーの簡易切り替え機能とStandbyDisk Soloの併用する際の注意点について解説します。

他のアプリケーションと同様、FUSを利用して複数のユーザーによって使用状況が重なってしまう環境では(たとえば更新中に復旧を行おうとするなど)、StandbyDisk Soloは有効に使えません。そのような事がないように、FUSを利用する場合は、ユーザーサイドでもソフトウェアの使用をうまく管理する必要があります。とくにタスクをスケジュールに登録する際に、ユーザー間での連絡が悪く協調されていないと、同様の問題が発生する可能性があります。

◆失敗例:

1台のPCをユーザーAとユーザーBで共同利用していた場合
ユーザーAが5分間隔でユーザーBの意向を聞かずにボリューム更新を行うようにスケジュールに登録したとします。そのような場合に、スタンバイエリア上のデータをそのまま保持したいユーザーBの意思に反して、スケジュールされたタスクはユーザーBが保持しているファイルも含め、すべてのファイルを更新してしまいます。

上記のような例の通り、基本的にすべてのアドミニストレータ権限のあるユーザーは、StandbyDisk Soloがインストールされていること気付き、他者の使用方法などにも気を使いながら使用するべきです。

タスクのスケジュールリングに関しては、一人のユーザーがコントロールするか、使用規則を決めて、連携しながら管理するのが良いでしょう。たとえば、個々のユーザーは、自身のプロファイル(C:\¥Documents and Settings¥Username)の更新スケジュールだけを設定するように規則を決める、というようなことが考えられます。これにより、他のユーザーに影響を及ぼすことはありません。管理者は、ボリューム全体もしくは、オペレーティングシステム(OS)の部分だけを対象とするようにボリュームの更新スケジュールタスクを設定するようにします。

第12節 ユーザー単位のディスククォータ機能

本製品は、システムボリューム上でのユーザー単位によるディスククォータ機能に対応していません。ディスククォータをシステムボリューム上で利用している場合には、StandbyDisk Soloをインストールする前に**必ず**ユーザーディスククォータをオフにしてください。

ユーザーの使用ボリュームがユーザー単位のディスククォータを超えてしまうと、StandbyDisk Soloの更新作業がメッセージと共に途中で停止します。StandbyDisk Soloはスタンバイエリア更新の際にユーザーのディスク使用領域を2倍に増やします。このとき、システムボリュームにユーザー単位のクォータが設定されていると、ユーザーのクォータを超えてしまった場合にファイルの書き込みがクォータ機能によって阻止されてしまい、StandbyDisk Soloによる更新作業は失敗します。なお、StandbyDisk Soloによって保護されていない他のボリュームに対してディスククォータを設定することは、可能です。

第13節 マウントされたボリュームの取り扱い

マウントされたファイルシステム上のファイルは、スタンバイエリアへ更新されません。それらのファイルが、実際には、保護されていないボリューム上に存在するからです。しかしながら、StandbyDisk Soloエクスプローラからは、マウントされたボリュームが仮想的に参照できてしまいます。その状態で操作を行った場合、StandbyDisk Soloエクスプローラの表示では、とくに問題無いように見えていても、マウントされたボリューム内のスタンバイ状態を見ることはできません。

マウントポイントのフォルダは、これらのフォルダだけがスタンバイエリアへ更新されるため、「**カレント / スタンバイ ファイル比較**」に表示されてしまいます。レスキュー起動後は、マウント「状態」だけが正

常に復元されます(※マウント先のボリュームの内容が変更されることはありません)。

ここで注意する点があります。ボリューム更新後マウントされたファイルシステムをアンマウントしようとした場合、カレントエリア及びスタンバイエリアの2つのマウントされたボリュームが存在します。確実にアンマウントを行うには、カレントフォルダのアンマウントを行った上で、スタンバイエリアの更新を行ってください。こうすることで、スタンバイエリア上のフォルダもアンマウントされます。もしも更新を行わずに、スタンバイエリアのフォルダがマウントされたままの状態に残された場合、カレントエリアでアンマウントされたはずのボリュームが、再度レスキュー起動後にマウントされてしまいます。ただし、マウントしたフォルダをアンマウントの上削除し、スタンバイエリアより復旧してもマウント状態は、復旧されません。逆も同様です。これは、マウントに関する情報がフォルダ以外の場所で保持されているためです。

第14節 ドメイン型ネットワークにおけるトラストの破壊

レスキュー起動後にドメインへログオンできない、もしくはネットワークに接続できないことがあります。これは「トラストの破壊」と呼ばれる現象によるものです。トラストの破壊は、NTワークステーションのレスキュー起動時に発生します。ドメインは、ワークステーションとドメインコントローラ間の暗黙のトラスト関係に依存しています。

以下の状況でレスキュー起動を実行すると、トラストが壊れることがあります：

状況 1

ドメインに接続してから7日以内に、ボリューム更新が行なわれています。7日を経過するとカレントエリアのマシナアカウントパスワードが変更されます。この際にレスキュー起動すると、パスワードが一致せずに、ワークステーションをネットワークに接続できなくなります。

状況 2

ドメインに接続してから7日が経過した後に、ボリューム更新が行なわれています。再度カレントエリアのパスワードが変更されます。この際にレスキュー起動すると、パスワードが一致せずに、ワークステーションをネットワークに接続できなくなります。

上記現象が発生した場合はワークステーションをドメインに追加することでネットワークに接続することができます。以下の手順を辿ります。

1. ワークステーションでネットワークコントロールパネルを開き、変更をクリックします。
2. ドメインから一時的なワークグループに変更します。
3. OKをクリックし、ワークステーションが再起動されないようにNoを選択します。
4. ネットワークコントロールパネルに戻り、ドメインに再接続します。
5. 「DomainNameドメインへようこそ!」というメッセージが表示され、パスワードがリセットされます。
6. ワークステーションを再起動します。

マシナアカウントのパスワードにコンフリクトが発生しないように、定期的なパスワード変更を無効にすることもできます。但し、無効 にすることによって、NTのセキュリティモデルが後退することを理解しておいてください

付録1 用語の説明

StandbyDisk Soloでよく使用される用語が下記に解説されています。詳しい操作法及び機能の解説については、別途解説項目をそれぞれ参照して下さい。

◆スタンバイエリア

StandbyDisk Soloがデータ保護のために用いる、ユーザーから通常アクセスすることのできない隠されたデータ領域のこと。起動ボリューム(通常はボリュームC:)内にあり、中にあるファイルやフォルダ内容が更新されるたびに、動的にサイズが変わります。

◆カレントエリア

起動可能ボリューム領域のうち、ユーザーによるアクセス可能な領域のこと。StandbyDisk Soloで管理をする前と言えば、ボリューム全体の内容と同等です。StandbyDisk Soloをセットアップした後と言えば、スタンバイエリアにボリューム更新した後の、ボリューム全体からスタンバイエリアを除いた部分になります。

◆レスキュー起動

スタンバイエリアの内容と、カレントエリアの内容とを入れ替えるデータ障害時における復旧作業。以前のカレントエリアの内容は、スタンバイエリアに退避されます。レスキュー起動するには、「StandbyDisk Soloの設定」の「レスキュー設定」タブから「今すぐレスキュー起動」をクリックする方法、レスキュー起動メニューから「1」を選択する方法、スタートメニューから「レスキュー起動」を選択する方法があります。

◆レスキュー起動メニュー

システム起動時の特定の場合に表示され、レスキュー起動を実行するかどうかをユーザーに問うメニュー画面のこと。StandbyDisk Soloの設定が正常に行われている場合、起動に3回(3回が既定 2~10回に設定可能)失敗すると、レスキュー起動メニューが自動的に表示されます。また、起動に失敗しない場合でも「Protected by StandbyDisk Solo」という一文が起動画面に表示された直後に[Alt]キー + [CapsLock]キーを同時に押すことで、強制的にレスキュー起動メニューを表示させることも可能です。このキー操作は、レスキュー起動を理解した熟練者だけが利用するようにお勧めします。

◆保護を有効にする

保護を有効にするとは、StandbyDisk Soloがスタンバイエリアをボリューム上の見えない領域に作成し、「更新作業」を行えるよう準備をすることを意味します。

◆更新

カレントエリアからスタンバイエリアへのファイルコピー作業のこと。2種類の更新タイプがあります。1つは、「ボリューム更新」と呼ばれ、カレントエリア内で前回の更新以来新規に変更のあったすべてのファイルを更新します。もう1つは、(ファイル/フォルダの)「個別更新」で、ファイルやフォルダを個別に選択し、スタンバイエリアを更新します。更新すると、同じ名前のファイルやフォルダは上書きされます。

◆復旧

スタンバイエリアに保管されているファイルやフォルダを選択し、カレントエリアへコピーする作業のこと。フォルダを個別復旧すると、その中に含まれるすべてのファイル及びサブフォルダと共に、スタンバイエリアからカレントエリアに復旧します。復旧すると、同じ名前のファイルやフォルダは上書きされます。

付録2 コマンドおよびパラメータ

上級者向けの使い方として、コマンドによるStandbyDisk Soloの運用があります。具体的には、StandbyDisk Soloがインストールされたフォルダ（既定はC:\Program Files\NetJapan\StandbyDisk Solo\）内にある、RescueBoot.exeやVolumeUpdate.exeというプログラムを実行することで、GUIを使うことなくレスキュー起動やボリューム更新が可能になります。これらとWindows 2000やWindows XPのバッチ処理コマンドと組み合わせて使うことで、処理の自動化や一元管理が可能になります。

以下に、コマンドの書式とパラメータを紹介します。

◆レスキュー起動の実行

●書式

RescueBoot [スイッチ]

| スイッチ | スイッチ名 | 機能 |
|--------|----------------------------|--|
| /HCD | Hide Confirmation Dialog | レスキュー起動の確認ダイアログをスキップします【要注意】 このスイッチを付けて実行すると、Windowsが自動的に終了し、レスキュー起動します。Windowsが再起動されても StandbyDisk Solo のメッセージが表示されないため、カレントエリアとスタンバイエリアが入れ替わったことに気付かないことがありますので運用時には十分な注意が必要です。 |
| /HID | Hide Information Dialog | レスキュー起動後に情報ダイアログを隠します |
| /UAR | Update volume After Rescue | レスキュー起動完了直後にボリューム更新を開始します 【要注意】 このスイッチを付けて実行すると、レスキュー起動後のボリューム更新が完了するまで操作を中止することができないので運用時には十分な注意が必要です。 |
| /P:pwd | Password | パスワード機能が有効な場合、指定することでパスワード入力ダイアログをスキップします |
| /? | 詳細説明 | コマンドのヘルプ画面を表示します |

●書式

Rescueboot /HID

（レスキュー起動後に表示される情報ダイアログを隠します。）

◆ボリュームの更新

●書式

VolumeUpdate [スイッチ]

| スイッチ | スイッチ名 | 機能 |
|--------|--------------------------------|---|
| /HCD | Hide Confirmation Dialog | ボリューム更新を促す確認ダイアログをスキップします 【注意】 このスイッチを付けて実行すると、確認ダイアログが表示されずにボリューム更新されるため、運用時には注意が必要です。 |
| /NWB | No Wait Batch process finished | バッチファイルから実行する際にコマンドが終了するのを待たずにプロンプトを返します |
| /P:pwd | Password | パスワード機能が有効な場合、指定することでパスワード入力ダイアログをスキップします |
| /? | 詳細説明 | コマンドのヘルプ画面を表示します |

●スイッチの使用例：

VolumeUpdate /HCD

(ボリューム更新を促す確認ダイアログをスキップします。)

◆パスワード管理

●書式

SSPassword [スイッチ]

| スイッチ | スイッチ名 | 機能 |
|--------|---------------|--|
| /P:pwd | Password | 現在のパスワード(必須入力) |
| /N:pwd | New password | 新しいパスワードを設定する /N: <u>ブランク</u> にした場合はパスワード機能が無効になります |
| -RB | Rescue Boot | RescueBoot.exeがパスワードを要求しないように設定する 入力ダイアログを表示しなくなる パスワード機能を有効 |
| -VU | Volume Update | VolumeUpdate.exeがパスワードを要求しないように設定する 入力ダイアログを表示しなくなる |
| /? | 詳細説明 | コマンドのヘルプ画面を表示します |

●スイッチの使用例:

SSPassword /P:password /N:pass

(パスワードを現在の「password」から「pass」に変更します。)

索引

A

ALT+CAPSLOCK..... 24, 70

C

Capslock..... 24, 71, 81

CHKDSK..... 71

F

FDISK..... 71

M

MBR 71

N

NTFS..... 10, 20, 64, 70, 71

O

OS10, 14, 45, 48, 49, 71, 79, 81

R

RescueBoot.exe..... 82

S

StandbyDisk Solo エクスプローラ 16, 22, 27, 33, 34, 36, 37

T

Tasks.exe..... 60, 76

Temporary Internet Files..... 75

V

VolumeUpdate.exe..... 83

W

Windows 2000 10, 14, 71, 74

Windows 2000 Professional..... 10

Windows 2000 Server..... 10

Windows XP 10, 14, 71, 74

Windows XP Professional..... 10

Windows エクスプローラ 16, 34, 36, 37

Windows タスクスケジューラ 22, 60, 76

あ

アカウント..... 14, 54, 72, 76

アップグレード..... 22, 29, 33, 51, 52, 62, 64, 76

アプリケーションログ 42, 72, 73, 75

アンインストール 33, 72

い

インストール..... 8, 10, 14, 16, 20, 31, 33, 34, 71, 72, 74, 76

| | |
|-------------|---|
| う | |
| ウィザード | 8, 14, 47, 55, 60 |
| え | |
| エクспローラ | 8, 14, 16, 20, 22, 27, 29, 32, 34, 36, 37, 74, 79 |
| か | |
| カレントエリア | 8, 16, 20, 22, 24, 27, 31, 36, 37, 68, 70, 71, 79, 81 |
| き | |
| キャンセル | 34, 36, 42, 45, 48, 49, 56, 68 |
| け | |
| 検索エンジン | 28, 63 |
| こ | |
| コマンド | 82 |
| さ | |
| サーバー | 74 |
| サービス | 14, 70, 72, 81 |
| し | |
| シリアル番号 | 14 |
| す | |
| スイッチ | 82 |
| スケジュール | 8, 20, 22, 29, 30, 36, 37, 47, 53, 54, 55, 56, 58, 59, 60, 72, 76, 79 |
| スケジュールウィザード | 22, 29, 53, 54, 55, 56, 58, 59, 60, 72, 76 |
| スタートメニュー | 14, 16, 20, 29, 33 |
| スタンバイエリア | 8, 14, 16, 18, 20, 22, 24, 27, 30, 31, 32, 33, 34, 36, 37, 45, 53, 56, 58, 64, 67, 68, 69, 70, 71, 74, 75, 76, 79, 81 |
| スタンバイソフト | 60 |
| スタンバイ状態 | 37, 67, 68, 75, 79 |
| た | |
| タスク設定 | 37, 42 |
| タスク表示ウィンドウ | 42 |
| タブ | 14, 16, 22, 24, 29, 33, 36, 37, 42, 45, 47, 48, 49 |
| っ | |
| ツール | 14, 22, 29, 32, 37, 72 |
| て | |
| テストレスキュー起動 | 8, 24, 30, 31, 48, 49, 66, 70, 71 |
| は | |
| バージョン情報 | 29, 37, 51, 52 |
| バックアップ/復元 | 31, 74, 76 |
| パラメータ | 82 |
| ふ | |
| プロパティ | 14, 22, 58, 60, 76 |

| | |
|-------------------|---|
| ほ | |
| ボリュームの選択 | 16, 34, 36 |
| ボリューム更新 | 8, 14, 16, 20, 22, 24, 27, 29, 30, 31, 36, 42, 48, 49, 62, 64, 68, 70, 74, 76, 79, 81, 83 |
| ま | |
| マスターブートレコード | 71 |
| ゆ | |
| ユーザー | 8, 14, 16, 20, 22, 30, 48, 49, 51, 52, 53, 54, 70, 72, 76, 79, 81 |
| れ | |
| レスキュー | 8, 16, 20, 22, 24, 27, 29, 30, 31, 32, 36, 37, 45, 48, 49, 62, 64, 66, 69, 70, 71, 74, 76, 79, 81 |
| レスキュー可 | 20, 24, 36, 70 |
| レスキュー完了 | 24, 36, 45 |
| レスキュー関連 | 20, 24, 36, 45 |
| レスキュー起動 | 8, 16, 20, 22, 24, 27, 29, 30, 31, 32, 45, 48, 49, 62, 64, 66, 69, 70, 71, 74, 76, 79, 81, 82 |
| レスキュー起動の実行 | 82 |
| レスキュー起動メニュー | 8, 24, 31, 48, 49, 69, 70, 71, 81 |
| レスキュー設定 | 48, 49, 70, 81 |
| レスキュー不可 | 24, 36, 45 |
| ろ | |
| ログ | 14, 20, 24, 42, 62, 64, 72, 76 |
| ログオン | 72 |
| ロック | 20 |
| 漢字 | |
| 拡張プロパティ | 60 |
| 確認 | 20, 27, 32, 34, 36, 42, 45, 60, 67, 68 |
| 管理 | 14, 16, 24, 29, 34, 36, 37, 45, 79 |
| 奇数回 | 24, 48, 49, 70 |
| 起動 | 8, 10, 14, 20, 24, 29, 30, 31, 48, 49, 66, 69, 70, 71, 74, 81 |
| 起動可能 | 8, 22, 70, 74, 81 |
| 空き領域 | 14, 18, 20, 32, 34, 36, 45, 62, 64, 67, 76, 79 |
| 空き領域不足 | 20, 62, 64, 76 |
| 偶数回 | 24, 48, 49, 70 |
| 月単位 | 53, 58, 76 |
| 更新 | 8, 14, 16, 18, 20, 22, 24, 27, 29, 30, 31, 33, 36, 37, 47, 48, 49, 51, 52, 53, 56, 58, 59, 60, 62, 64, 67, 68, 70, 72, 74, 75, 76, 79, 81 |
| 更新スケジュール | 22, 29, 36, 47, 60 |
| 最適化 | 14 |
| 使用特許契約書 | 14 |
| 失敗 | 8, 24, 29, 31, 48, 49, 70, 71 |
| 週単位 | 53, 58, 76 |
| 障害 | 8, 22, 30, 31, 81 |
| 設定ウィンドウ | 29, 33, 36, 60, 81 |
| 日単位 | 8, 53, 58, 76 |
| 比較 | 16, 22, 36, 37, 79 |
| 普通の起動 | 24, 31, 48, 49 |
| 復旧 | 8, 14, 16, 20, 22, 27, 29, 30, 31, 37, 67, 72, 74, 75, 79 |
| 保護された | 8, 10, 14, 16, 20, 22, 24, 31, 34, 36, 37, 45, 48, 49, 55, 62, 64, 68, 70, 71, 74, 75, 76, 79, 81 |
| 保護の解除 | 18, 29, 32, 36 |
| 保護を有効にする | 16, 18, 34, 45, 53, 64, 67, 74, 76, 81 |

本書に記載の内容は予告なしに変更される場合があります。

© Copyright 2003 StandbySoft LLC All rights reserved.

Microsoft, Windows, Windows 2000, Windows NT 及び Windows XP は、Microsoft Corporation の登録商標です。

StandbyDisk 2000-XP Pro, StandbyDisk NTSVR は株式会社ネットジャパンの商標です。

他の全ての製品名およびブランド名は各社の商標または登録商標です。

StandbySoft LLCの書面による許可がない限り、一部または全部を無断で転載、複写、複製することはできません。